阪南市埋蔵文化財報告XXII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XII

１９９７年

阪南市教育委員会

はしがき

本書で報告する調査は、国庫補助事業として個人住宅等の建設工事に先立って実施したものです。この調査は、工事によって最も深く掘削がおよび、遺構や遺物といった埋蔵文化財に影響がある擁壁や浄化槽、建物基礎部分のみの調査です。そのほとんどが数m²程度のものですが、向出遺跡における縄文時代後期から晩期にかけての土器の出土等、これまでの調査では確認されていない新たな事実が判明した調査もありました。

小規模で地道な調査も重要である事をあらためて認識した今年度の調査の報告をここに行います。今後も市独自の文化財保護条例の設置、歴史資料館の建設等文化財保護行政の充実に努力をしていく所存です。市民の皆様のご協力、ご理解をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回の調査にご協力下さった土地所有者をはじめとする関係者の方々に感謝の意を表します。

１９９７年3月

阪南市教育委員会
教育長　庄司菊太郎

例　言

1．本書は、阪南市教育委員会が、平成８年度国庫補助事業として計画し、社会教育課が担当実施した阪南市内遺跡発掘調査概要報告書である。
2．調査は、阪南市教育委員会社会教育課主任三好義三、同課職員田中早苗、上野仁を担当として実施した。
3．本書内に示した標高は、T.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したものを除いて磁北である。
4．調査にあたっては、調査地の土地所有者等関係各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5．本書の執筆・編集は、上記の調査担当者が行った。また、実測図等の作成は、下記の調査従事者による。
6．本調査における記録は、実測図、写真、カラースライド等に保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

（調査従事者）
宇沢克之、辻野　勝、伊庭　勉、太田敏治、甲斐　易、松原仁司、和田旬世、井上祥子、井上　進、外池美渡里、射手矢由紀子、福森由記、木村真喜、滝本奈保子、問谷由春

目　次

第１章　調査に至る経過		1
第２章　歴史的環境		2
第３章　調査の成果		
第１節　尾崎海岸遺跡	90－１区	5
	96－１区	11
第２節　下出北遺跡	96－１区	11
第３節　下出遺跡	96－２区	12
第４節　馬川北遺跡	95－１区	13
	96－１区	13
	96－３区	14
第５節　馬川遺跡	96－１区	15
	96－２区	15
	96－３区	15
	96－４区	16
第６節　向出遺跡	96－１区	17
	96－２区	17
第７節　西畑遺跡	96－１区	18
第８節　神光寺（蓮池）遺跡	95－４区	18
	95－５区	19
	96－２区	19
	96－５区	20
第９節　自然田遺跡	96－２区	20
	96－３区	21
	96－４区	21
第10節　鳥取北遺跡	96－１区	21
第11節　貝掛遺跡	96－２区	22
	96－３区	23
第12節　戎遺跡	96－１区	23
	96－２区	24
第13節　和泉鳥取遺跡	96－１区	24
第14節　箱作今池遺跡	95－11区	24
	95－16区	26
	95－19区	27
	95－21区	27
	96－１区	30
	96－２区	34
	96－６区	34
第15節　田山東遺跡	96－１区	34
	96－２区	35
第４章　まとめ		36

第１章　調査に至る経過

阪南市は大阪府の南西端に位置し、東は泉南市、西は泉南郡岬町、北は大阪湾、南は和泉山脈を越えて和歌山県に接する。

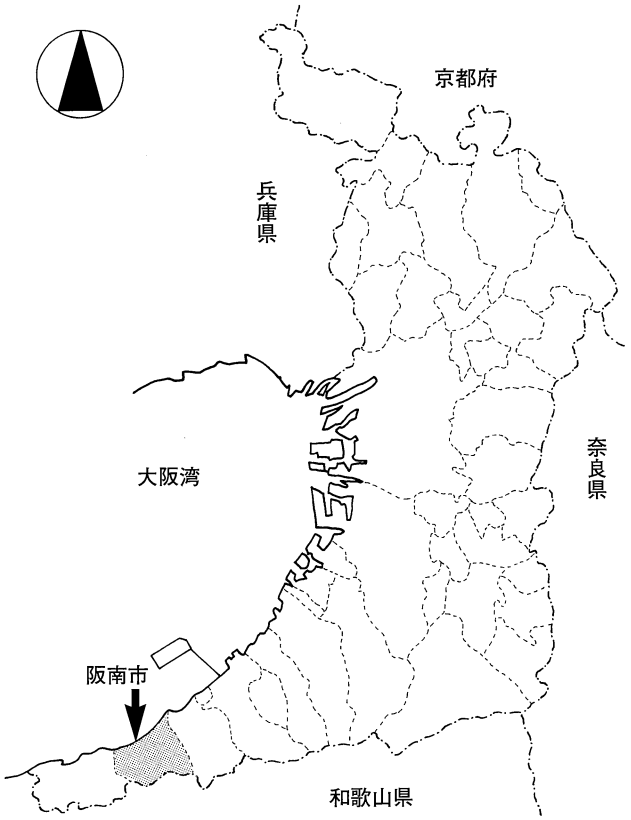
地勢的には東西8.5km、南北6.8km、面積は36.05km²の市域を有し、約４分の３は山地である。気候は瀬戸内式気候に属し、温暖で比較的雨量が少ない。

大阪の中心部より約45km、和歌山市の中心部より約10kmの距離にある為、各都市のベッドタウン的な性格を呈し、人口は57,104人（1997年1月31日現在）である。

1994年９月には今世紀最後の大プロジェクトとされる、関西新空港が開港した。それに伴った開発事業が盛んに行われ、埋蔵文化財発掘調査によって阪南市の歴史に新たな事実が付け加えられたが、調査された遺跡はすべて破壊された。また、阪南市域で途切れている泉州地方の幹線道路である第２阪和道も延長に向けて埋蔵文化財の調査が始まり、新しい発見が期待される。

さらに開発が盛んになる一方で、旧村落の歴史的町並みの面影を、一部で現在も良好に残している。当市ではこうした町並みの状況を把握するために、1990年度に調査を実施した。

埋蔵文化財においては、1982年に第１巻を発行した阪南市の埋蔵文化財発掘調査報告書も今年ですでに22冊になった。本市では1985年度より国庫補助事業として、個人住宅・農業用倉庫等の建築に先立って調査を実施している。本書では主に1996年度の報告を15遺跡36ヵ所行うものであるが、尾崎海岸遺跡90－１区の報告は、1990年度に工事中発見され、この度報告を行うものである。



第１図　阪南市位置図

第２章　歴史的環境

阪南市は大阪平野の南部に位置する。地形上の特徴で大きく分けると、和泉山脈、山麓から海岸近くまでひろがっている阪南台地、男里川低地の３つの地域になる。現在の人々の生活区域は、阪南台地、男里川低地にあり、市域で周知されている埋蔵文化財包蔵地とも一致する。

調査成果からみられる遺跡の概要を時代別に以下に述べる。

阪南市域において、人類の形跡がみられる最古のものとして、神光寺（蓮池）遺跡から採取された「柳又型」と呼ばれ縄文時代草創期と考えられる有茎尖頭器があげられる。また、縄文時代のものとしては明確な遺構は検出されていないが、玉田山、自然田、向出、貝掛、箱作今池、田山遺跡で石鏃等が、馬川北、高田遺跡で晩期の土器が出土している。

弥生時代になると、神光寺（蓮池）、尾崎海岸、馬川、馬川北、久保田、鳥取南、箱作今池遺跡で遺構・遺物を確認している。神光寺（蓮池）遺跡では、中期の方形周溝墓と土器、石包丁、石鏃等を検出している。また、海浜部に位置する尾崎海岸遺跡では、弥生時代末期～古墳時代初期の製塩土器を含む遺構を検出している。

古墳時代中期になると、市域で古墳が造築され始める。中期の古墳としては、茶屋川左岸台地に築造されていた小型の帆立貝式古墳の箱作古墳、現在の阪南市役所の位置に築造されていた皿田池古墳の存在が、文献史料等からうかがえるが現存はしていない。後期になると、市の東部の雨山から延びた丘陵地に高田山古墳群、釈迦坊川の形成する谷の東側に塚谷古墳群、玉田山の西山麓と西山腹に玉田山古墳群が築造されたが、現存するのは玉田山古墳群のみである。調査が実施された玉田山１号墳からは、須恵器の長頸壷、金環、銀環、琥珀製棗玉等多数の副装品が出土し、それらは６世紀末から７世紀前葉のものと思われる。

奈良時代では、波有手、貝掛、箱作今池、田山遺跡があげられる。波有手遺跡では、多量の製塩土器と「海」「水」「省」「佐土」等と記された同時期の墨書土器30数点が、土坑や溝等から出土している。貝掛遺跡では、奈良三彩の長坏が、田山遺跡では、円面硯、墨書土器が出土し、箱作今池遺跡では、堀立柱建物群を検出している。

平安時代になると、馬川遺跡で複弁蓮華文軒丸瓦、下出遺跡で均整唐草文軒平瓦が出土している。また、その南西部に位置する平野寺（長楽寺）跡で複弁蓮華文軒丸瓦や均整唐草文軒平瓦を採取している。

中世期以降になると、市域の各遺跡で遺構・遺物が確認できる。その中でも、特徴的なものとして、田山遺跡、下出遺跡、井山城跡があげられる。

田山遺跡では、瓦器の椀・皿、瓦質羽釜、土師質土器小皿・皿、陶器摺鉢・甕等の生活雑器のみでなく、蛸壷、土錘の漁労関係の遺物を焼成したと考えられる土坑を検出している。また輸入陶磁器（青磁、白磁等）が多く出土していることも特徴としてあげられる。

下出遺跡では、瓦器椀や瓦をはじめとする遺物が出土し、瓦器椀を埋納している土坑墓や多数のピットを検出している。この下出遺跡を横断するように信長街道が通っており、中世期以降の村の存在が推測される。さらに本遺跡内の各所で、平安時代からこの時期にかけて

の瓦片が出土していることから、寺院等が存在していた可能性を思わせる。

また、井山城の存在は、在地領主の残した「軍忠状」等の文献史料によって、飯ノ峯川流域の山地に想定されていた。関西空港建設に伴う阪南丘陵開発の事前調査により、丘陵頂部・斜面において、中世の山城の特徴である土手や石垣等の曲輪状遺構や礎石建物跡とともに、土師器、瓦器、陶磁器が出土し、考古学的に中世の山城の存在が実証されることとなったが、残念ながら開発のため現存はしていない。

近世期になると、市域には14ヵ村の存在が、当時の絵図をはじめとする文献史料から判り、尾崎、下出、黒田、新、波有手、石田、中、自然田、山中、桑畑の村々は「鳥取庄」、箱作、貝掛、舞、山中新田の村々は「下ノ庄」に属していた。前述の村々のうち、明治期に廃絶した「舞村」の存在は貝掛遺跡の発掘調査によって溝、井戸等のほか、鍛冶炉と考えられる焼けた土坑とそれに関連する建物跡が検出し、考古学的に実証された。

近世期の村々の様子は、現在の尾崎地区で町場としての尾崎村、山中渓地区で紀州街道の宿場町としての山中村等にその様子をしのばせる町並みがみられる。

この時期には様々な産業が栄えていたことは、当時の文献史料や民俗資料からうかがえるが、そのなかでも和泉砂岩の加工業があげられる。和泉砂岩の採掘場であるミノバ石切場の発掘調査によって、採掘坑、ノミ、サキノミ、ヤ等加工用の鉄製品や、石臼、手洗鉢等の製品・未製品が多量に出土している。それらの石切場等で仕事していたと考えられる「石工」の存在は、『和泉名所圖會』や全国各地に存在する石造物の銘文からうかがえる。

以上に述べたのが、埋蔵文化財を中心とした歴史的環境の概要である。以下に今年度の国庫補助事業にともなう調査成果を報告する。

（参　考）

『阪南町史』　上巻　阪南市　１９８３年

『阪南町史』　下巻　阪南市　１９７７年

『田山遺跡』　㈶大阪文化財センター　１９８３年

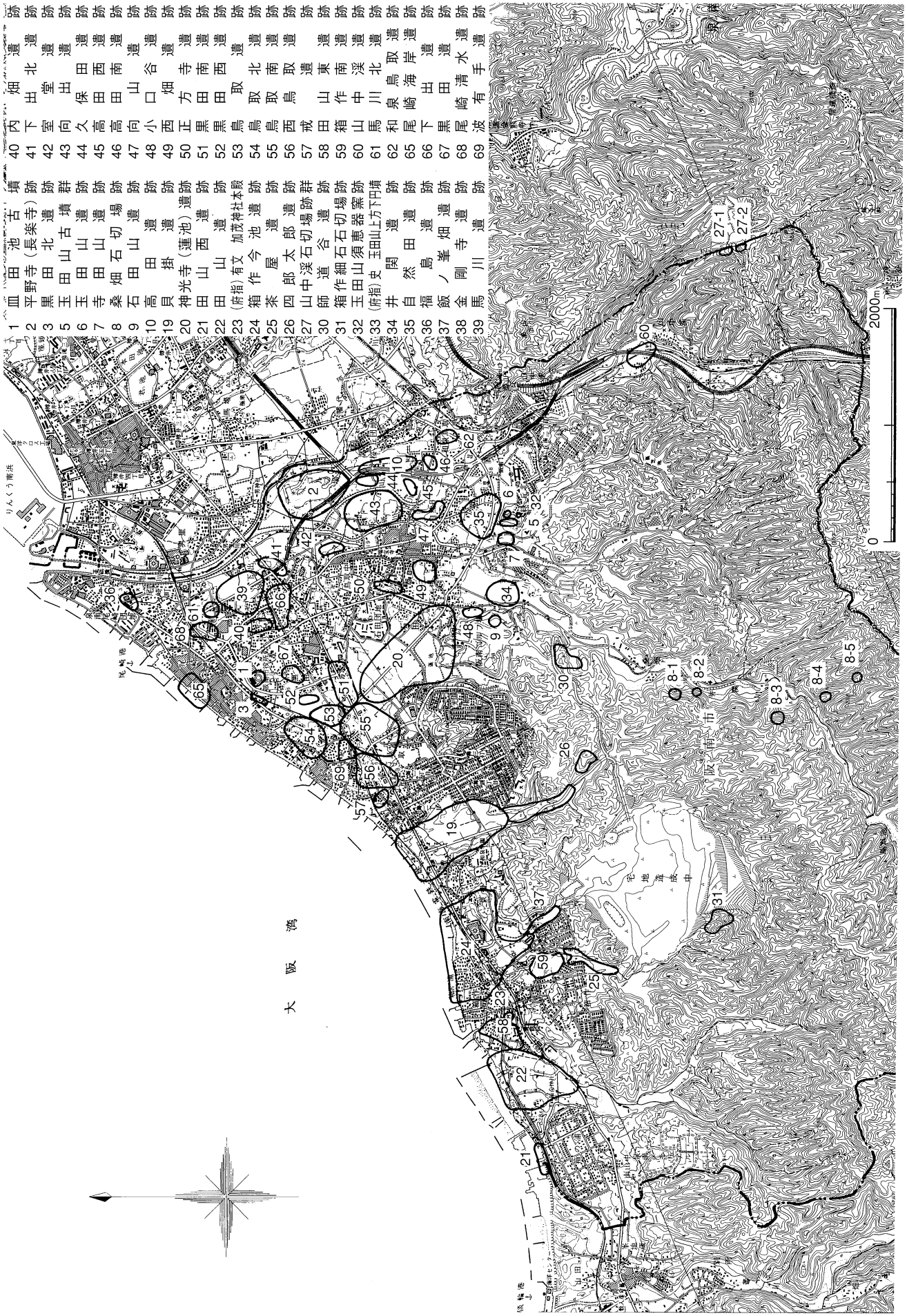
『田山・神光寺発掘調査概要』　阪南町教育委員会　１９８６年

『井山城跡』『貝掛遺跡』　㈶大阪府埋蔵文化財協会　１９８６年

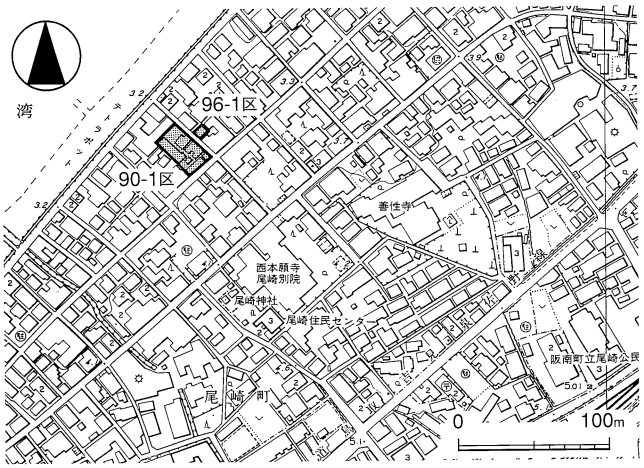
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅷ』　阪南市教育委員会　１９９３年

『波有手遺跡』　阪南市教育委員会　１９９５年

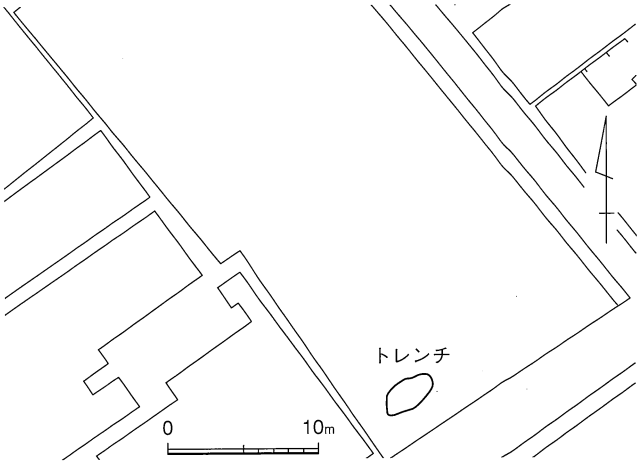
『阪南市埋蔵文化財発掘調査概要Ⅺ』　阪南市教育委員会　１９９６年



第２図　阪南市内埋蔵文化財分布図



第３図　尾崎海岸遺跡　調査区位置図



第４図　尾崎海岸遺跡90-1区　トレンチ位置図

第３章　調査の成果

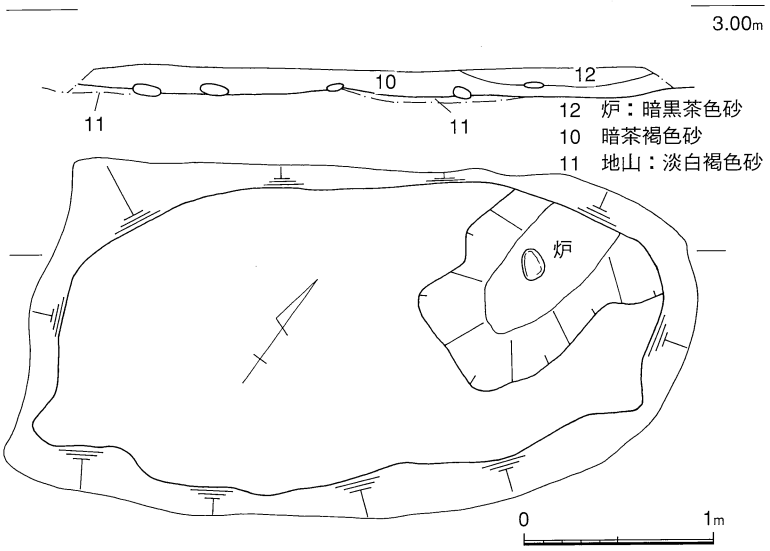
第１節　尾崎海岸遺跡

90－１区

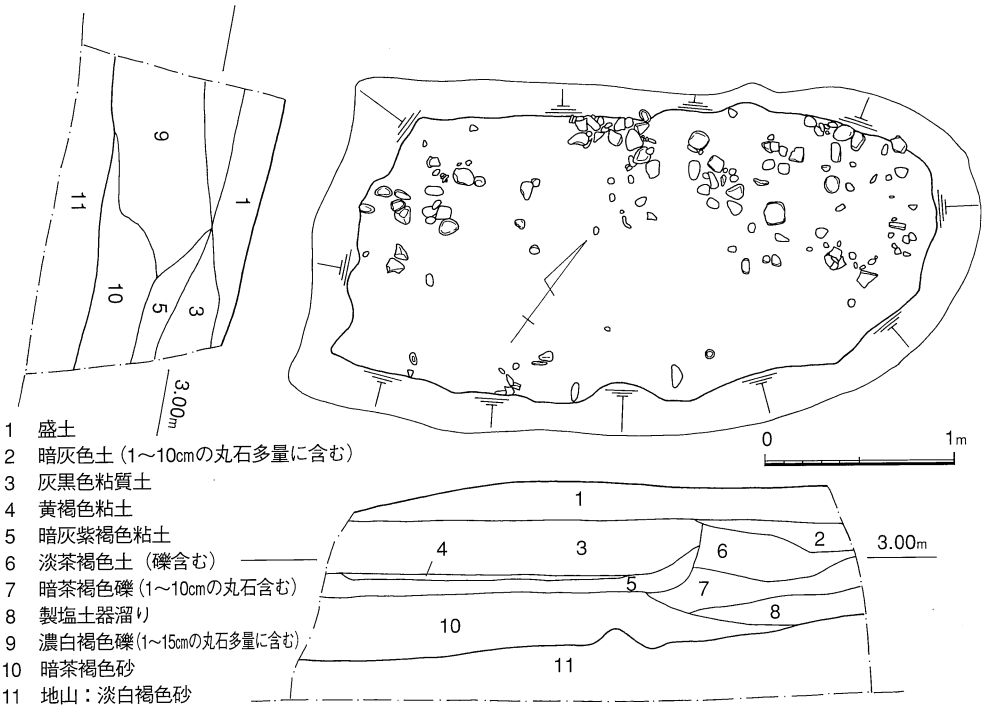
a．調査の概要

調査区は、近世～近代期まで、大阪と和歌山を結ぶ「浜（孝子越）街道」の街場として栄えた「尾崎村」の中心部分にあたり、現在の海岸線までわずか50mの場所に位置する。

本調査区は、個人住宅の建替え工事中、大量の製塩土器が出土した事により周知された遺跡である。そのため、調査は通常のようにトレンチを設定して行うのではなく、建築工事によって「田」字型に掘削された基礎の部分に囲まれた僅か６～７㎡程度の台状の部分を調査することとなった。この



第５図　尾崎海岸遺跡90-1区　第3層上面遺構平面図



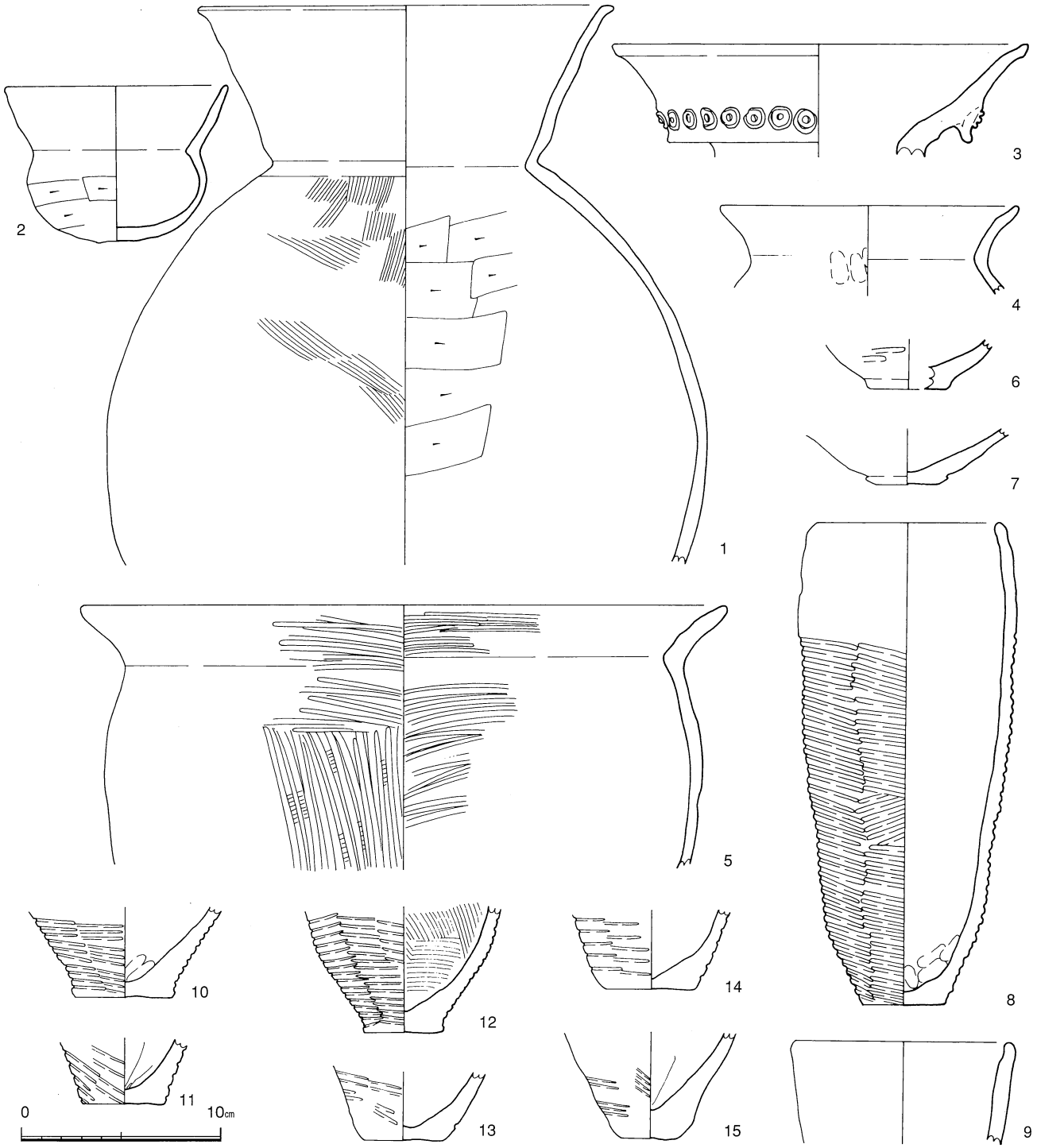
第６図　尾崎海岸遺跡90-1区　第2層上面遺構平面図

部分を３面に分けて掘削し、遺構確認を行った。最上面は、近世～近代期の整地層で、第２面以下は砂層であった。

ｂ．遺構

第２面以下の砂層に大量の庄内～布留期の土器が溜っている層が確認できた。また、この土器とともに扁平な石を敷き詰めた跡を確認した。

第２面から第３面への掘削段階で、土器溜りを検出した。この土器のほとんどが製塩土器の細片で蛸壷片も若干含まれており、後述する第３層上面で検出した「炉」で使用した土器等をまとめて廃棄した跡ではないかと考えられる。



第７図　尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（1）

第３層上面で炭化物は含まれていなかったが、周囲の砂と比して黒い部分を確認した。1.15m×0.8m以上、確認面からの深さは0.05mを呈しており、「製塩炉」ではないかと考えられる。

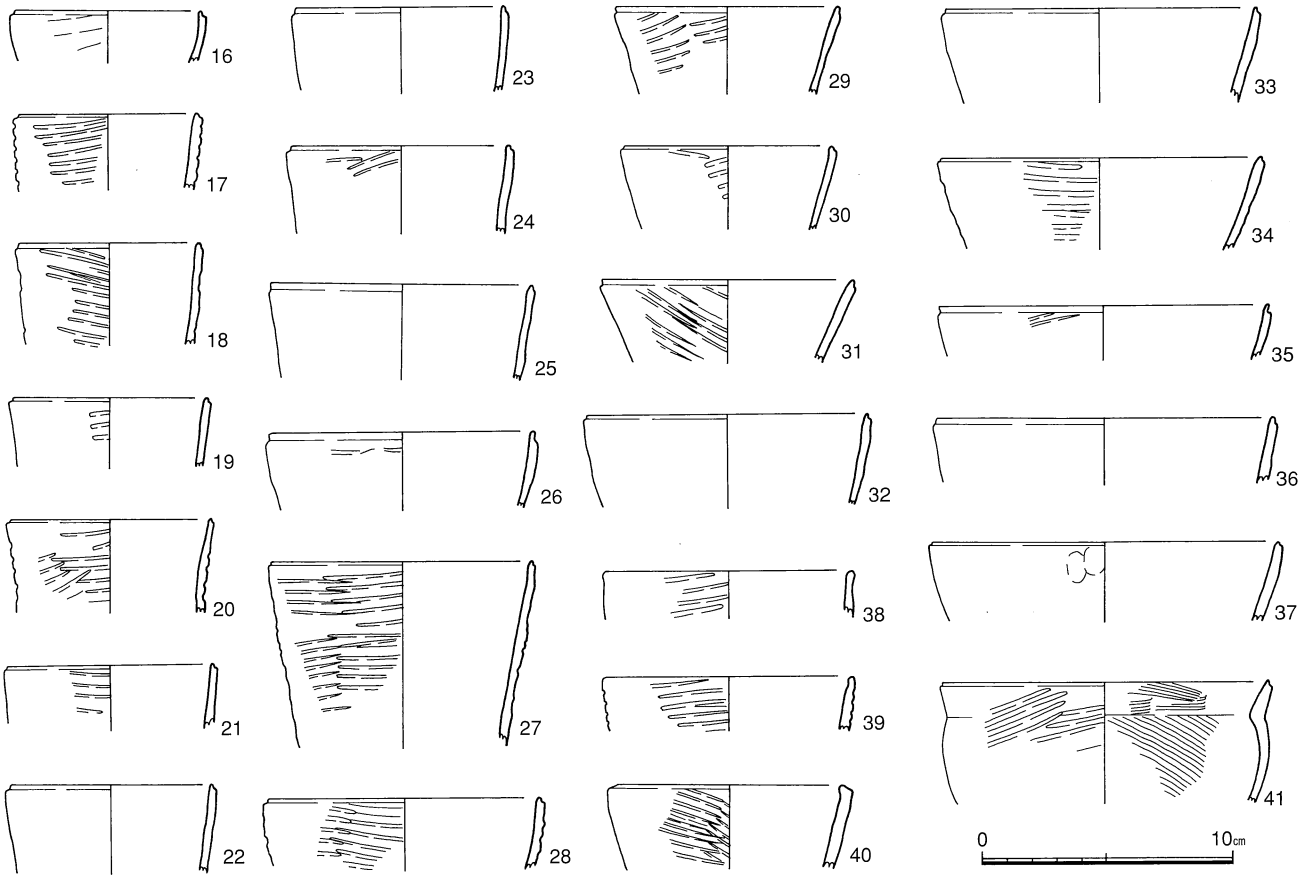
ｃ．遺物

遺物の１・２は布留期である。１は壷で口縁部はヨコナデ、体部外面ハケメ、内面ヘラケズリ、２は小型坩で底部外面をヘラケズリ、他はヨコナデを施している。

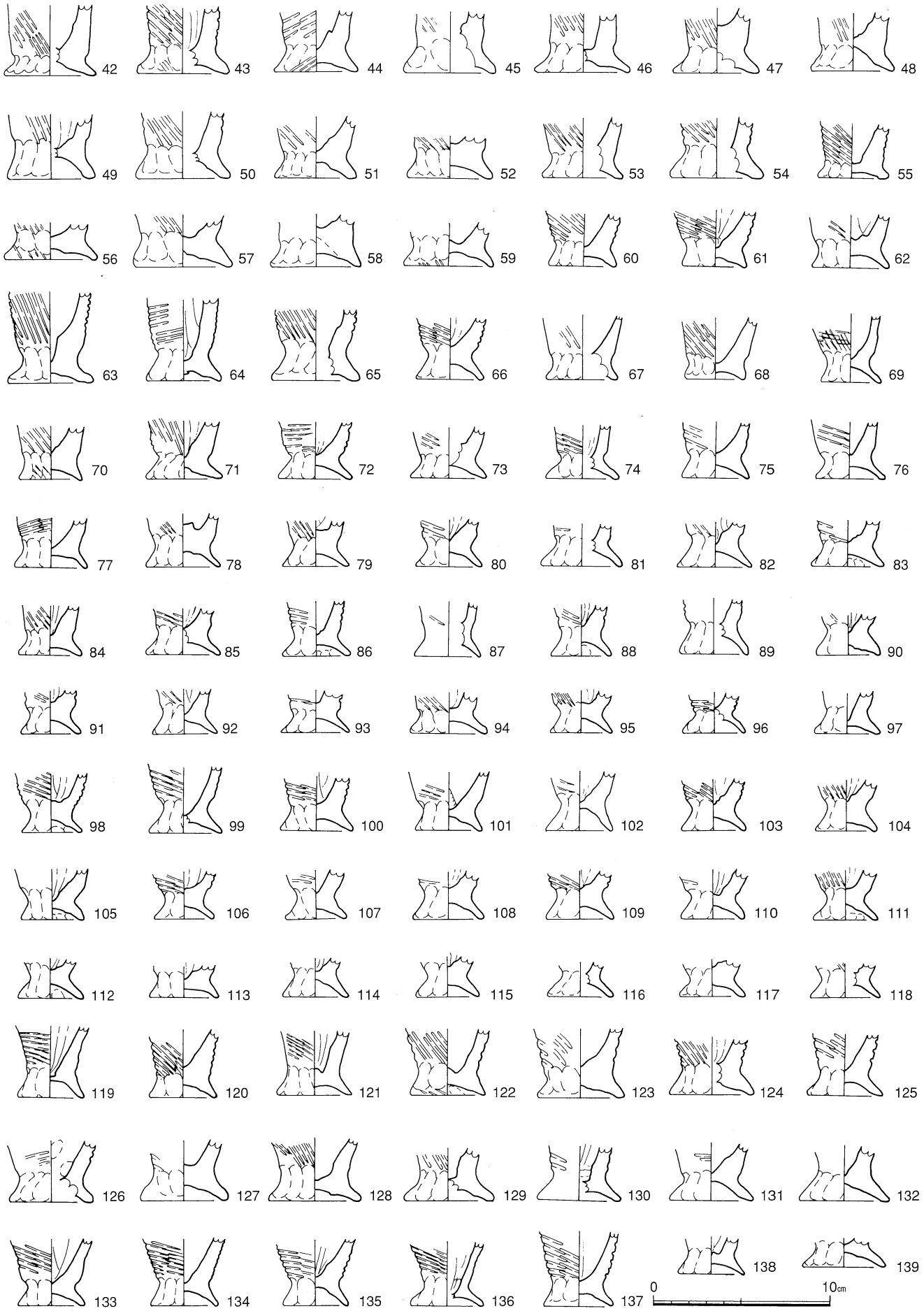
３～７は庄内期の土器で、３は二重口縁の壷で竹管文を施した円形浮文を貼付けている。４～７は甕である。４の口縁部はヨコナデ、体部内外面はヘラケズリを行なう。５は体部外面にタタキを施し、縦方向のヘラミガキによって消されており、その他は横方向のヘラミガキである。６・７は壷または甕の底部で、いずれも磨滅が激しい。

８～15は蛸壷である。その内、８は唯一全体の大きさが分かるものである。口縁部はヨコナデ、底体部外面はタタキを施し、体部内面ナデ、底部内面は強いナデで器壁を削り取っているが、12の内面には板状工具による強いナデが残る。また、15は底部接地面に木の葉圧痕がみられる。

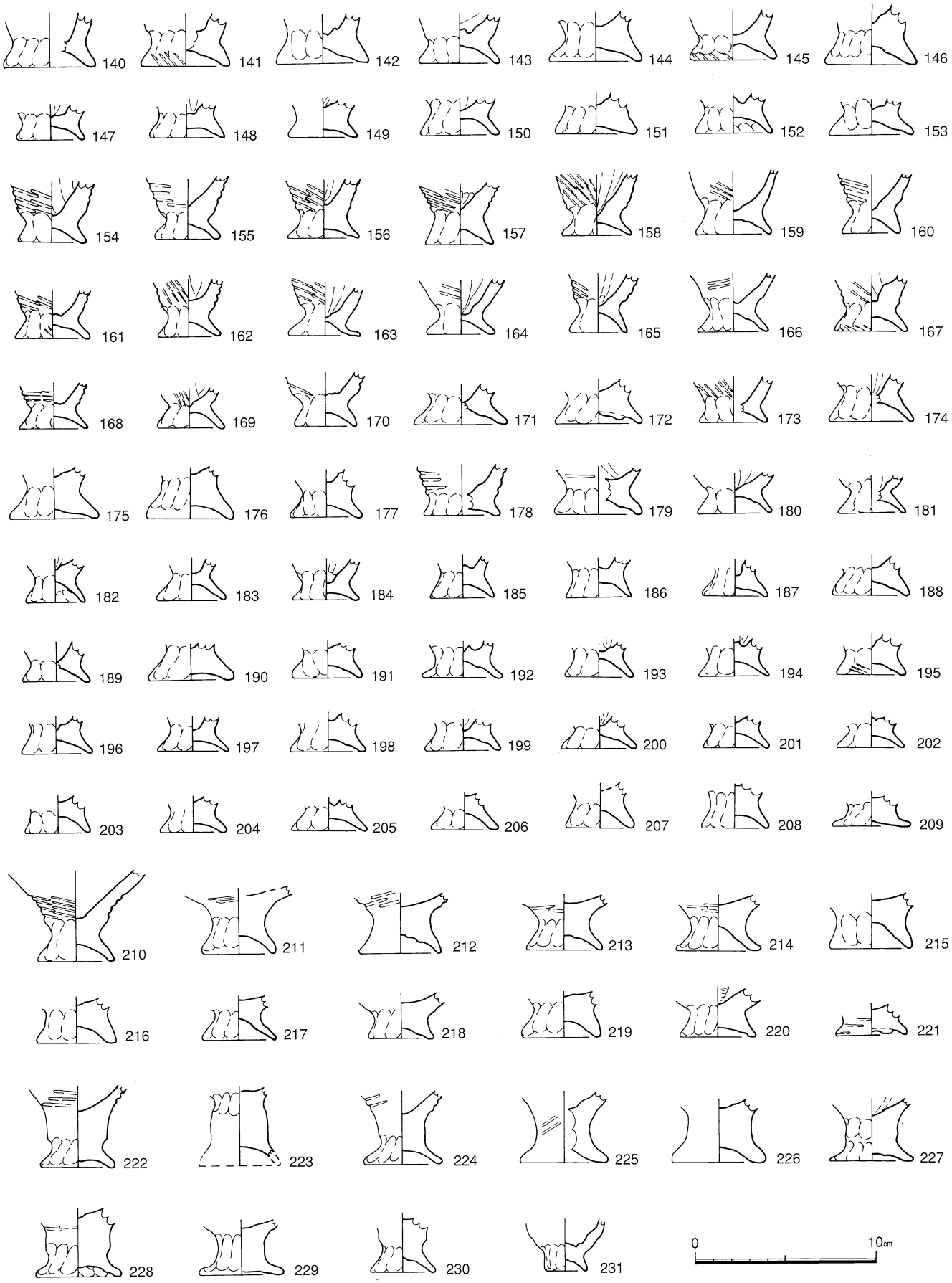
16～231は製塩土器であるが、完形品はなかった。16～41は口縁部で、大別すると16～40の直線的に立ち上がるものと、41の頸部がくびれるものの２タイプに分類される。さらに直線的に立ち上がる口縁部は、16～37のように端部に沈線のあるものと、38～40の沈線のないものに分かれる。42～231は底部で、42～221の脚台の低いもの、222～230の高いもの、231の脚径が小さく体部が内湾気味に立ち上がるものの３タイプに分類される。この内、脚台が低いタイプには、42～209の体部が直線的に上方に立ち上がるものと、210～221は上外方に開いて立ち上がるもの



第８図　尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（2）



第９図　尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（3）



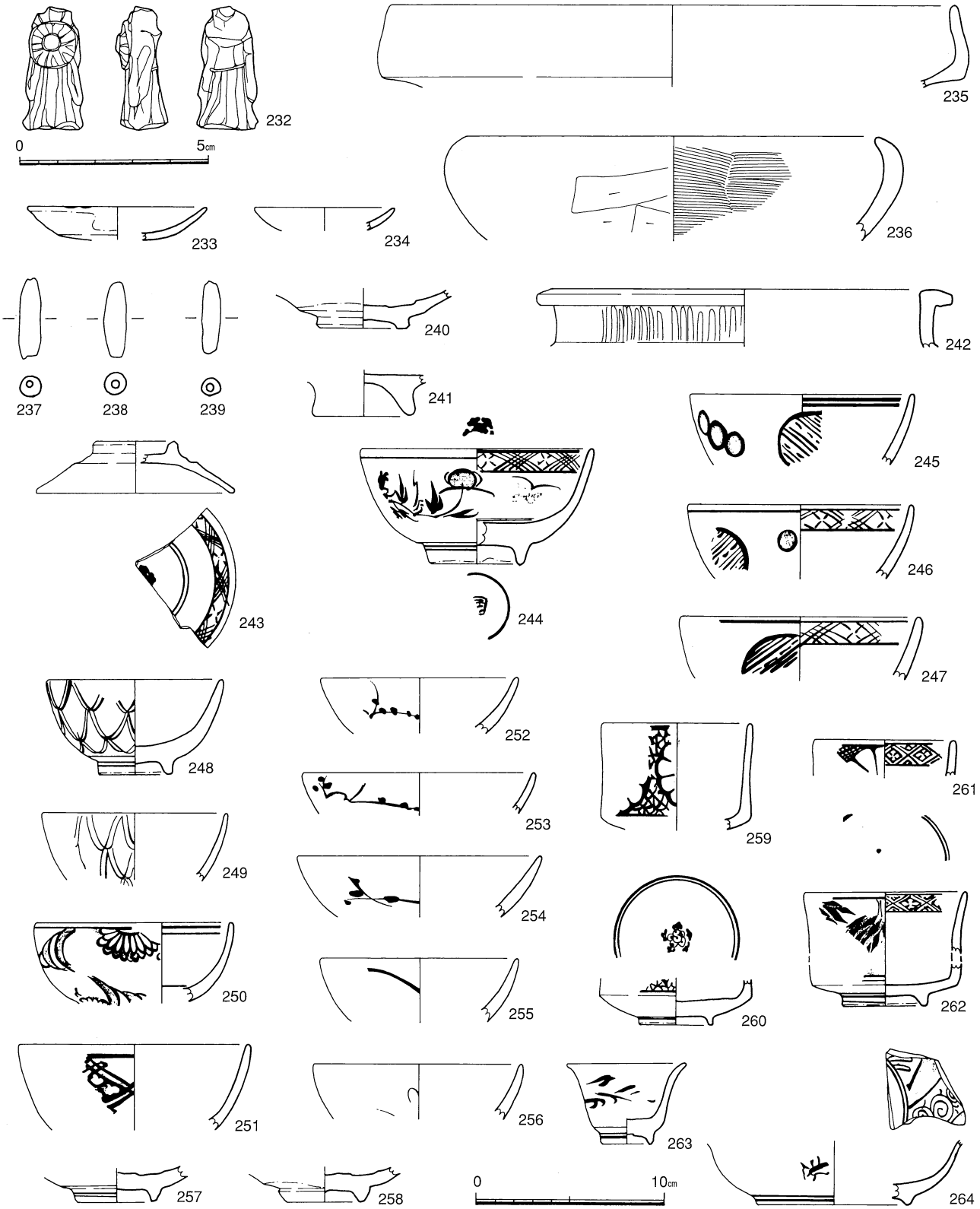
第10図　尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（4）

があるが、前者はさらに脚部のくびれ方や脚台径の大きさなどで細かく分類される傾向がある。

232～239は土師質土器で232は土人形、233・234は柿釉小皿、235は焙烙、236は火鉢、237～239は管状土錘である。

240～242は陶器で240は皿、241は椀、242は鉢である。

243～264は伊万里で、243の蓋はいわゆる伊万里青磁といわれるものである。244～258は碗、



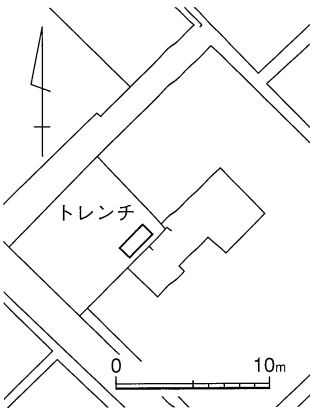
第11図　尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（5）

259～262は筒型碗、263は猪口、264は皿である。232～264は第１層から出土した。

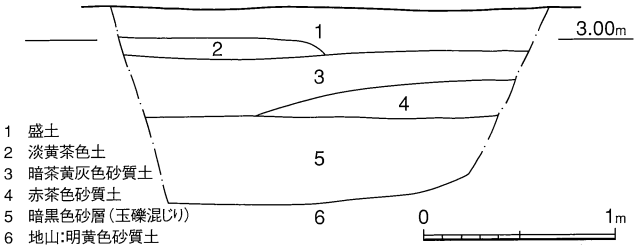
96－１区

ａ．調査の概要

本調査区は、尾崎海岸遺跡の北端部、海岸線より約50mの地点に位置する。調査は、調査区東部に2.3m×0.9mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層淡黄茶色土、第３層暗茶黄灰色砂質土、第４層赤茶色砂質土、第５層暗黒色砂層、第６層明黄色砂質土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第３・４層から土師質管状土錘、陶器、瓦、第５層から弥生時代の製塩土器の体部が出土したが、細片のため図化し得なかった。



第12図　尾崎海岸遺跡96-1区
トレンチ位置図



第13図　尾崎海岸遺跡96-1区　トレンチ南側断面図

第２節下出北遺跡

96－１区

ａ．調査の概要

本調査区は、下出北遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区中央部に1.5m×0.8mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層淡黄茶色土、第４層明茶黄色土の無遺物層であった。第３層の上面で溝を検出した。

遺物は、第３層から土師器、土師質管状土錘、陶器、磁器、瓦が出土した。

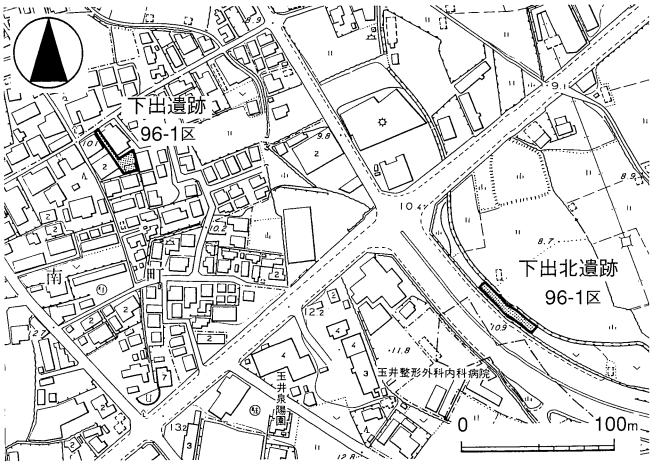
ｂ．遺構

－溝－

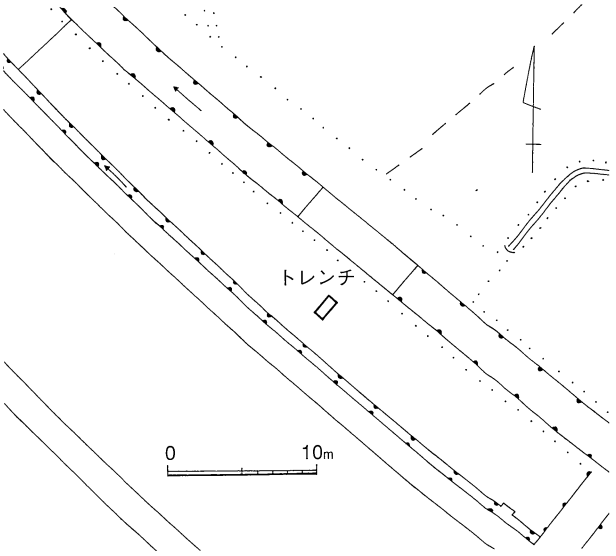
深さは１m以上を呈する。遺物は、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦が出土した。それらの遺物より近世期以降のものと思われる。

ｃ．遺物

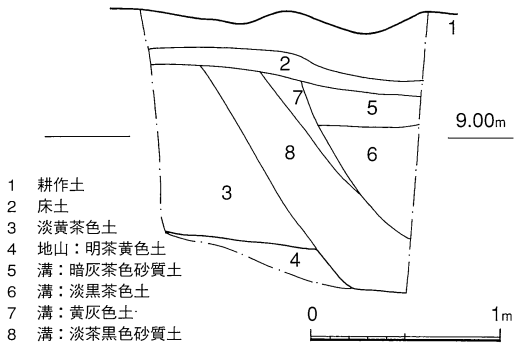
先述した遺物の内、図化し得たのは、以下の５点であった。



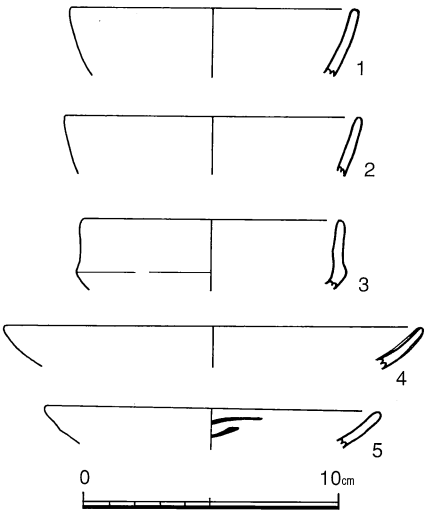
第14図　下出北遺跡・下出遺跡　調査区位置図



第15図　下出北遺跡96-1区　トレンチ位置図



第16図　下出北遺跡96-1区トレンチ北側断面図



第17図　下出北遺跡96-1区　出土遺物

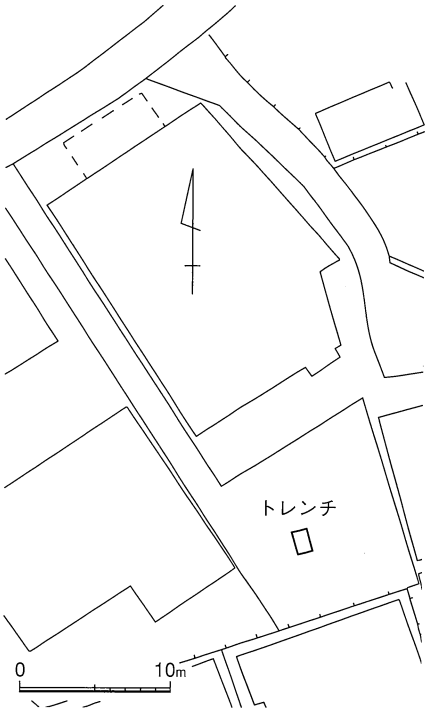
1～3は磁器の碗で、4は青磁皿の口縁部。5は陶器の埦の口縁部である。1～3は第3層、4・5は溝の埋土である淡茶黒色砂質土から出土した。

第3節　下出遺跡

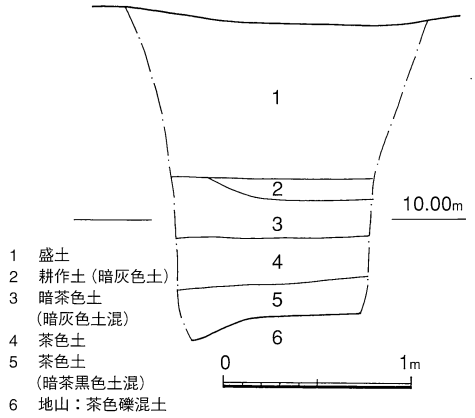
96－2区

a．調査の概要

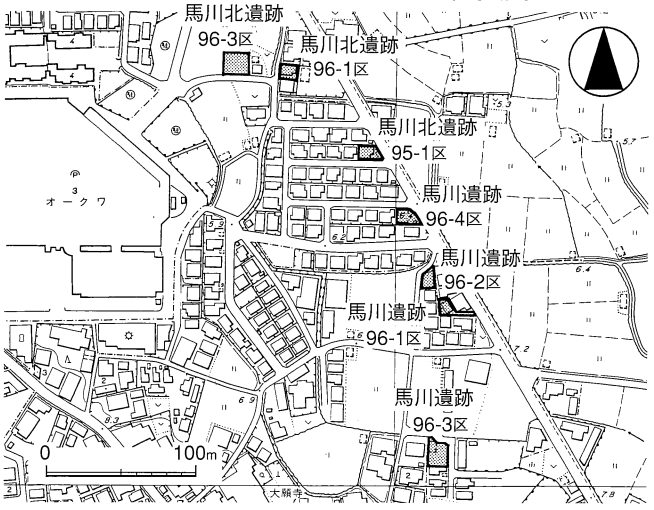
本調査区は、下出遺跡の東端部に位置し、中世末期に整備されたとされる「信長街道」に面している。調査は調査区内のほぼ中央部に、1.5m×1.0mのトレンチを設定して行った。盛土及び耕作土以下の基本的な層序は、第3層暗茶色土、第4層茶色土、第5層茶色土（暗茶黒色土混）、第6層茶色礫混土で無遺物層の順であった。遺構は検出されなかったが、第4・5層から土師器、瓦器、土師質蛸壺が出土したが、細片のため図化し得なかった。



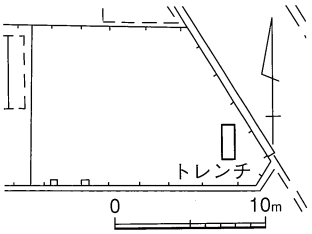
第18図　下出遺跡96-2区
トレンチ位置図



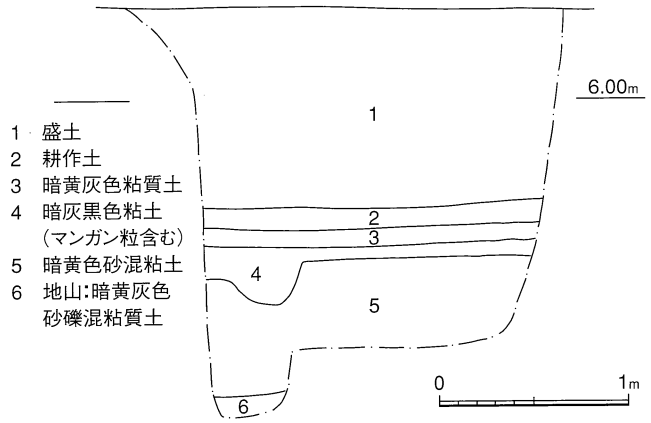
第19図　下出遺跡96-2区
トレンチ西側断面図



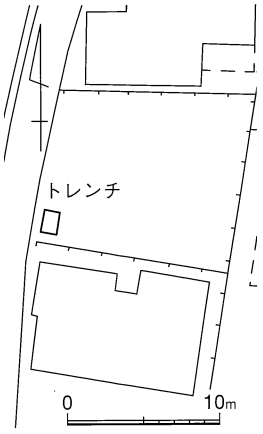
第20図　馬川北遺跡・馬川遺跡　調査区位置図



第21図　馬川北遺跡95-1区
トレンチ位置図



第22図　馬川北遺跡95-1区　トレンチ東側断面図



第23図　馬川北遺跡96-1区
トレンチ位置図

第４節　馬川北遺跡

95－１区

ａ．調査の概要

馬川北遺跡は、阪南市の北西部に拡がり、南は馬川遺跡に接する。調査は、調査区内の南東部に2.5m×1.0mのトレンチを１ヵ所設定して実施した。盛土・耕作土以下の基本的な層序は、第３層暗黄灰色粘質土、第４層暗灰黒色粘土、第５層暗黄色砂混粘土、第６層暗黄灰色砂礫混粘質土の無遺物層であった。遺物は第３層から中世期の土師質蛸壷、第４層から弥生式土器の壷体部、須恵器の甕体部、中世期の土師質蛸壷、第５層から須恵器の甕体部が出土したが、図化し得るものはなかった。遺構はピット１を検出した。埋土は暗灰黒色粘土で、遺物が出土しなかったため、時代は不明である。

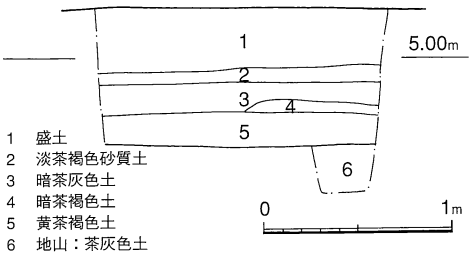
96－１区

ａ．調査の概要

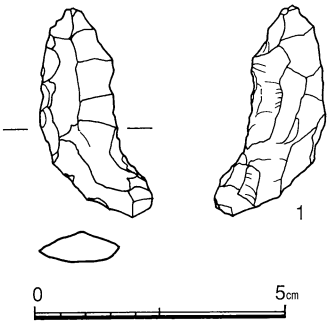
本調査区は、馬川北遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区西部に1.5m×1.1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層淡茶褐色砂質土、第３層暗茶灰色土、第４層暗茶褐色土、第５層黄茶褐色土、第６層茶灰色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第２層から土師質土器、磁器、第３層から土師器、須恵器、瓦器、土師質蛸壷、瓦、第５層からサヌカイト製石鏃、土師器、須恵器が出土した。

ｂ．遺物

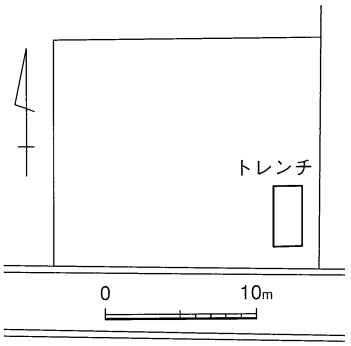
前述の遺物より図化し得たのは、１のサヌカイト製の石鏃のみで、長さ4.0cm、横3.0cm、厚さ0.4cmを測る。



第24図　馬川北遺跡96-1区
トレンチ東側断面図



第25図　馬川北遺跡96-1区
出土遺物



第26図　馬川北遺跡96-3区
トレンチ位置図

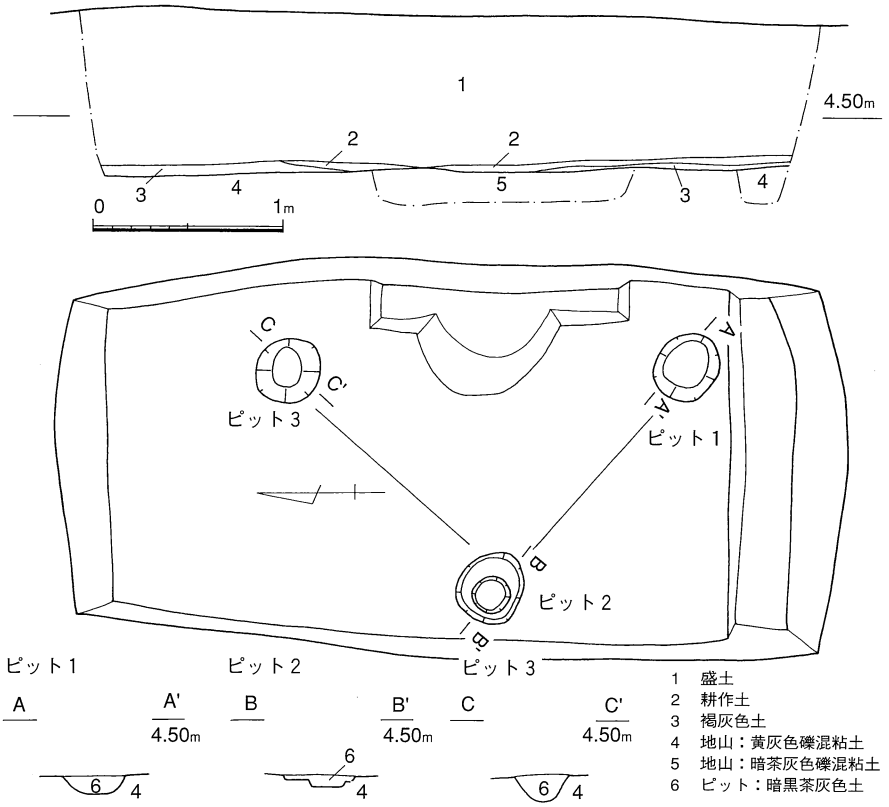
96－3区

a．調査の概要

本調査区は、馬川北遺跡の西部に位置する。調査は、調査区東南部に3.9m×2.0mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第1層盛土、第2層耕作土、第3層褐灰色土、第4層黄灰色と暗茶灰色の礫混粘土の無遺物層である。

遺構は第4層上面でピット3を検出した。

遺物は第3層より土師器、須恵器、土師質蛸壺、陶器が出土した。

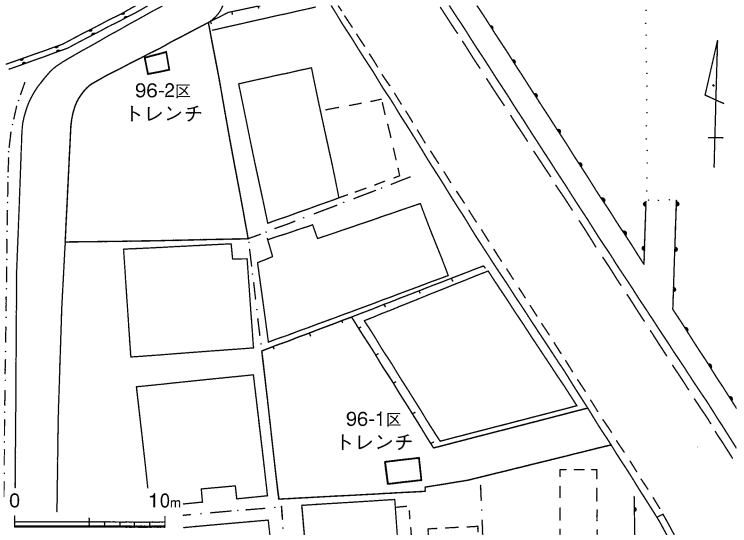


第27図　馬川北遺跡96-3区　トレンチ平面図・東側断面図

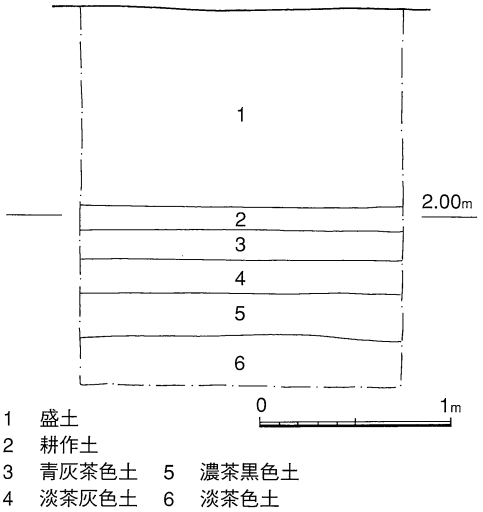
b．遺構

－建物跡－

1間×1間以上の掘立柱建物である。芯心距離は1.6m程度で、ピット1～3で構成される。ピットの直径0.30m、深さは0.07～0.15m、埋土はいずれも暗黒茶灰色土である。遺物はピット1から土師器、須恵器が、ピット2・3からそれぞれ土師器が出土した。遺物は図化し得なかったが、中世期以前のものと思われる。



第28図　馬川遺跡96-1区・96-2区　トレンチ位置図



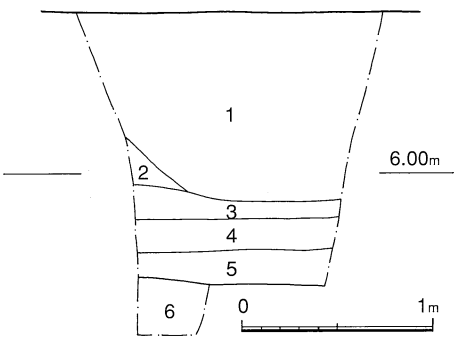
第29図　馬川遺跡96-1区
トレンチ西側断面図

第５節　馬川遺跡

96－１区

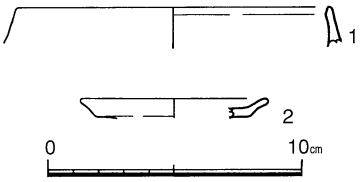
a．調査の概要

本調査区は、馬川遺跡のほぼ中央部に位置する。周辺で行なわれたこれまでの調査では、明確な遺構は検出されていないものの、弥生時代～中世期、とりわけ古墳時代～奈良時代の遺物を包含している層の存在が確認されていた。調査は、調査区内のほぼ中央部に3.9m×2.0mのトレンチを設定して行った。盛土及び耕作土以下の基本的な層序は、第３層青灰茶色土、第４層淡茶灰色土、第５層濃茶黒色土、第６層淡茶色土の順であった。第４層から須恵器が出土したが、遺構は確認されなかった。なお、出土した遺物はいずれも小片のため、図化し得なかった。



1　盛土　　4　淡灰色土（マンガン粒含む）
2　濃灰色土　5　濃茶灰色土
3　灰色土　　6　地山：黄茶色土

第30図　馬川遺跡96-2区
トレンチ南側断面図



第31図　馬川遺跡96-2区　出土遺物

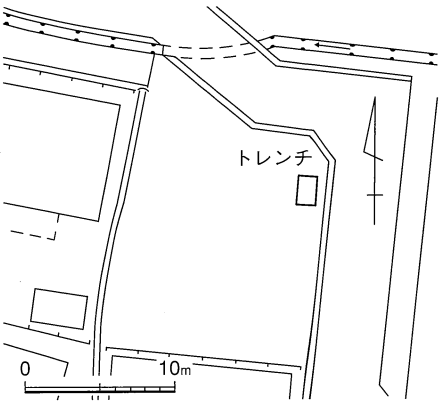
96－２区

a．調査の概要

本調査区は、馬川遺跡の北部に位置する。調査は、調査区北部に1.6m×1.3mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層濃灰色土、第３層灰色土、第４層淡灰色土、第５層濃茶灰色土、第６層黄茶色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は、第１層から瓦器、土師質土器、土師質蛸壷、磁器、第３・４層から土師器、須恵器が出土した。図化し得たのは以下の２点であった。

b．遺物

１は須恵器坏身の口縁部で６世紀のものと思われる。２は瓦器小皿の口縁部である。１は第３・４層から、２は第１層から出土した。

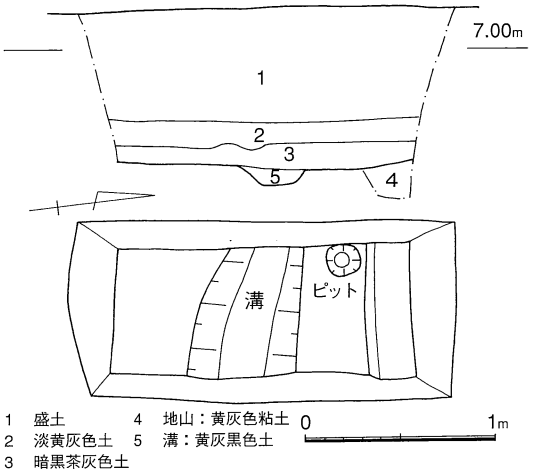


第32図　馬川遺跡96-3区
トレンチ位置図

96－３区

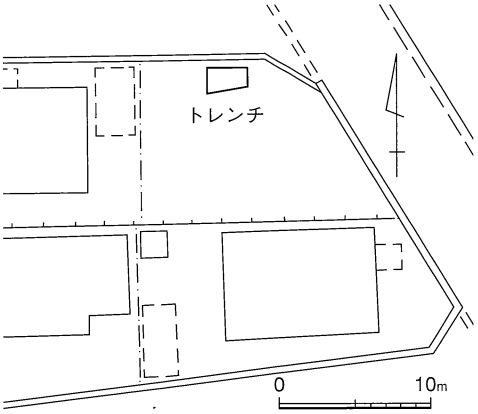
a．調査の概要

本調査区は、馬川遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区北西部に2.0m×1.1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層淡黄灰色土、第３層暗黒茶灰色土、第４層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は溝、ピットを検出した。遺物は第１層

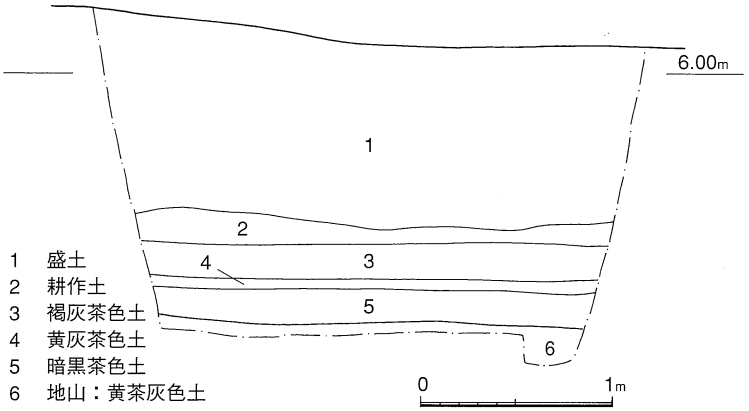


1　盛土　　4　地山：黄灰色粘土
2　淡黄灰色土　5　溝：黄灰黒色土
3　暗黒茶灰色土

第33図　馬川遺跡96-3区　トレンチ平面図
西側断面図



第35図　馬川遺跡96-4区　トレンチ位置図



第36図　馬川遺跡96-4区　トレンチ東側断面図

から須恵器、瓦、石臼、第２層から須恵器、黒色土器、土師質土器、第３層から黒色土器、土師質土器が出土した。

ｂ．遺構

遺構は第４層上面で溝、ピットを検出したが、いずれも遺物は出土しておらず、時代は不明である。

－　溝　－

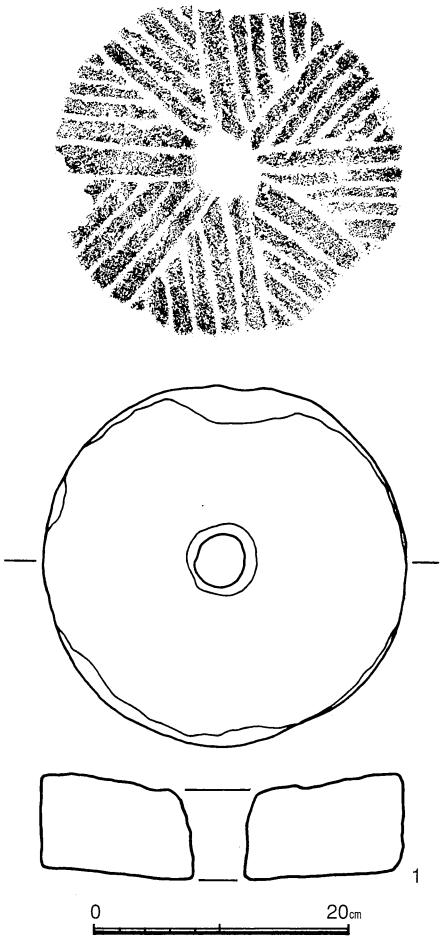
トレンチの中央部で東西方向の溝を検出した。幅0.5m、深さ0.15mを呈する。埋土は黄灰黒色土である。

－ピット－

トレンチの北西部でピットを検出した。径0.2m、深さ0.1mを呈する。埋土は黄灰黒色土である。

ｃ．遺物

１は和泉砂岩製の石臼（粉挽き臼）で、直径29.5㎝、厚さ７㎝、８分画５溝のものである。

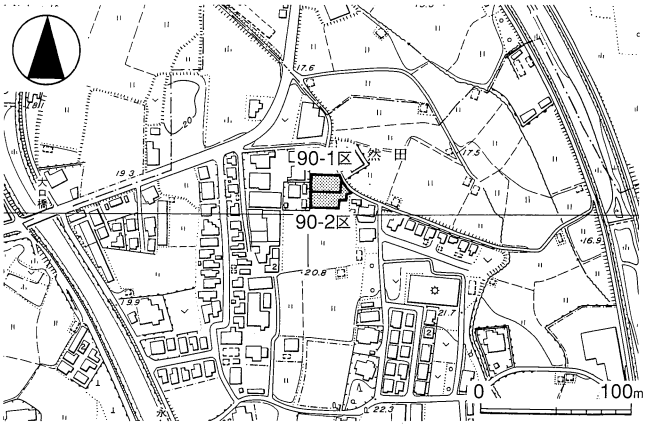


第34図　馬川遺跡96-3区　出土遺物

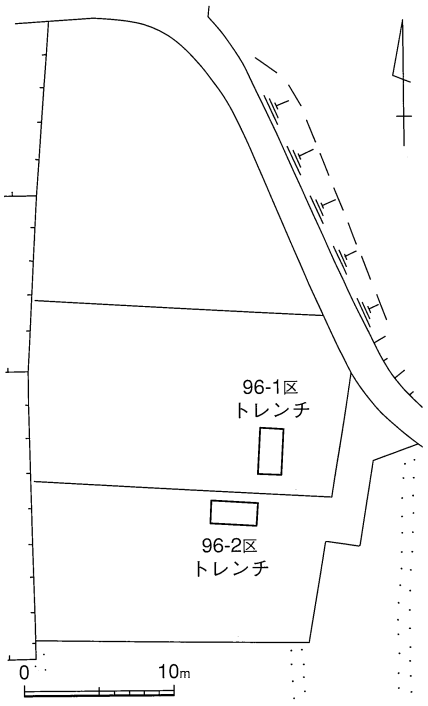
96－４区

ａ．調査の概要

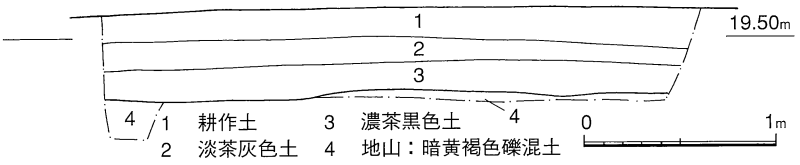
本調査区は、馬川遺跡の北部に位置する。調査は、調査区西部に2.7m×1.7mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐灰茶色土、第４層黄灰茶色土、第５層暗黒茶色土、第６層黄茶灰色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第３層から土師質土器を出土したが、細片のため図化し得なかった。



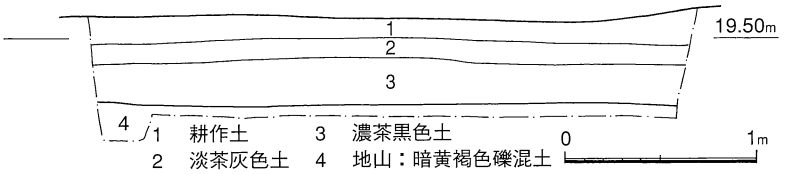
第37図　向出遺跡　調査区位置図



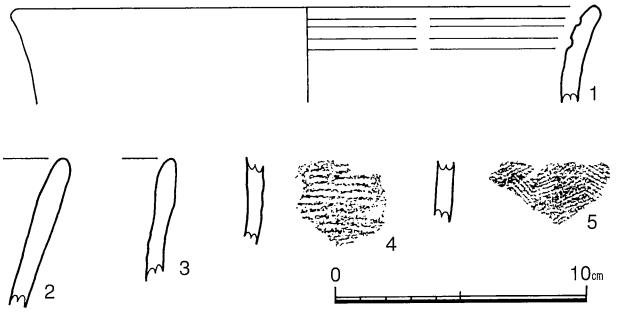
第38図　向出遺跡96-1区・96-2区　トレンチ位置図



第39図　向出遺跡96-1区　トレンチ西側断面図



第40図　向出遺跡96-2区　トレンチ南側断面図



第41図　向出遺跡96-2区　出土遺物

第６節　向出遺跡

96－１区

a．調査の概要

調査区は、向出遺跡の北部に位置する。調査は、調査区南東部に3.1m×1.6mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層淡茶灰色土、第３層濃茶黒色土、第４層暗黄褐色礫混土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第２層より土師器、須恵器、第３層より縄文式土器、土師器、瓦器が出土したが細片のため図化し得なかった。

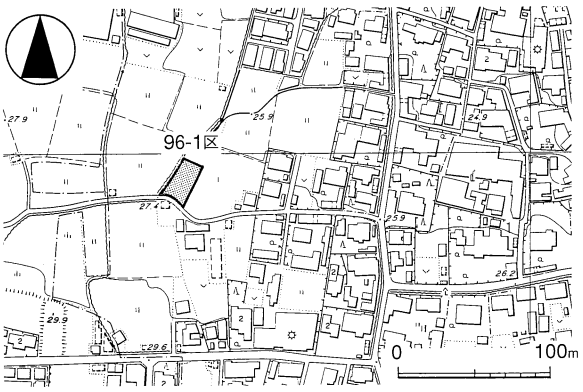
96－２区

a．調査の概要

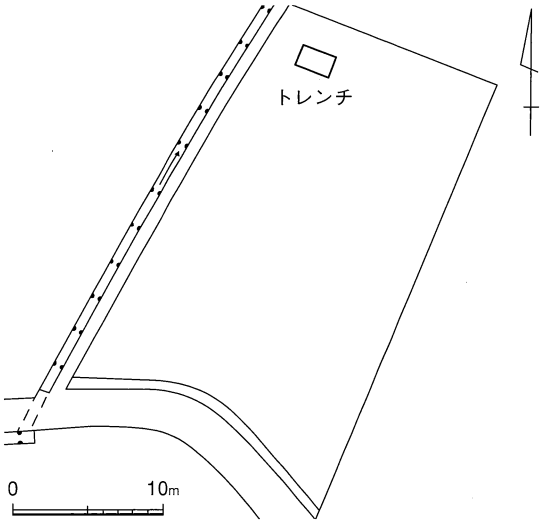
調査区は、向出遺跡の北部に位置し、96－１区に隣接する。調査は、調査区北西部に3.2m×1.6mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層淡茶灰色土、第３層濃茶黒色土、第４層暗黄褐色礫混土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第２層から縄文式土器、第３層からサヌカイト、縄文式土器、弥生式土器、土師器、瓦器が出土した。

b．遺物

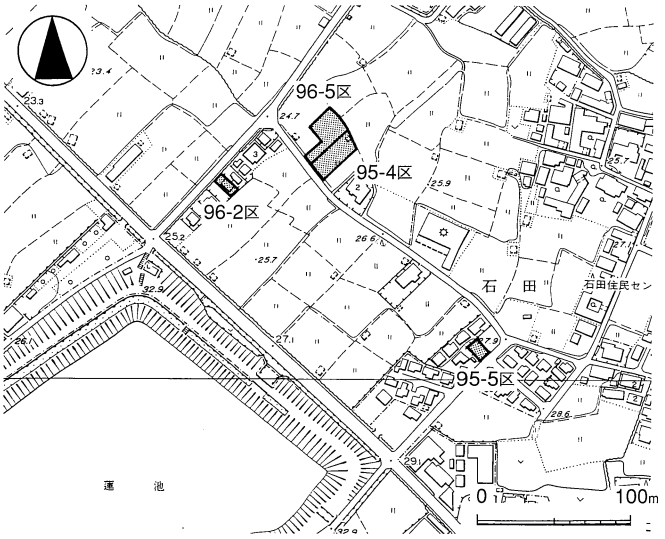
１～５は縄文時代後期～晩期のもので、第３層から出土した。１～３は深鉢の口縁部で、４・５は器種は不明であるが体部と思われ、第41図のような文様がみられる。



第42図　西畑遺跡　調査区位置図



第43図　西畑遺跡96-1区　トレンチ位置図



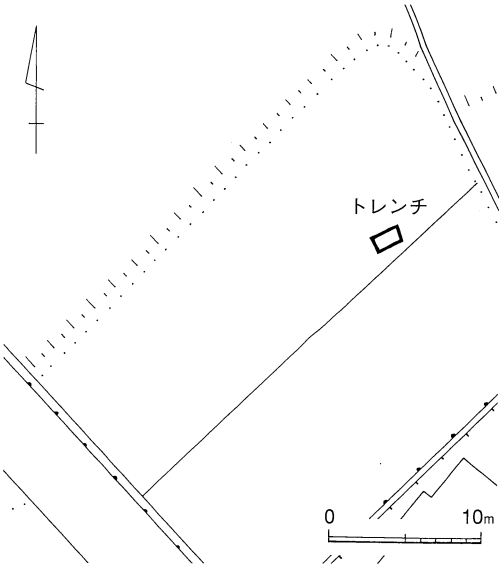
第44図　神光寺（蓮池）遺跡　調査区位置図

第７節　西畑遺跡

96－１区

a．調査の概要

本調査区は、西畑遺跡のほぼ中央部に位置する。西畑遺跡は、1988年度の分布調査の折に、土師質土器、陶器等を採取し、遺跡として周知された。調査は、調査区北部に2.2m×1.5mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層淡茶灰色礫混土の無遺物層であった。遺構、遺物ともに検出しなかった。



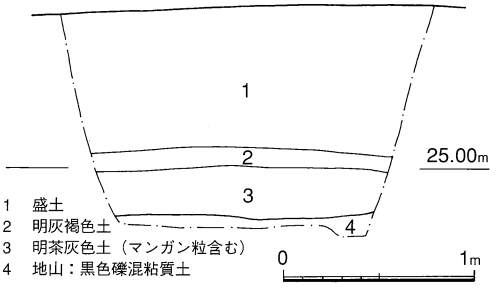
第45図　神光寺(蓮池)遺跡95-4区　トレンチ位置図

第８節　神光寺（蓮池）遺跡

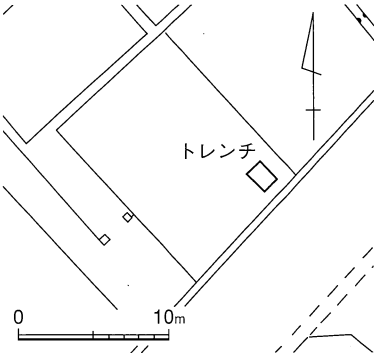
95－４区

a．調査の概要

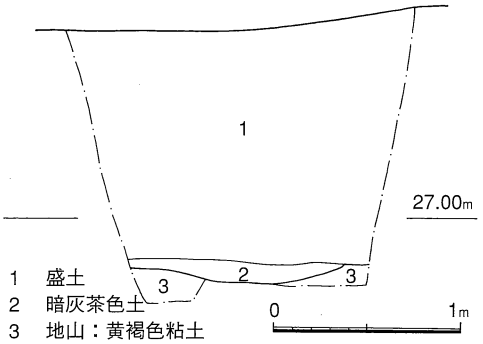
本調査区は、神光寺（蓮池）遺跡の西端部に位置する。



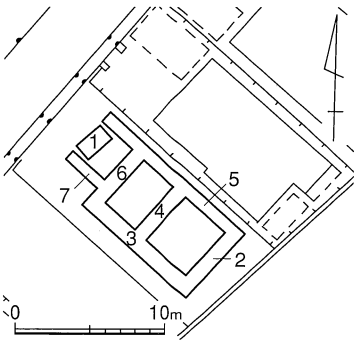
第46図　神光寺(蓮池)遺跡95-4区　トレンチ南側断面図



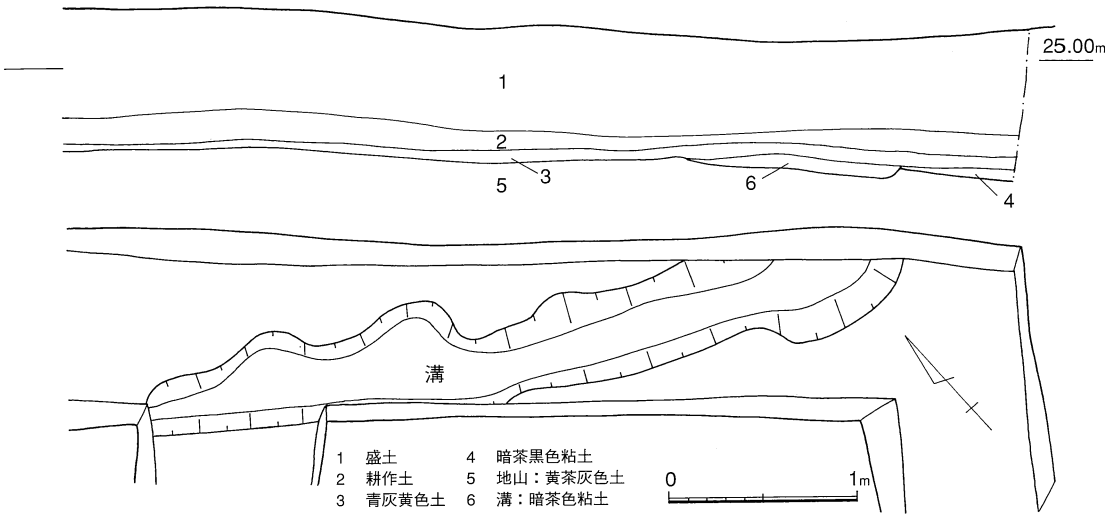
第47図　神光寺（蓮池）遺跡
95-5区　トレンチ位置図



第48図　神光寺（蓮池）遺跡95-5区
トレンチ西側断面図

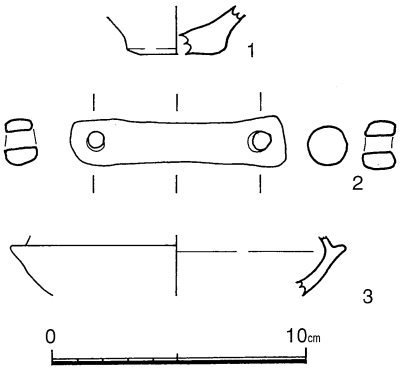


第49図　神光寺（蓮池）遺跡
96-2区　トレンチ位置図



第50図　神光寺（蓮池）遺跡96-2区　3トレンチ平面図・東側断面図

調査は、1.8m×1.0mのトレンチを設定して行った。盛土以下の層序は、第２層明灰褐色土、第３層明茶灰色土、第４層黒色礫混粘質土で無遺物層の順であった。遺構は検出しなかった。遺物は第３層から土師器、黒色土器、瓦器、瓦等が出土した。



第51図　神光寺（蓮池）遺跡96-2区　出土遺物

95－５区

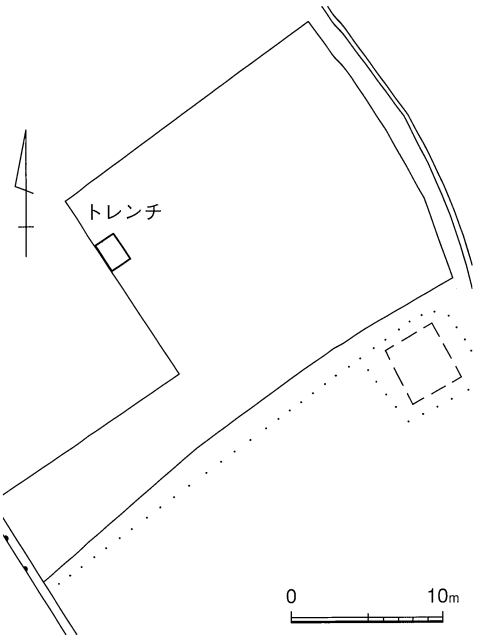
ａ．調査の概要

本調査区は、神光寺（蓮池）遺跡の南部に位置し、1980年に弥生時代中期の土器とともに方形周溝墓が確認された調査区に隣接している。調査は、調査区内の西端部に1.8m×1.3mのトレンチを設定して行った。盛土以下の基本的な層序は、第２層暗灰茶色土、第３層黄褐色粘土で無遺物層の順であった。遺構、遺物ともに検出しなかった。

96－２区

ａ．調査の概要

調査区は神光寺（蓮池）遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内に７ヵ所のトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層青灰黄色土、第４層暗茶黒色粘土、第５層黄茶灰色土の無遺物層であった。遺構は３トレンチで溝を検出した。遺物は第２層から陶器、第３層から須恵器、土師質土器、磁器、第４層から須恵器が出土した。

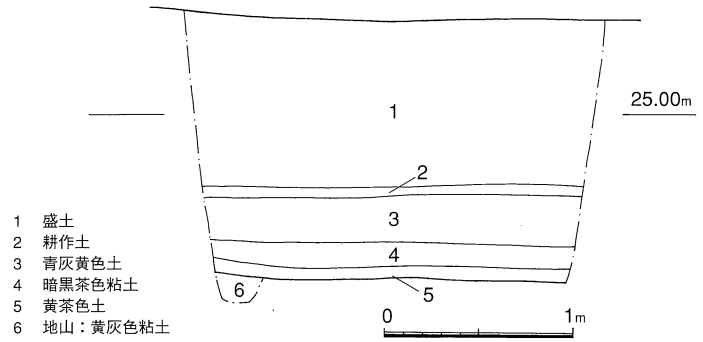


第52図　神光寺（蓮池）遺跡96-5区　トレンチ位置図

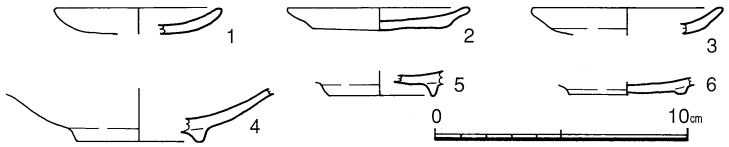
ｂ．遺構

－溝－

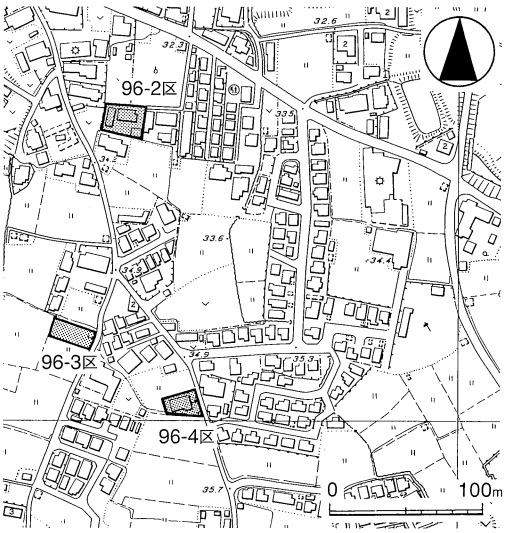
３トレンチの北部の第５層上面で東西方向の溝を検出し



第53図　神光寺（蓮池）遺跡96-5区　トレンチ西側断面図



第54図　神光寺（蓮池）遺跡96-5区　出土遺物



第55図　自然田遺跡　調査区位置図

た。深さ0.1mを呈する。埋土は暗茶色粘土で、弥生式土器、土師器、瓦器、土師質有孔土錘等の遺物が出土した。遺物から中世期以降のものと思われる。

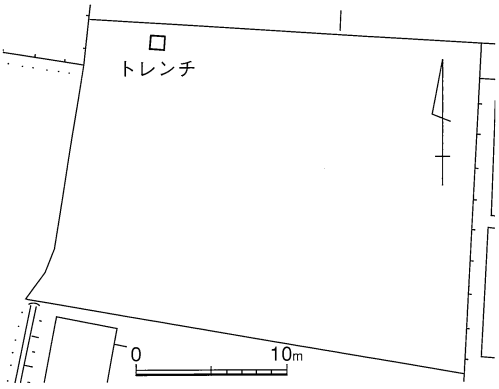
c．遺物

先述の遺物より図化し得たのは以下の３点であった。１は弥生式土器の甕底部、２は土師質有孔土錘、３は須恵器の坏身受部で６世紀のものと思われる。１・２は溝の埋土より、３は第３層より出土した。

96－５区

a．調査の概要

調査区は、神光寺（蓮池）遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区西部に2.2m×1.5mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層耕作土、第３層青灰黄色土、第４層暗黒茶色粘土、第５層黄茶色土、第６層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺物は第３層から弥生式土器、土師器、黒色土器、瓦器、土師質管状土錘、第４層から土師器が出土した。

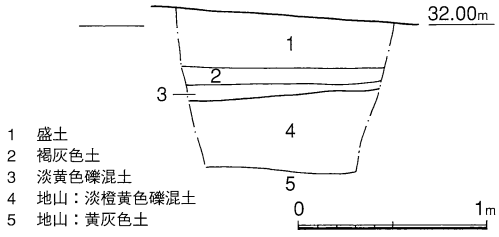


第56図自然田遺跡96-2区　トレンチ位置図

b．遺物

１～６はすべて第３層から出土した。１～３は土師質土器の小皿、４～６は瓦器の椀である。

第９節　自然田遺跡



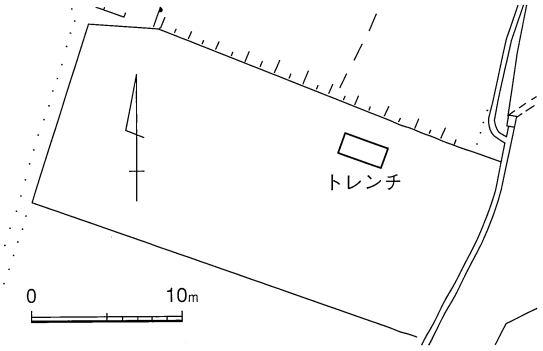
第57図　自然田遺跡96-2区 トレンチ南側断面図

96－２区

a．調査の概要

本調査区は、自然田遺跡の北部に位置する。調査は、調査区北西部に1.0m×0.9mのトレンチを設定し行った。

基本層序は、第１層盛土、第２層褐灰色土、第３層淡黄色礫混土、第４層淡橙黄色礫混土、第５層黄灰色土で、第４・５層は無遺物層であった。遺構、遺物ともに検出しなかった。

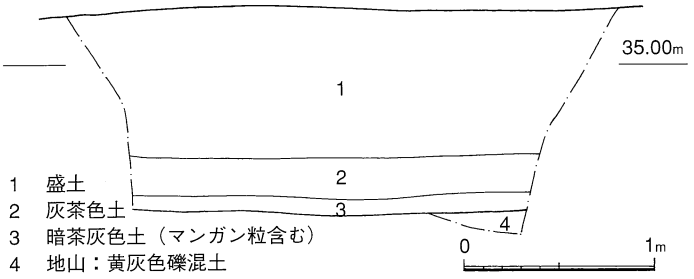


第58図　自然田遺跡96-3区　トレンチ位置図

96－３区

ａ．調査の概要

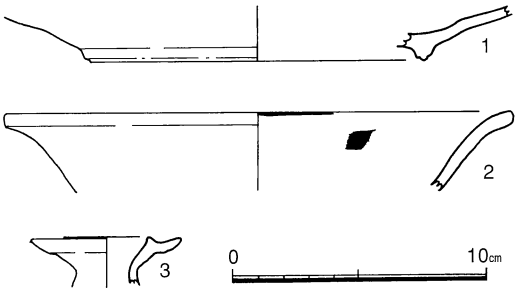
調査区は、自然田遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は調査区北東部に3.1m×1.5mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層灰茶色土、第３層暗茶灰色土、第４層黄灰色礫混土の無遺物層であった。



第59図　自然田遺跡96-3区　トレンチ南側断面図

ｂ．遺物

１・２は磁器で、１は皿の底部、２は鉢の口縁部、３は陶器の脚付灯明皿である。いずれの遺物も調査区より表採した。

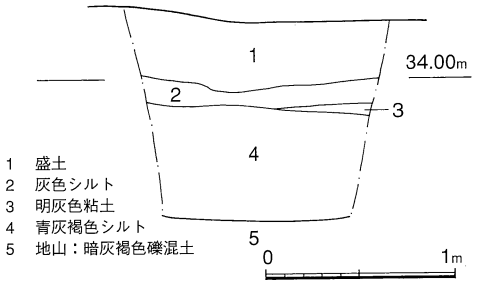


第60図　自然田遺跡96-3区　出土遺物

96－４区

ａ．調査の概要

本調査区は、自然田遺跡のほぼ中央部に位置する。周辺の調査区からは、縄文時代～中世期の遺物が出土している。調査は調査区内のほぼ中央部に1.5m×1.0mのトレンチを設定して行った。盛土以下の基本的な層序は、第２層灰色シルト、第３層明灰色粘土、第４層青灰褐色シルト、第５層暗灰褐色礫混土で無遺物層の順であった。遺構、遺物ともに検出しなかった。



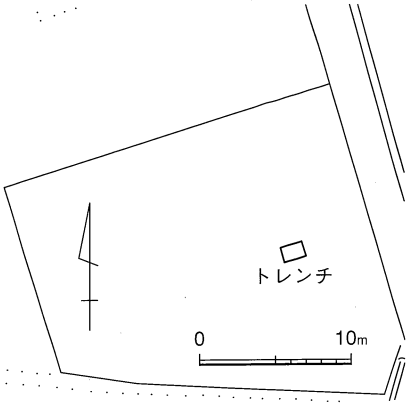
第61図　自然田遺跡96-4区　トレンチ西側断面図

第10節　鳥取北遺跡

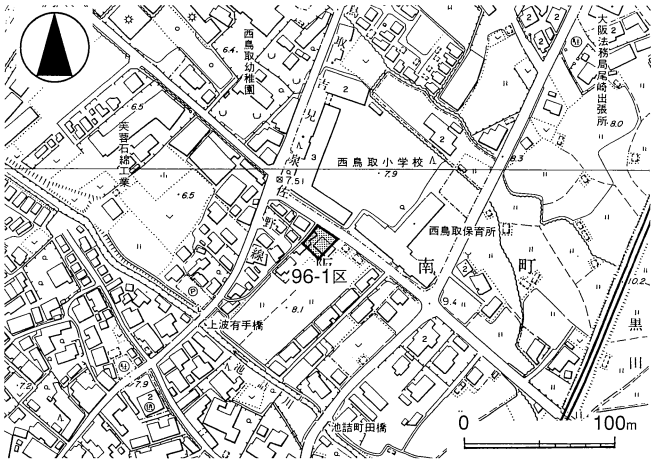
96－１区

ａ．調査の概要

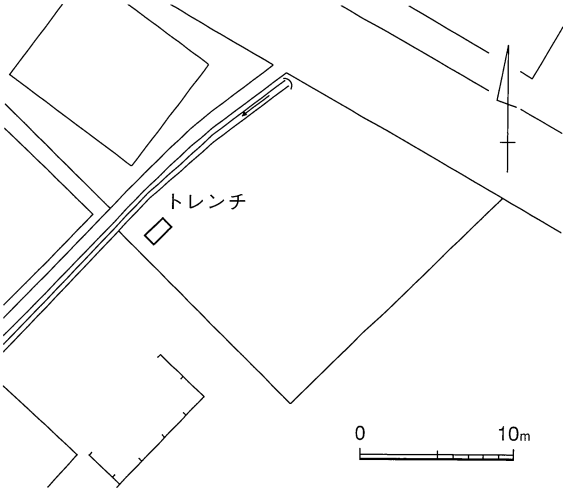
本調査区は、鳥取北遺跡の西部に位置する。調査は、調査区北西部に2.0m×1.0mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層褐灰色土、第３層淡黄褐灰色砂質土、第４層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は土坑、溝を検出した。



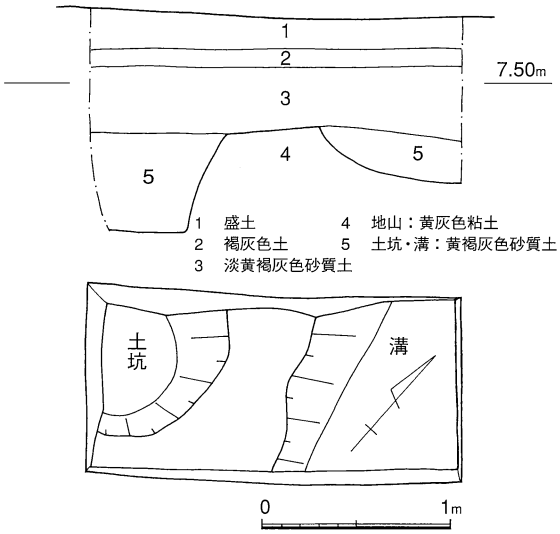
第62図　自然田遺跡96-4区　トレンチ位置図



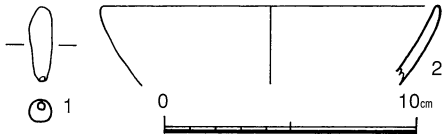
第63図　鳥取北遺跡　調査区位置図



第64図　鳥取北遺跡96-1区　トレンチ位置図



第65図　鳥取北遺跡96-1区　トレンチ平面図・西側断面図



第66図　鳥取北遺跡96-1区　出土遺物

遺物は第１層から土師質土器、磁器、第２層から土師質土器、第３層からサヌカイト、土師質土器が出土した。

ｂ．遺構

土坑と溝を検出したが、出土遺物より近世期のものと思われる。

－土坑－

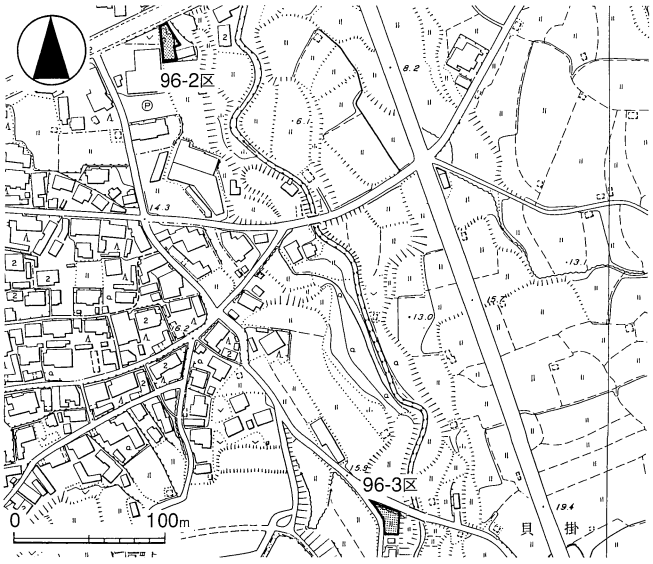
トレンチの北部の第４層上面で検出し、深さは0.55ｍを呈し、埋土は黄褐灰色砂質土であった。遺物は土師質土器、陶器が出土した。

－溝－

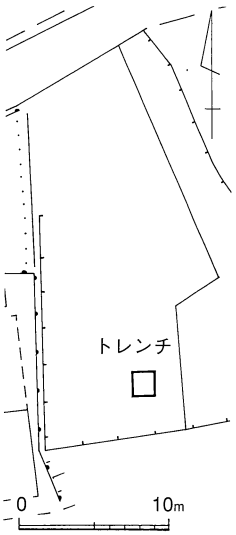
トレンチ南部の第４層上面で検出した。深さは0.25ｍ以上を呈し、埋土は黄褐灰色砂質土であった。遺物は土師質土器が出土した。

ｃ．遺物

１は土師質管状土錐、２は陶器椀の口縁部で、ともに第１層より出土した。



第67図　貝掛遺跡　調査区位置図



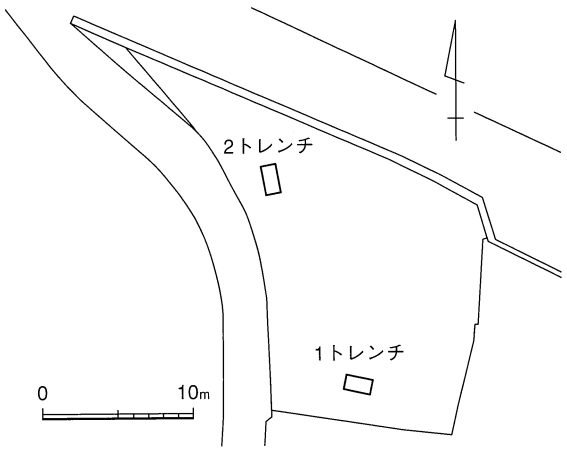
第68図　貝掛遺跡96-2区
トレンチ位置図

第11節　貝掛遺跡

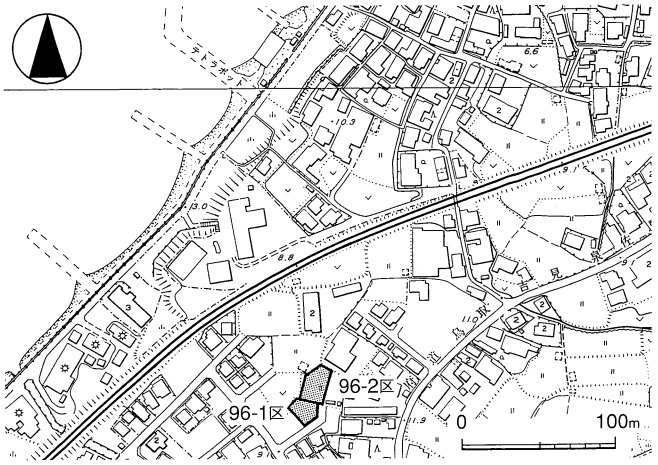
96－２区

ａ．調査の概要

本調査区は、貝掛遺跡の北西部に位置する。調査は、調査区南部に1.7ｍ×1.6ｍのトレンチを設定し



第69図　貝掛遺跡96-3区　トレンチ位置図



第70図　戎遺跡　調査区位置図

行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層褐灰色土の無遺物層であった。遺構、遺物ともに検出されなかった。

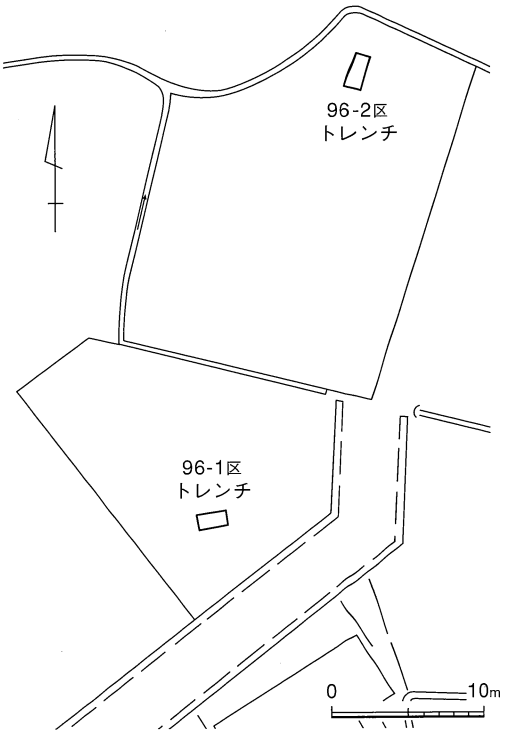
96－３区

ａ．調査の概要

貝掛遺跡は、阪南市の中央部に拡がる。調査区は南西部から東北部に落ちる斜面で、南部に2.0m×1.0mの１トレンチと北部に1.9m×1.0mの２トレンチの２ヵ所を設定して調査を実施した。

１トレンチは耕作土、淡橙色粘土の無遺物層、２トレンチは耕作土、床土、旧耕作土であるが、北側は撹乱を受けている。

２トレンチの旧耕作土から磁器が２点出土したが、図化し得るものはなかった。



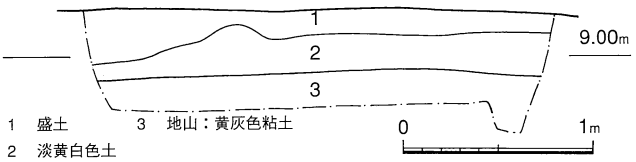
第71図　戎遺跡96-1区・96-2区　トレンチ位置図

第12節　戎遺跡

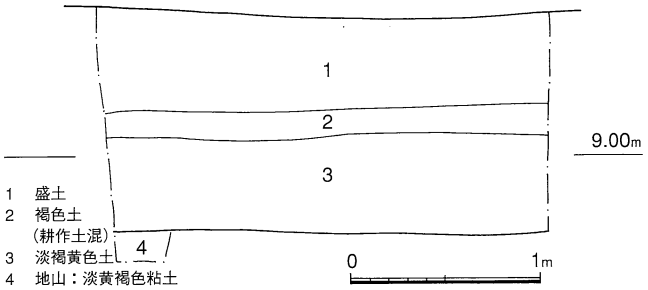
96－１区

ａ．調査の概要

調査区は、戎遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区中央部に2.0m×1.1mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層淡黄白色土、第３層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は土師質土器を検出したが、図化し得なかった。



第72図　戎遺跡96-1区　トレンチ北側断面図



第73図　戎遺跡96-2区　トレンチ西側断面図

96－２区

ａ．調査の概要

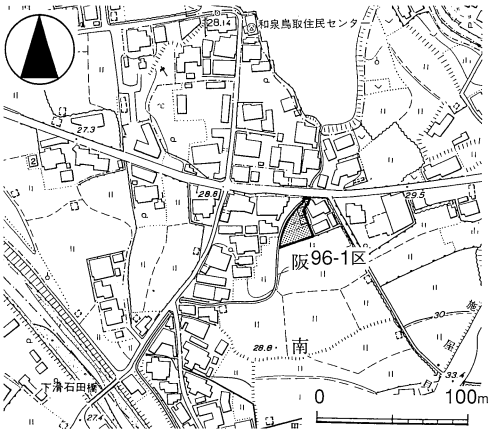
調査区は、戎遺跡のほぼ中央部で96－１区に隣接する。調査は、調査区北部に2.4m×1.0mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層褐色土、第３層淡褐黄色土、第４層淡黄褐色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は土師質土器を検出したが、図化し得なかった。

第13節　和泉鳥取遺跡

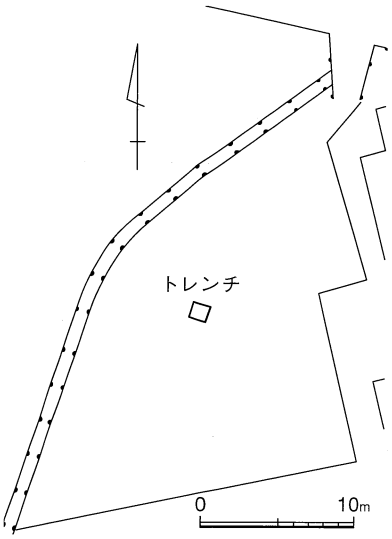
96－１区

ａ．調査の概要

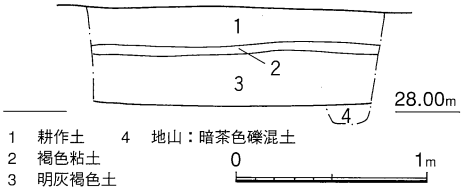
本調査区は、和泉鳥取遺跡の北部に位置する。同遺跡内の既応の調査では、弥生時代～中世期の遺物包含層の存在が確認されている。耕作土以下の基本的な層序は、第２層褐色粘土、第３層明灰褐色土、第４層暗茶色礫混土で無遺物層の順であった。遺構は確認されなかったが、第３層から土師質土器の細片が出土した。



第74図　和泉鳥取遺跡　調査区位置図



第75図　和泉鳥取遺跡96-1区　トレンチ位置図



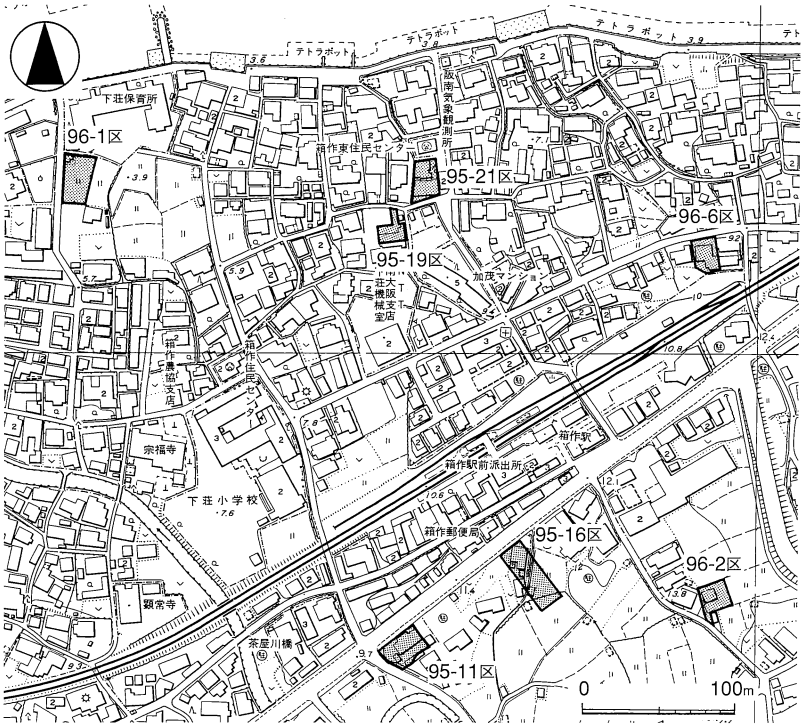
第76図　和泉鳥取遺跡96-1区　トレンチ北側断面図

第14節　箱作今池遺跡

95－11区

ａ．調査の概要

調査区は、箱作今池遺跡の西部に位置する。調査は、調査区内に９ヵ所のトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層盛土、第２層暗茶灰色砂質土、第３層褐灰色砂質土、第４層茶灰色砂質土、第５層灰茶色砂質土、第６層灰白色砂質土、第７層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は土坑、溝等を検出した。



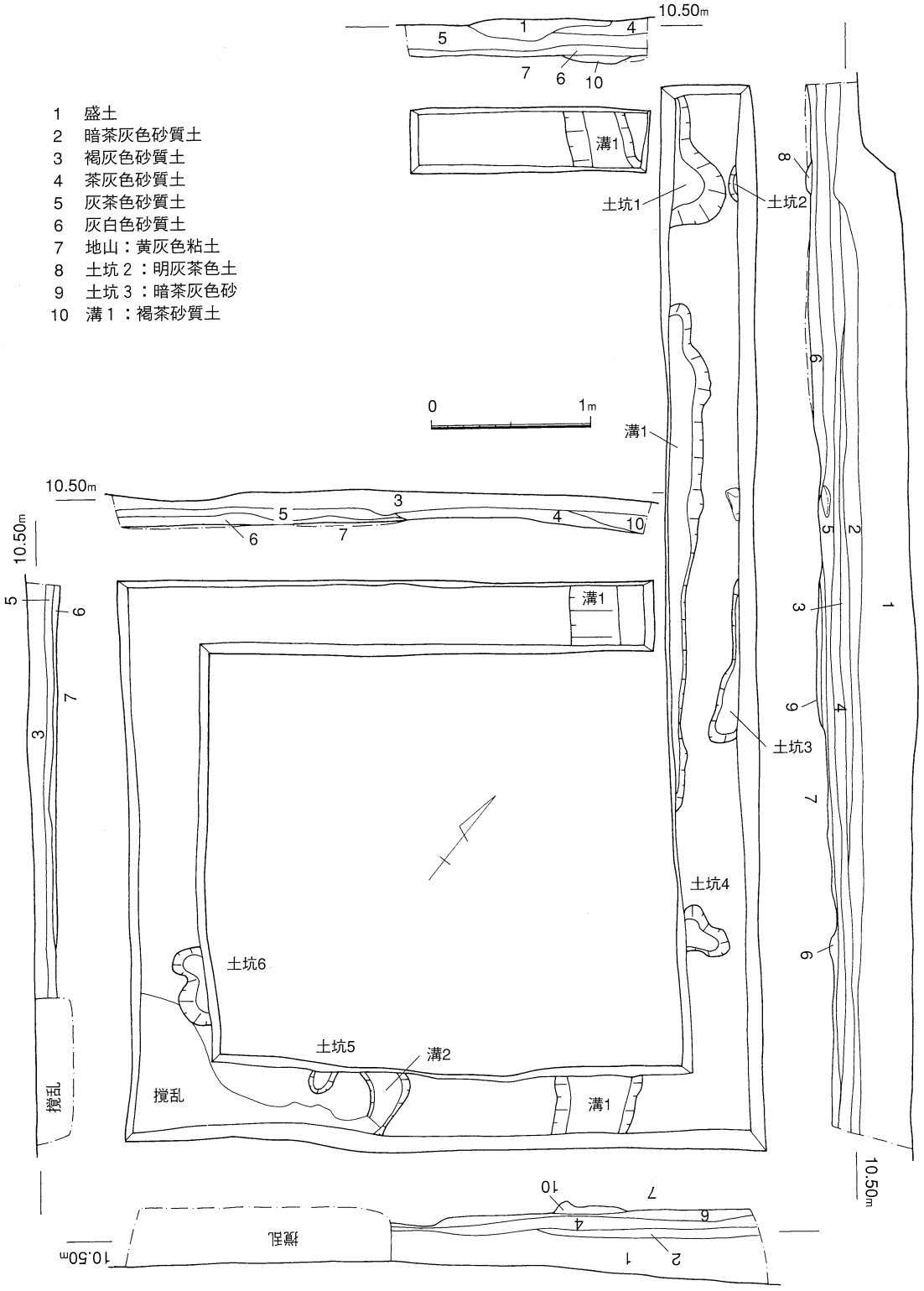
第77図　箱作今池遺跡　調査区位置図

b．遺構

遺構は、第７層上面で溝１・２、土坑１～６を検出したが、遺構から遺物は出土しなかったため、時代は不明である。

－土坑１～６－

土坑１は深さ0.1m以上を呈し、埋土は褐灰色砂質土。土坑２は深さ0.6m以上を呈し、埋土は

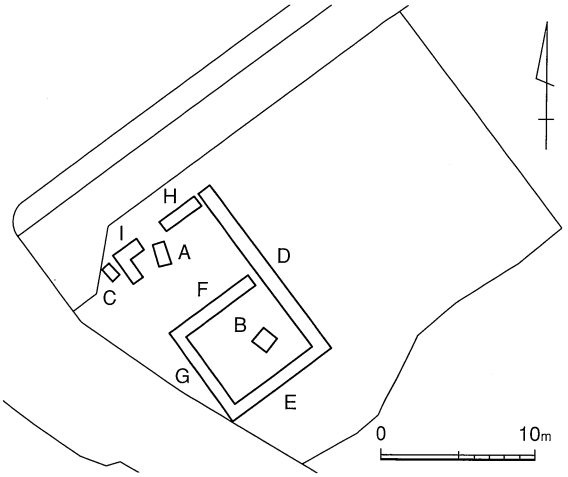


第78図　箱作今池遺跡95-11区　トレンチ平面図・断面図

明灰茶色土。土坑３は深さ0.4m以上を呈し、埋土は暗茶灰色砂。土坑４は深さ0.16m以上を呈し、埋土は灰茶色砂質土。土坑５は深さ0.8m以上を呈し、埋土は茶灰色砂質土。土坑６は深さ0.16m以上を呈し、埋土は褐灰色土である。

－溝１・２－

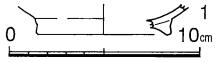
溝１は幅0.5m、深さ0.05mを呈し、埋土は褐茶色砂質土。溝２は幅0.25m、深さ0.14mを呈し、埋土は茶灰色砂質土である。



第79図　箱作今池遺跡95-11区　トレンチ位置図

ｃ．遺物

Ａトレンチの第２層から須恵器、土師質土器、Ｄトレンチの第２・３層からサヌカイト、須恵器、黒色土器、製塩土器、Ｆトレンチの第４～６層より土師器、Ｇトレンチの第３・５・６層より土師器、瓦器、土師質土器、Ｈトレンチの第４～５層より土師器、土師質蛸壷が出土した。１は瓦器椀の底部である。Ｄトレンチの第２・３層から出土した。

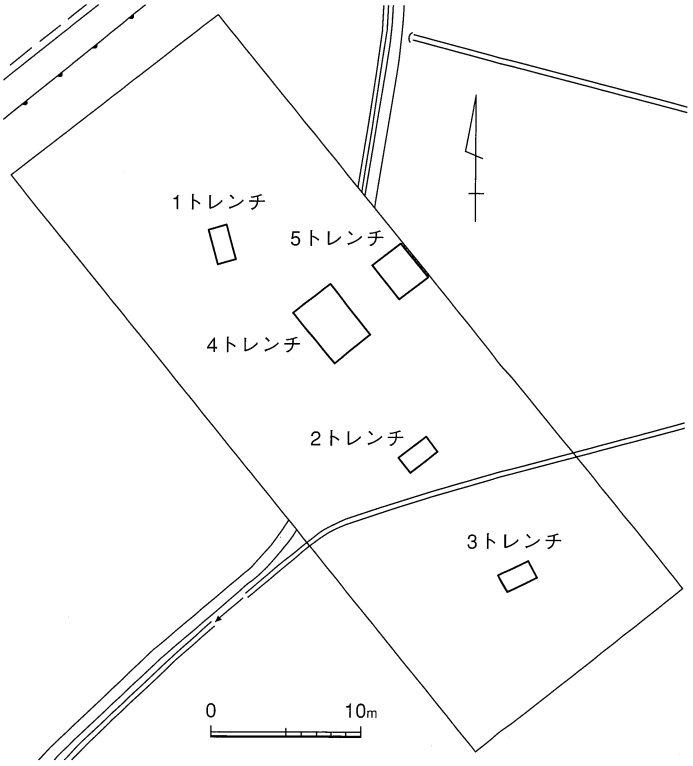


第80図　箱作今池遺跡
95-11区　出土遺物

95－16区

ａ．調査区の概要

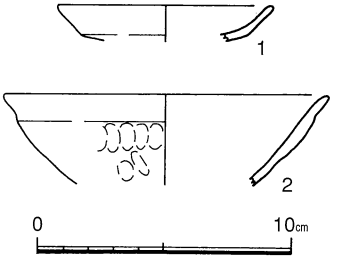
本調査区は、箱作今池遺跡のほぼ中央部に位置する。調査は、調査区内に５ヵ所のトレンチを設定し行った。基本層序は第１層盛土、第２層耕作土、第３層褐色土、第４層茶灰色土、第５層明灰褐色土、第６層灰褐色土、第７層明褐灰色土、第８層黄灰色粘土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は１トレンチの第２層から土師質土器、瓦器、４トレンチの第６層から土師器、５トレンチの第６層から土師器、須恵器、瓦器が出土した。



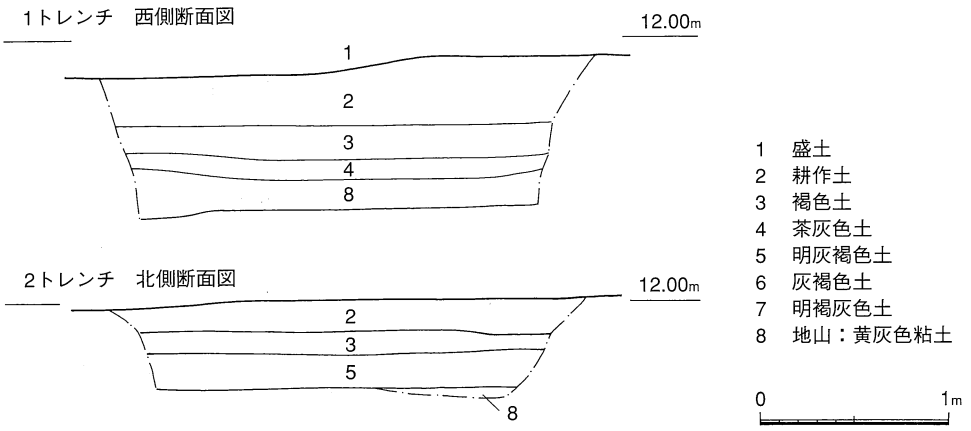
第81図　箱作今池遺跡95-16区　トレンチ位置図

ｂ．遺物

前述の遺物のうち、図化し得たのは、以下の２点であった。１・２はともに瓦器で、１は小皿の口縁部、２は椀の口縁部であった。



第82図　箱作今池遺跡
95-16区　出土遺物



第83図　箱作今池遺跡95-16区　トレンチ断面図

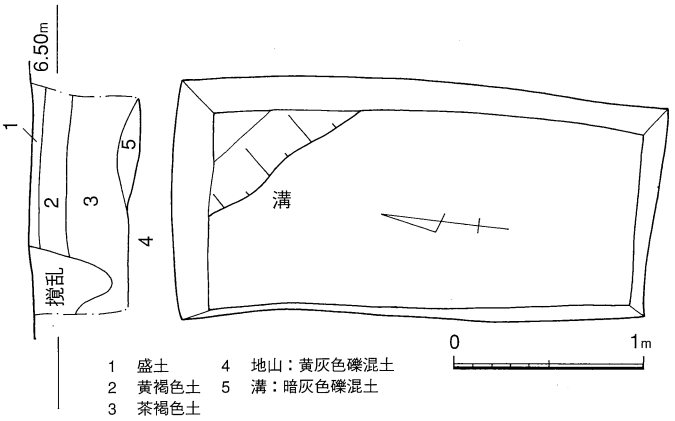
95―19区

a．調査の概要

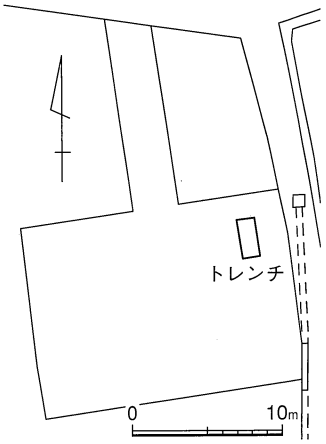
本調査区は箱作今池遺跡内の北側に位置する。調査は、2.6m×1.2mのトレンチを設定して行った。盛土以下の基本的な層序は、第２層黄褐色土、第３層茶褐色土、第４層黄灰色礫混土で無遺物層の順であった。遺構としては、南西から北東方面に延びる溝の一部を検出した。

b．遺構

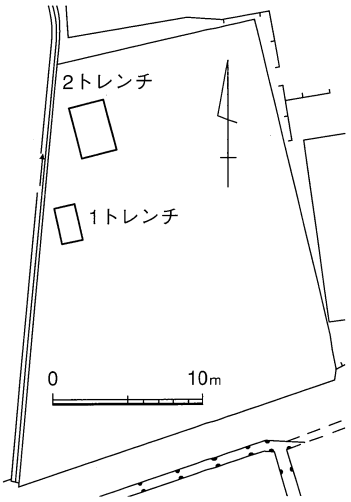
第４層上面で、南西から北東方面に延びる溝の一部を検出した。埋土内からは土師質蛸壷や磁器、瓦等が出土した。これらの遺物は細片等のため、図化していないが、出土遺物から、その時代は明治以降の所産と思われる。



第84図　箱作今池遺跡95-19区　トレンチ平面図・北側断面図



第85図　箱作今池遺跡95-19区　トレンチ位置図

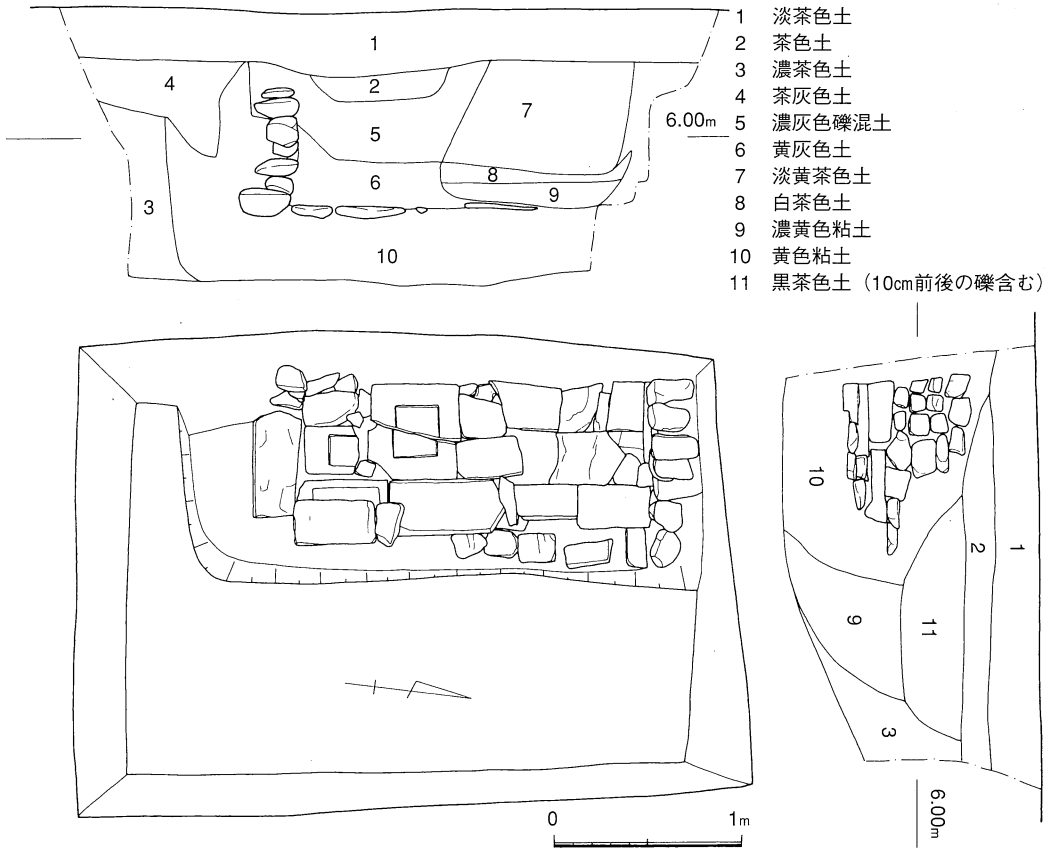


第86図　箱作今池遺跡95-21区　トレンチ位置図

95―21区

a．調査の概要

本調査区は、箱作今池遺跡内の北側に位置する。地元では寺院が存在していたと伝えられている。調査は、2.6m×1.4m及び3.5m×2.5mの２ヵ所のトレンチを設定し、前者を１トレンチ、後者を２トレンチとして調査を行った。基本的な層序は、第１層淡茶色土、第２層茶色土、第３層濃茶色土の順であった。遺構としては、２トレンチで石敷きの施設を検出した。遺物としては、１トレンチから近世～近代期の陶器、磁器、瓦、宝篋印塔の一部、土師質蛸壷等が、２トレンチからも同じく近世～近代期の陶器、磁器、瓦をはじめ、瓦器、須恵器等が出土している。



第87図　箱作今池遺跡95-21区　２トレンチ平面図・断面図

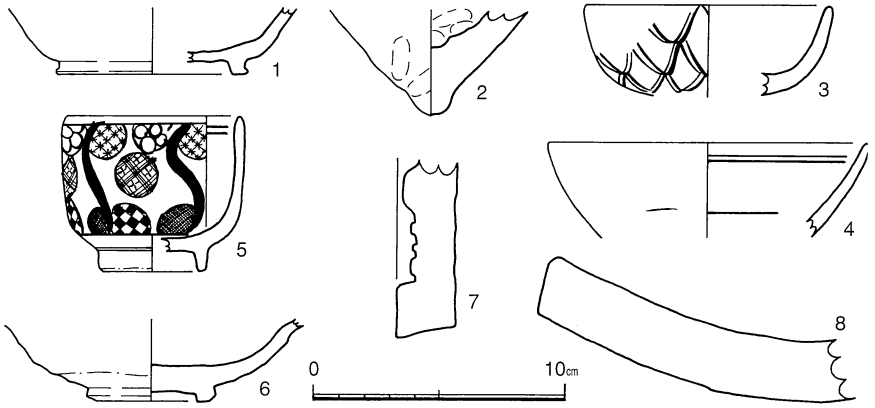
b．遺構

－石敷遺構－

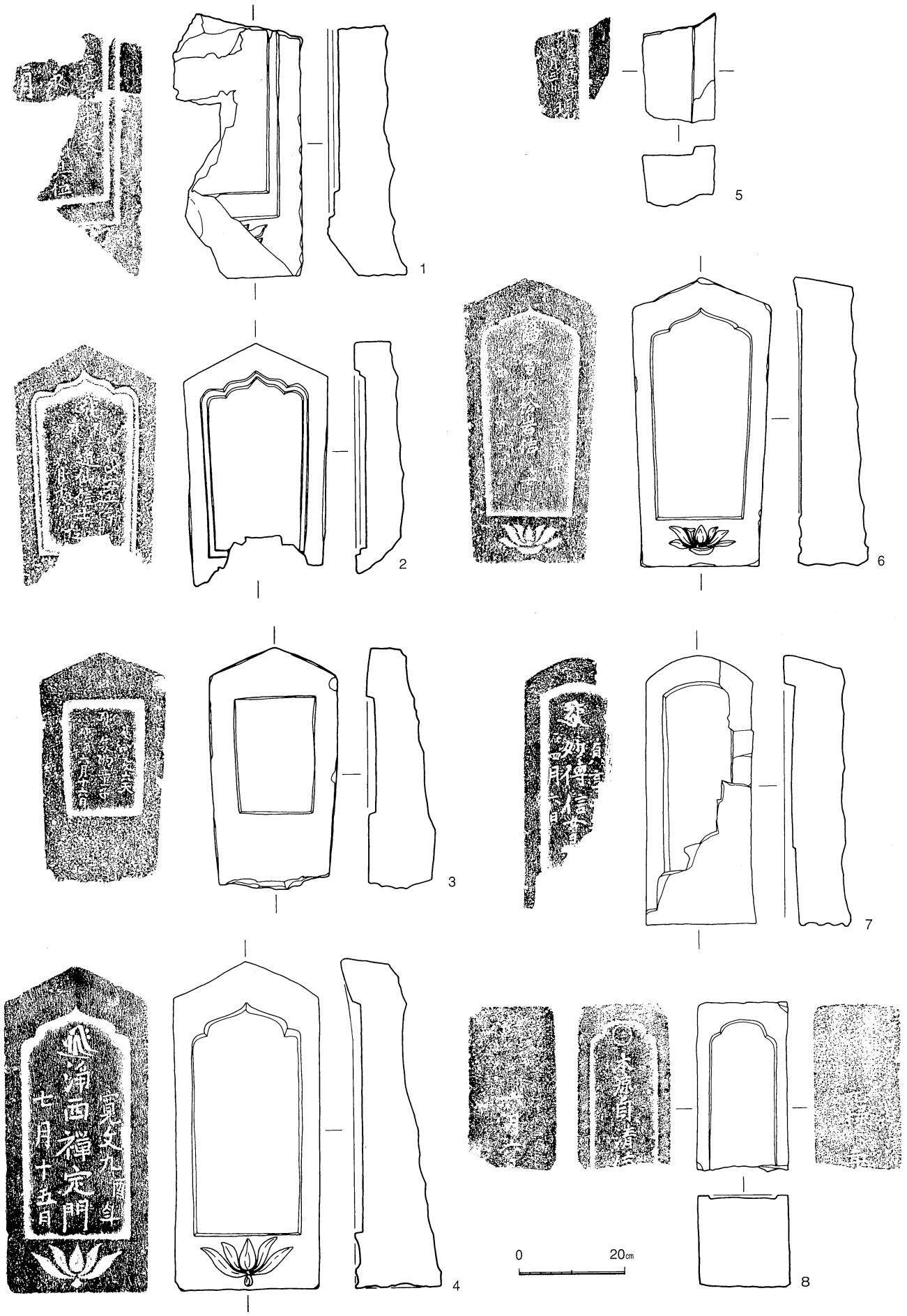
２トレンチの西半分で近世期の墓標等をはじめとする石造物や自然礫を組み合わせた施設を検出した。底部は墓標や燈籠の笠の部分を平坦に敷き詰め、南北側面は自然石が積み上げられている。東側面には石を積み上げた痕跡はなかった。底部は2.3m×1.0m以上、積み上げられた側面の高さは0.6mを呈する。底部のひとまわり外側には、この施設の掘り方を確認している。掘り方と底部の石敷きとの間、底部の石と石の間には、黄色粘土が張り詰められていた。底部に敷き詰められていた墓標の内、紀年銘の確認できたものは、寛永19（1642）年が最も古く、正徳５（1715）年が最も新しい。このことから、1715年以降の所産であると想定されるが、この施設への墓標の転用が建立されてすぐに行われたとは考えがたく、18世紀の後半以降の構築と考えられる。その性格については、東側面には石が積み上げられていなかったが、何らかの「室」と思われるものの、施設の内部からの出土品はなく、詳細は不明である。

c．遺物

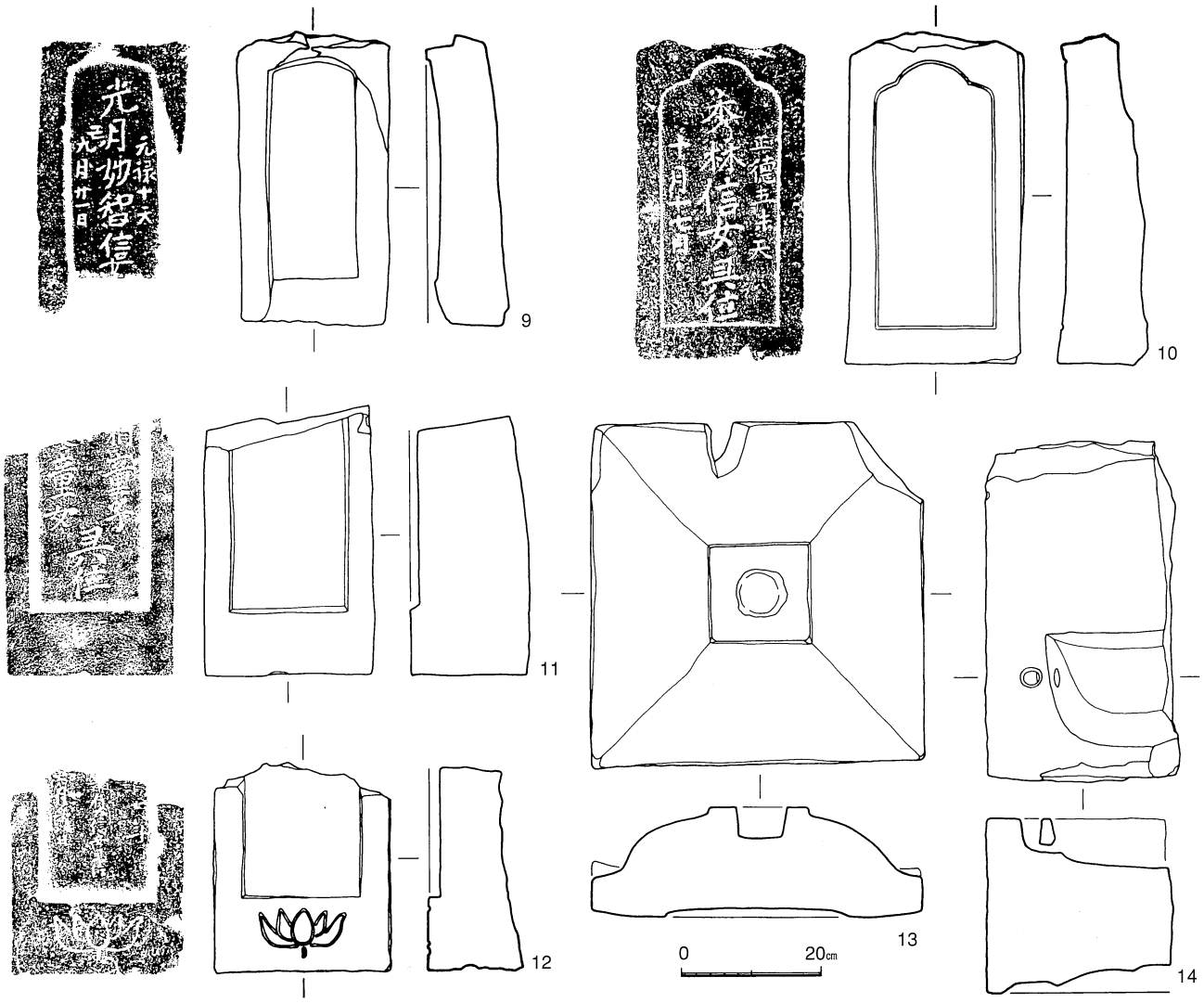
１は須恵器の坏身。２は中世期の土師質蛸壷の底部である。以上の２点は１トレンチから出土した。３～５は伊万里の碗と半筒形碗。６は陶器



第88図　箱作今池遺跡95-21区　出土遺物（1）



第89図　箱作今池遺跡95-21区　出土遺物（2）



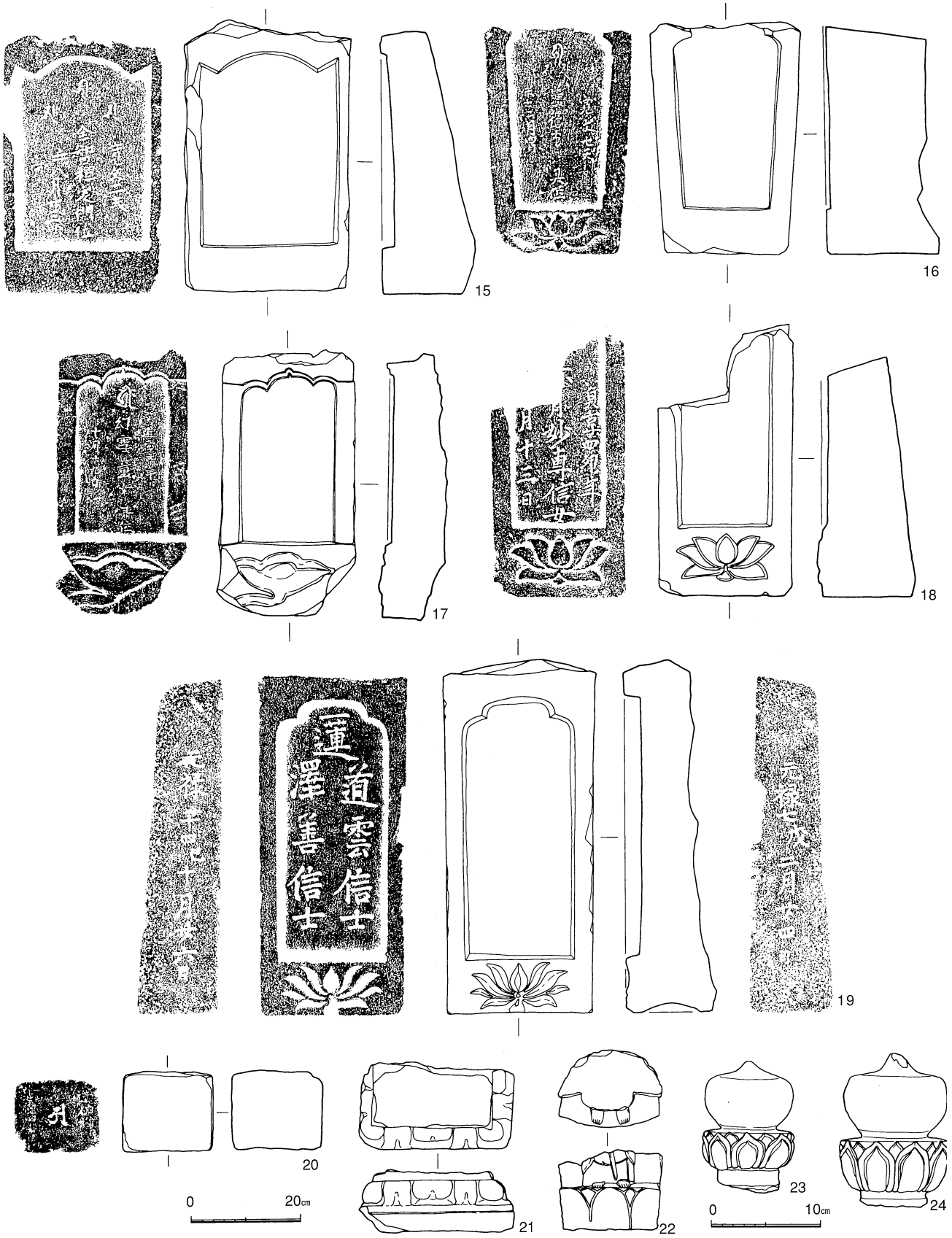
第90図　箱作今池遺跡95-21区　出土遺物（3）

皿の底部。３～６はいずれも近世期のもの。７は巴文軒丸瓦で、中世末期から近世初頭のものである。８は中世期の平瓦で、二次焼成を受けている。３～８は２トレンチから出土した。第89図以降の墓標等石造物のうち、第89・90図については、上述の石敷き遺構部分から、第91～93図については、トレンチ内からの出土もしくは調査区周辺で採集されたものである。銘文の確認された墓標については、別添の観察表を参照されたい。以下にはこれ以外の石造物について記述する。13は燈籠の笠部。14は墓標の台座。20は五輪塔の地輪部分。21は宝篋印塔もしくは五輪塔の台座。22はいわゆる舟形光背型地蔵の一部分。23・24は宝篋印塔の相輪部。31は一石五輪塔で、空風輪が欠損している。

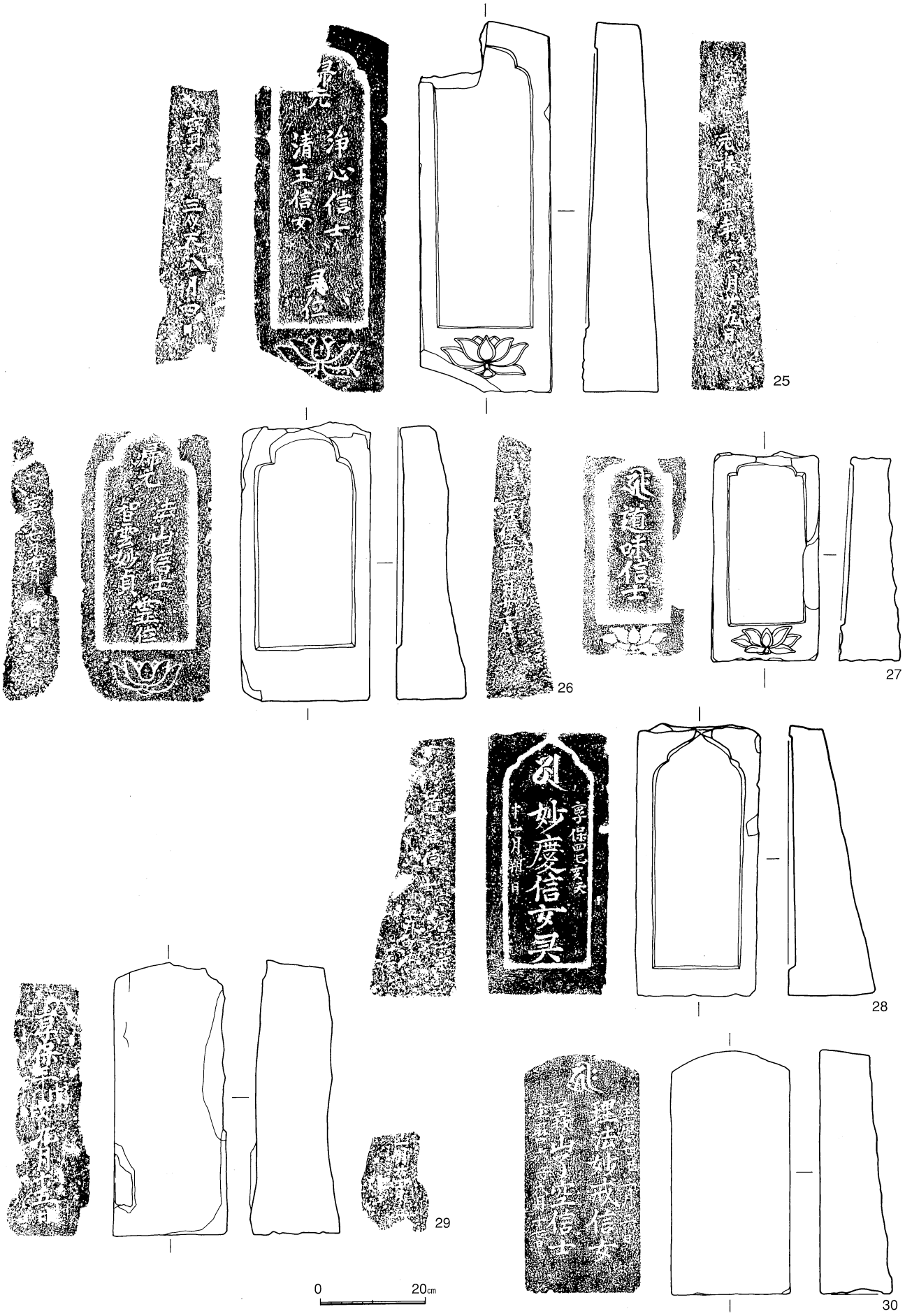
96－１区

a．調査の概要

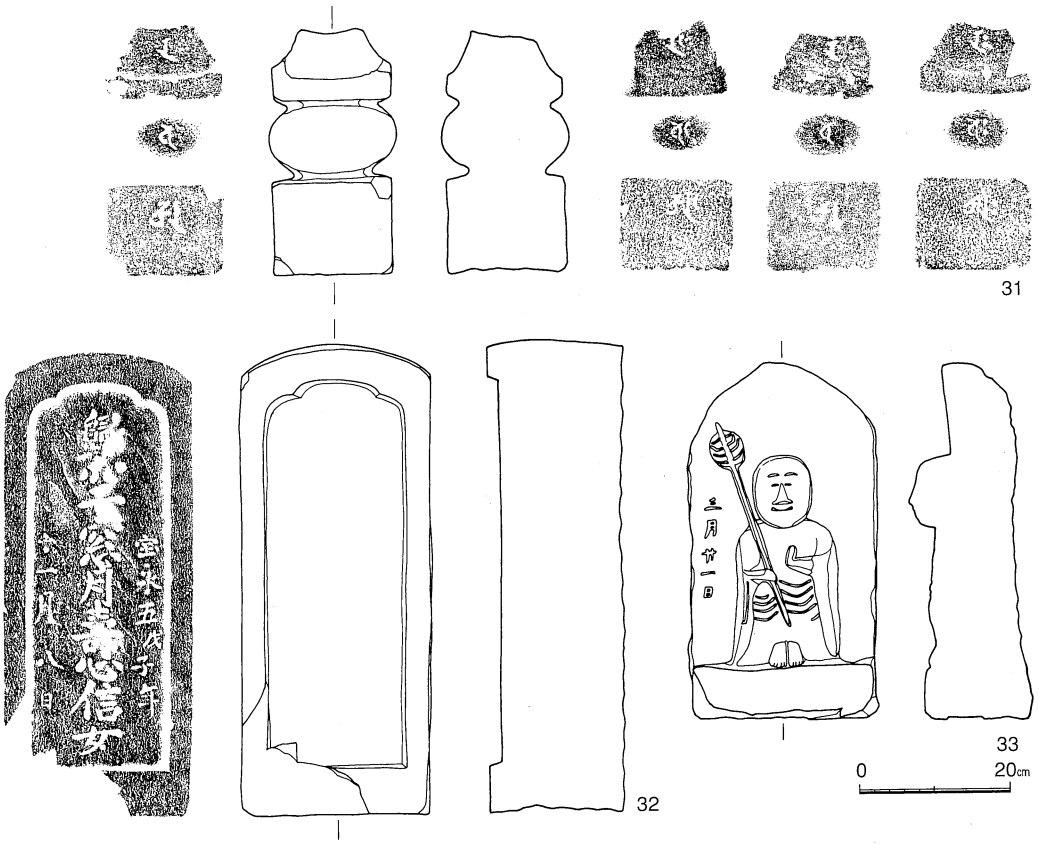
本調査区は箱作今池遺跡内の北端部に位置する。調査は、調査区内の北東隅に1.7m×1.2m（１トレンチ）と2.0m×1.2m（２トレンチ）の２ヵ所、東端部に23.0m×0.8m（３トレンチ）のトレンチを設定して行った。盛土、耕作土以下の基本的な層序は、第３層暗灰色土、第４層灰



第91図　箱作今池遺跡95-21区　出土遺物（4）



第92図　箱作今池遺跡95-21区　出土遺物（5）



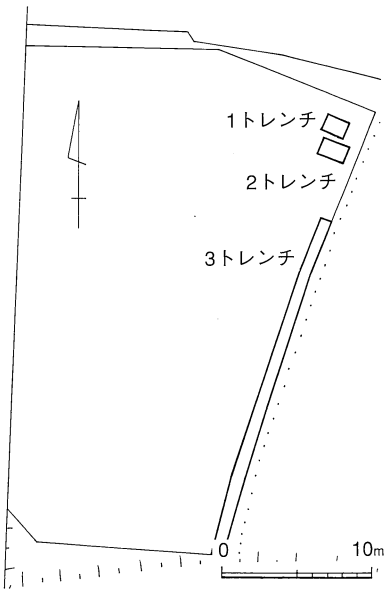
第93図　箱作今池遺跡95-21区　採集遺物

色粘土で無遺物層の順であった。遺構としては、２トレンチで土坑を検出した。遺物としては、１トレンチの暗茶色粘質土から土師器、瓦器が、２トレンチの土坑から土師器が、３トレンチから土師器、土師質土器の小皿、土師質管状土錘、磁器が出土した。遺物はいずれも細片のため図化し得なかった。

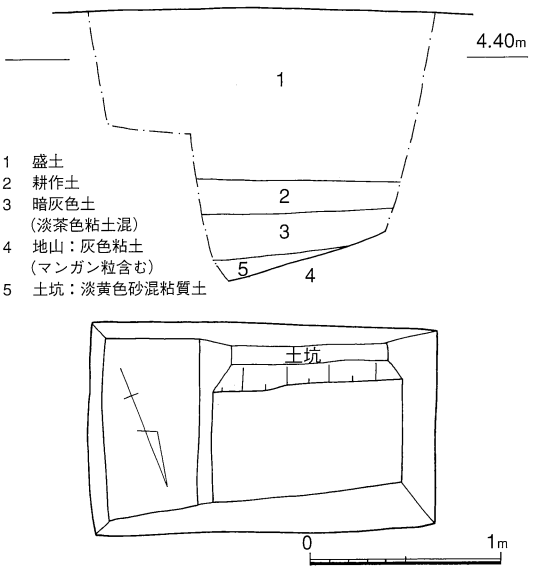
ｂ．遺構

－土坑－

２トレンチ南端部の第４層上面で、土坑の一部を検出した。深さ0.12m以上で、埋土は淡黄色砂混粘質土であった。埋土から土師器が出土した。遺物は小片のため、時代は不明であるが、倒木痕の可能性も考えられる。



第94図　箱作今池遺跡
96-1区　トレンチ位置図

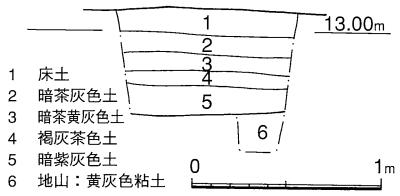


第95図　箱作今池遺跡96-1区
2トレンチ平面図・南側断面図

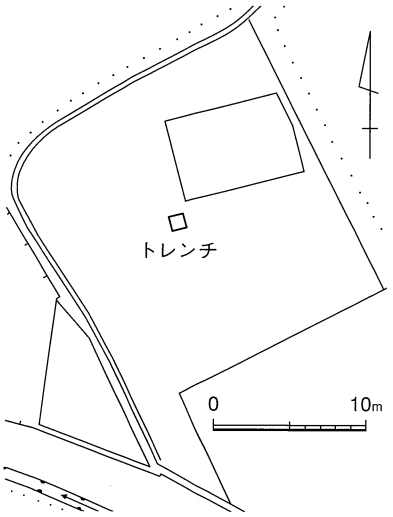
96－２区

ａ．調査の概要

本調査区は、箱作今池遺跡の中央部に位置する。調査区北部に1.0ｍ×1.0ｍのトレンチを設定して行った。基本層序は、第１層床土、第２層暗茶灰色土、第３層暗茶黄灰色土、第４層褐灰茶色土、第５層暗紫灰色土、第６層黄灰色粘土の無遺物層である。遺構は検出されず、遺物は第３層および第５層より土師質土器が出土した。いずれも細片のため図化し得なかった。



第96図　箱作今池遺跡96-2区
トレンチ北側断面図

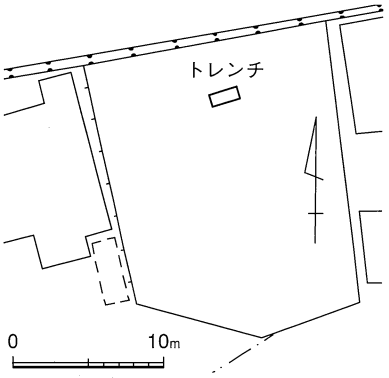


第97図　箱作今池遺跡96-2区　トレンチ位置図

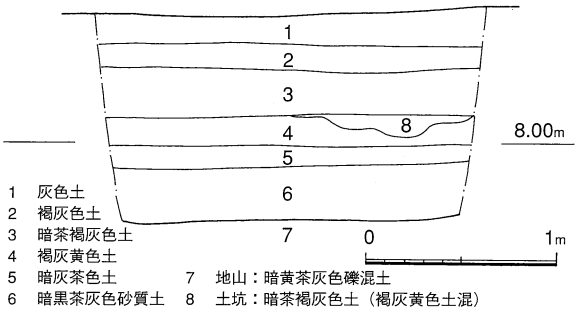
96－６区

ａ．調査の概要

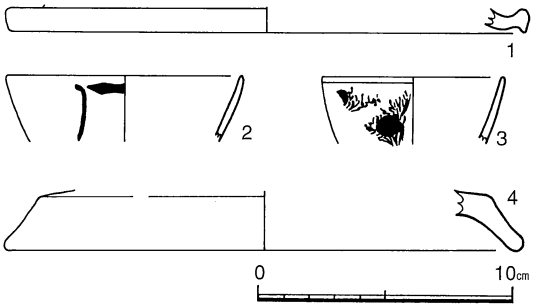
本調査区は、箱作今池遺跡の北部に位置する。調査は、調査区北部に2.0ｍ×1.0ｍのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層灰色土、第２層褐灰色土、第３層暗茶褐灰色土、第４層褐灰黄色土、第５層暗灰茶色土、第６層暗黒茶灰色砂質土、第７層暗黄茶灰礫混色土の無遺物層であった。遺構は第４層上面で土坑を検出し、遺物は、第３層から須恵器、土師質土器、瓦器、磁器、スサ入り焼土塊、第４・５層より須恵器、土師質土器、磁器、第６層より土師器が出土した。



第98図　箱作今池遺跡96-6区　トレンチ位置図



第99図　箱作今池遺跡96-6区　トレンチ南側断面図



第100図　箱作今池遺跡96-6区　出土遺跡

ｂ．遺物

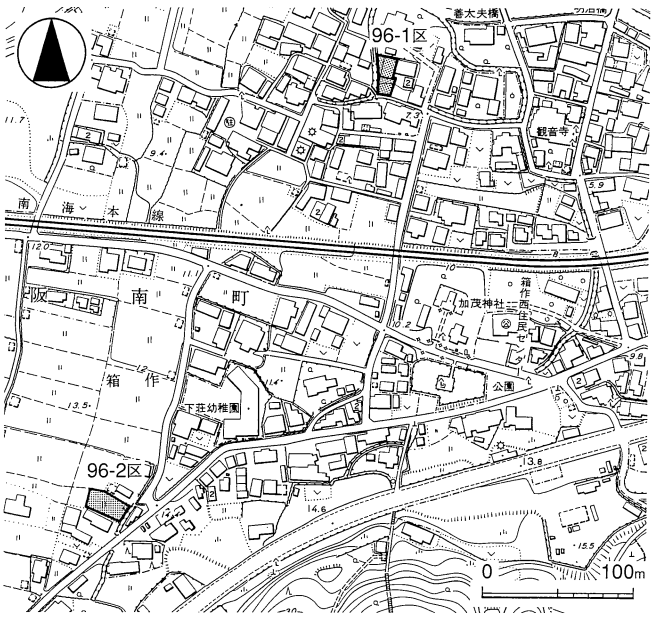
１は須恵器坏蓋の口縁部で８世紀のものと思われる。２・３は染付碗の口縁部、４は湊焼甕の蓋口縁部である。１は第４・５層から、２は第３層から出土し、３・４は調査区より表採した。

第15節　田山東遺跡

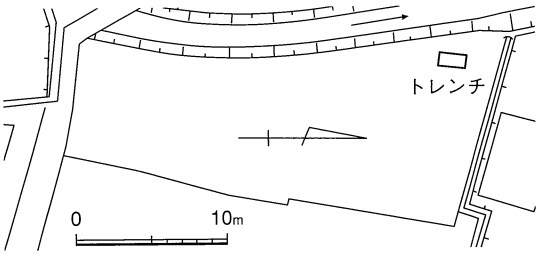
96－１区

ａ．調査の概要

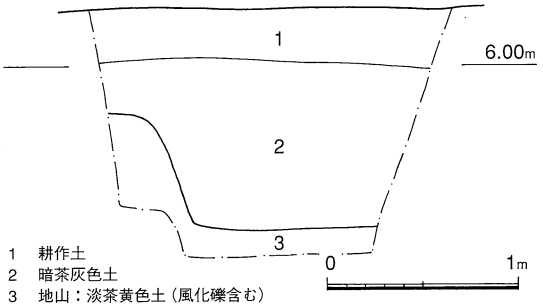
本調査区は、田山東遺跡の北部に位置する。



第101図　田山東遺跡　調査区位置図



第102図　田山東遺跡96-1区　トレンチ位置図

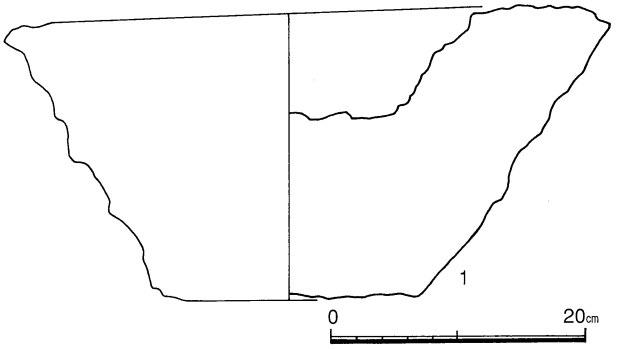


第103図　田山東遺跡96-1区　トレンチ東側断面図

調査は、調査区北部に1.9m×1.0mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層暗茶灰色土、第３層淡茶黄色土の無遺物層であった。遺構は検出されず、遺物は第１層から手水鉢、第２層から土師器、土師質蛸壷、陶器、瓦が出土した。

b．遺物

１は和泉砂岩製の手水鉢で近世期以降のものである。



第104図　田山東遺跡96-1区　出土遺物

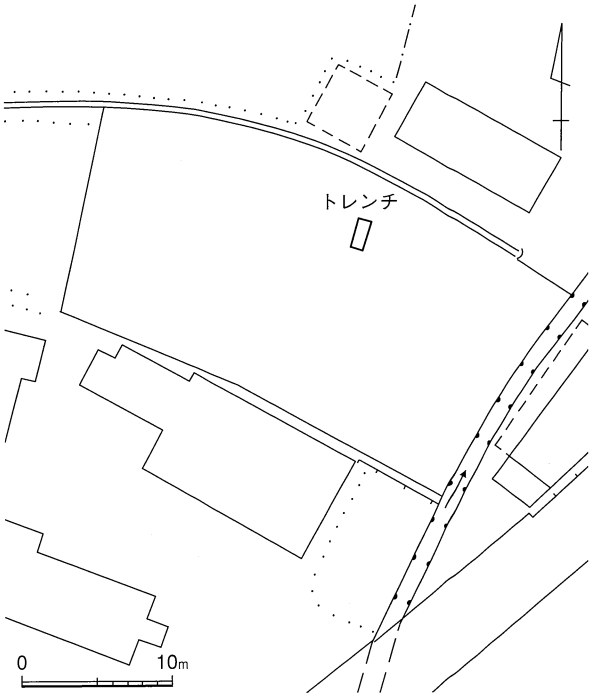
96－２区

a．調査の概要

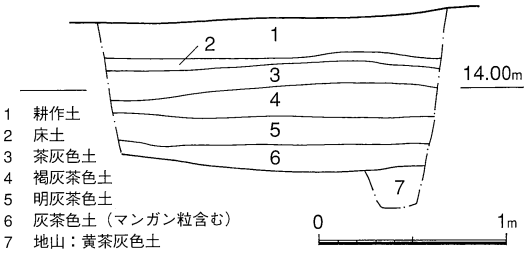
本調査区は、田山東遺跡の南端部に位置する。調査は、調査区内に2.0m×1.0mのトレンチを設定し行った。基本層序は、第１層耕作土、第２層床土、第３層茶灰色土、第４層褐灰茶色土、第５層明灰茶色土、第６層灰茶色土、第７層黄茶灰色土の無遺物層であった。遺構は検出されなかった。遺物は第３層から土師質土器、瓦器、土師質蛸壷、スサ入り焼土塊、第４層から土師器、須恵器、瓦器、土師質蛸壷が出土した。

b．遺物

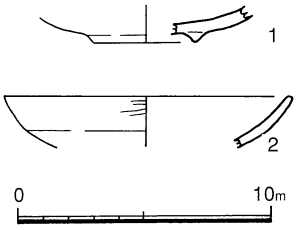
上記の遺物の内図化し得たのは、以下の２点であった。１・２はともに瓦器椀で、１は底部、２は口縁部である。



第105図　田山東遺跡96-2区　トレンチ位置図



第106図　田山東遺跡96-2区　トレンチ東側断面図



第107図　田山東遺跡96-2区　出土遺物

第4章　まとめ

以上、今年度の調査の概要について触れた。ほとんどの調査が十数m²～数m²程度の極めて小規模な調査ばかりであったが、向出遺跡（96－1区、96－2区）の調査で縄文時代後期から晩期にかけての土器が出土したこと、箱作今池遺跡内の95－21区の調査について下記に簡単に触れ、まとめにかえたい。

向出遺跡の縄文式土器は、前述したように後・晩期のものである。これまで市内で出土している最古の縄文式土器は、馬川北遺跡における晩期後葉の凸帯文系土器いわゆる滋賀里Ⅳ式、船橋式、長原式に属するものであった。今回の向出遺跡出土の土器には、晩期でも前葉～中葉の西日本磨研土器があり、これに先行する滋賀里Ⅰ～Ⅲ式のものであると思われる。さらに、縄文を施したものが小片ながら若干あり、これらについては、後期の北白川上層式、元住吉山Ⅰ式等の縁帯文土器に属するものである可能性がある。なお、周辺地域における同時期の遺跡としては、本市に西接している岬町・淡輪遺跡、泉佐野市・三軒屋遺跡などが知られている。

箱作今池遺跡95－21区からは墓標等の石造物が大量に出土した。本文中でも記述したように、この調査区あたりには寺院が存在していたとの伝承があったが、これらの遺物の出土や遺構の存在はこの伝承を裏付けるものであった。この寺院は、今回出土した石造物の紀年銘によると、少なくとも寛永19（1642）年から宝暦7（1757）年にかけての間は存在していたと考えられる。また、出土した墓標には梵字で「キリーク・サ・サク」の弥陀三尊が刻まれているものが多くみられることから、この寺院の宗派は浄土宗である可能性が高い。当教育委員会に寄託されている「山中家文書」に上記の間にあたる元禄9（1696）年の「寺社其の他改帳」が残されている。これによると、調査区周辺は当時箱作村と呼ばれていたが、この村には寺院が9ヵ所あり、そのうち浄土宗は「宗福寺」「発徳寺」「施福寺」「地蔵寺」の4ヵ所が存在していた。うちの宗福寺は現在も存在していることから残りの3ヵ寺のうちのどれかと想定できる。これらの寺院は明治初期の神仏分離令に伴う排仏棄釈の波にあって廃寺となったようで、明治6（1873）年の「廃寺跡地并開墾土地書上帳」にこの3ヵ寺の記述があり、それぞれの寺院の跡地の面積、縦横の長さが記されている。今回の調査区敷地全体が江戸時代に存在していたとされる寺院の敷地全体と同じであったと仮定して考えてみた。調査区敷地の大きさは、東辺が約25m、西辺が約30m、北辺が約14.5m、南辺が約22mであった。3ヵ寺のうちの「施福寺」の項には、「長拾四間／横八間」と記されている。これをメートルに換算（1間を1.818mとして）すると、約25.5mと約14.5mとなる。調査区の北辺と東辺だけをとらえればほぼ同じ数値となっている。以上のようなことだけで今回の調査区にあったとされる寺院がすぐに排仏棄釈時に廃寺となった「施福寺」と断定はできないが、ひとつの可能性として考えておきたい。

まとめとしては、非常に簡単雑駁になった。当教育委員会が実施している行政発掘調査は、最低限の記録保存のための調査であるため、そのほとんどが極めて小規模な「点」的なものになっている。しかし、今後もこれらの「点」の調査を地道に続け、「点」を「線」や「面」に拡げていきたいと考えている。

挿図番号 遺物番号	第89図 1	第89図 2	第89図 3	第89図 4	第89図 5	第89図 6	第89図 7	第89図 8	第90図 9	第90図 10	第90図 11	第90図 12
形態	不明	尖頭型	尖頭型	尖頭型	不明	尖頭型	箱型	方型	方型	尖頭型	不明	不明
法量 (cm)	高さ 幅 奥行 (51.0) (24.5) 12.1	高さ 幅 奥行 (45.6) 27.0 9.60	高さ 幅 奥行 45.6 24.0 12.4	高さ 幅 奥行 62.4 27.8 16.8	高さ 幅 奥行 (20.7) (13.8) (11.9)	高さ 幅 奥行 54.8 26.0 13.4	高さ 幅 奥行 51.0 20.8 12.4	高さ 幅 奥行 (32.0) 18.0 17.0	高さ 幅 奥行 41.0 22.0 10.0	高さ 幅 奥行 47.4 24.6 12.4	高さ 幅 奥行 (38.0) 22.0 14.0	高さ 幅 奥行 (29.7) 24.8 12.5
調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 荒取り 底面 欠損	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 荒取り 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 荒取り 底面 欠損	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 欠損	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 〃 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整
銘文	正面 寛永十九天 汞 一月 㐂位	正面 慶安丑年 道仙信士 六月十八日 位㐂	正面 寛文六天 □的童子 六月十六日	正面 寛文九 酉年 浄西禪定門 七月十五日	正面 延宝□年 小 十月三日 現	正面 貞享二 乙丑年 皈西雪顕松岩信士㐂 四月廿二日	正面 貞享□ 妙傳信女㐂 戊四月六日	左側面 正面 右側面 元禄六年 ○本涼自清信 六月六日	正面 元禄十天 光月妙智信女 己九月廿一日	正面 正徳五未天 秀林信女㐂位 十月十七日	正面 相童子 □童子 㐂位	正面 七年 冀 信女㐂位 七月十八日
紀年銘 (西暦)	寛永十九 (1642年)	慶安丑年 (1649年)	寛文六 (1666年)	寛文九 (1669年)	延宝 (1673～1680年)	貞享二 (1685年)	貞享四 (1687年)	元禄六 (1693年)	元禄十 (1697年)	正徳五 (1715年)	不明	不明
備考	レリーフ状蓮弁	梵字	梵字	V字状蓮弁		V字状蓮弁 皈→帰 雪→雪	戌→元禄一年 (1688年)	下部欠損	頭頂部荒取り	頭頂部欠損	上部欠損	線彫り蓮弁 上部欠損

挿図番号 遺物番号	第91図 15	第91図 16	第91図 17	第91図 18	第91図 19	第92図 25	第92図 26	第92図 27	第92図 28	第92図 29	第92図 30	第93図 32
形態	不明	不明	方型	不明	方型	尖頭型	不明	方型		方型		
法量 (cm)	高さ 幅 奥行 (46.0) 30.0 18.0	高さ 幅 奥行 (43.0) 27.0 15.0	高さ 幅 奥行 (48.4) 24.5 11.0	高さ 幅 奥行 (50.0) 24.0 16.0	高さ 幅 奥行 64.2 27.8 16.5	高さ 幅 奥行 69.6 25.0 14.4	高さ 幅 奥行 (52.0) 24.0 17.0	高さ 幅 奥行 (39.4) 20.0 11.4	高さ 幅 奥行 51.6 21.4 16.2	高さ 幅 奥行 51.0 23.0 16.0	高さ 幅 奥行 46.0 22.4 13.5	高さ 幅 奥行 62.6 25.0 17.0
調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 荒取り 背面 〃 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 荒取り	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 粗いノミ調整 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 剥離 側面 細かいノミ調整 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 粗いノミ調整 背面 〃 底面 〃	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り 底面 粗いノミ調整	正面 細かいノミ調整 側面 〃 背面 荒取り・粗いノミ調整 底面 〃
銘文	正面 寛文二天 全智禪定門位 寅 壬八月廿三小	正面 寛文七天 善證信士㐂位 未十二月四日	正面 延宝六年 幻雪童女㐂位 十月十九日	正面 貞享四卯年 □月妙專信女 □月十三日	左側面 正面 右側面 元禄七 戊 二月廿四日 一蓮 道雲信士 澤善信士 元禄十四 巳 十月廿六日	左側面 正面 右側面 元禄十五年 午 六月廿九日 県元 浄心信士 清玉信女 㐂位 寶永三 戊 天 八月四日	左側面 正面 右側面 享保二 酉 十月廿一日 帰元 法山信士 智雲妙貞 霊位 宝永七 刀 十月十二日	正面 道味信士	左側面 正面 右側面 離の為不明 享保三 戊 九月十五日 □一月廿四日	左側面 正面 享保四 巳 亥天 妙慶信女㐂 十一月朔日 宝暦二年 道清信士 申五月四日	正面 宝暦七 丑 二月二日 理法妙戒信女 義山了空信士 宝暦六 子 六月七日	正面 宝永五 戊 子年 宝永 窓月壽心信女 □□ 歸 十一月八日
紀年銘 (西暦)	寛文二 (1662年)	寛文七 (1667年)	延宝六 (1676年)	貞享四 (1687年)	元禄十四 元禄七 (1701年) (1694年)	宝永三 元禄十五 (1706年) (1702年)	宝永七 享保二 (1710年) (1717年)	無し	享保三 (1718年)	宝暦二 享保四 (1752年) (1719年)	宝暦六 宝暦七 (1756年) (1757年)	宝永五 (1708年)
備考	頭頂部欠損	レリーフ状蓮弁 頭頂部欠損	レリーフ状蓮弁 頭頂部荒取り	レリーフ状蓮弁 上部欠損	V字状蓮弁 頭頂部荒取り	レリーフ状蓮弁	線彫り蓮弁 頭頂部欠損	凹状蓮弁				

箱作今池遺跡95—21区　石造物観察表

報告書抄録

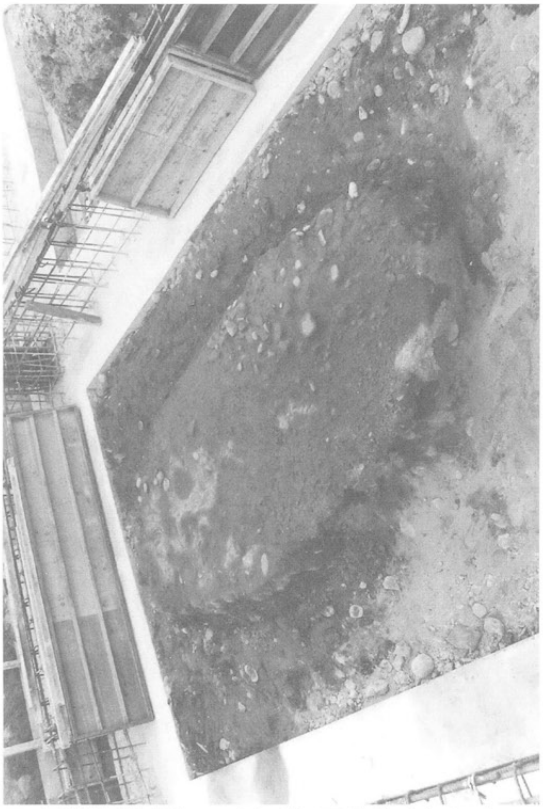
ふりがな	はんなんしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいよう
書名	阪南市埋蔵文化財発掘調査概要　１２
副書名	
巻次	
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告
シリーズ番号	２２
編集者名	三好義三・田中早苗・上野仁
編集機関	阪南市教育委員会社会教育課
所在地	599-02　大阪府阪南市尾崎町35-1　　TEL　0724-71-5678
発行年月日	１９９７年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地		コード 市町村番号	遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
尾崎海岸	大阪府 尾崎町	阪南市	２７２３２	２２	３４２１３８	１３５１４３１	910312～15	６．５	住宅
	尾崎町		２７２３２	２２	３４２１３９	１３５１４２９	９６０４１８	２．１	住宅
下出北	下出		２７２３２	２２	３４２１１６	１３５１５１２	９６０５１３	１．２	倉庫
下出	下出		２７２３２	２２	３４２１１９	１３５１４５８	９６１２０９	１．５	住宅
馬川北	下出		２７２３２	２２	３４２１３２	１３５１４５７	９６０３２６	２．３	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２１３４	１３５１４５６	９６０８１９	１．７	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２１３４	１３５１４５７	９７０１２８	７．８	住宅
馬川	下出		２７２３２	２２	３４２１２９	１３５１６１４	９６０６１９	３．９	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２１３０	１３５１５００	９６０７１０	２．１	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２１２５	１３５１４６０	９６１１１２	２．２	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２１５５	１３５１５００	９７０１０９	４．６	住宅
向出	下出		２７２３２	２２	３４２０５５	１３５１５１７	９６１２２６	５．０	住宅
	下出		２７２３２	２２	３４２０５４	１３５１５１７	９７０１２７	５．１	住宅
西畑	下出		２７２３２	２２	３４２０３６	１３５１５１１	９６１０１８	３．３	住宅
神光寺蓮池	石田		２７２３２	２２	３４２０４１	１３５１４４８	９６０２０２	１．８	住宅
	石田		２７２３２	２２	３４２０３７	１３５１４５２	９６０２０２	２．３	住宅
	石田		２７２３２	２２	３４２０５０	１３５１４４６	960709･23･24	３６．１	住宅
	石田		２７２３２	２２	３４２０４２	１３５１４４５	９６１１２０	３．３	住宅
自然田	自然田		２７２３２	２２	３４２０２２	１３５１５３３	９６０７３０	０．９	住宅
	自然田		２７２３２	２２	３４２０２２	１３５１５２９	９６０８０８	４．７	住宅
	自然田		２７２３２	２２	３４２１２６	１３５１５２９	９６１２１６	１．５	住宅
鳥取北	鳥取		２７２３２	２２	３４２０２１	１３５１３３４	９６１１２２	２．０	住宅
戎	鳥取		２７２３２	２２	３４２０４５	１３５１３５１	９６１１１３	２．２	住宅
	鳥取		２７２３２	２２	３４２０４５	１３５１３５０	９６１１１３	２．４	住宅
貝掛	貝掛		２７２３２	２２	３４２０３２	１３５１３３０	９６０７０４	２．７	住宅
	貝掛		２７２３２	２２	３４２０２１	１３５１３３５	９６１０２８	３．９	住宅
和泉鳥取	和泉鳥取		２７２３２	２２	３４２１３２	１３５１５５１	９６１２１６	１．３	店舗付住宅
箱作今池	箱作		２７２３２	２２	３４２０１３	１３５１２５４	960222･23	３８．４	店舗付住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０１５	１３５１２４６	９６０３２６	３３．０	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０２３	１３５１２５１	９６０２１３	３．１	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０３７	１３５１２５２	960228～22	１２．４	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０２４	１３５１２４５	960509･0715	４．４	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０２９	１３５１２０２	９６０５１６	１．０	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２０２１	１３５１３０２	９６１１１４	２．０	住宅
田山東	箱作		２７２３２	２２	３４２０１５	１３５１２３７	９６０５０９	１．９	住宅
	箱作		２７２３２	２２	３４２００１	１３５１２３７	９６０８３０	２．０	住宅

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎海岸	生産遺跡	弥生～古墳	土器溜り・製塩炉	庄内式土器・布留式土器・製塩土器・蛸壷・土師質土器・陶器・磁器	
同上	同上	同上		陶器・土師質管状土錘・製塩土器・瓦	
下出北	散布地		溝	土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦	
下出	散布地			土師器・瓦器・蛸壷	信長街道(中世末期に整備)に面している
馬川北	散布地		ピット	弥生式土器・須恵器・蛸壷	
同上	同上			サヌカイト・土師器・須恵器・瓦器・土師質土器	
同上	同上	中世期以前	建物跡(掘建柱建物)・ピット	土師器・須恵器・陶器・蛸壷	
馬川	散布地			須恵器	
同上	同上			須恵器・瓦器・土師質土器・磁器・蛸壷	
同上	同上		溝・ピット	須恵器・黒色土器・土師質土器・瓦・石臼	
同上	同上			土師質土器	
向出	散布地			縄文式土器・土師器・須恵器・瓦器	
同上	同上			サヌカイト・縄文式土器・弥生式土器・土師器・瓦器	
西畑	散布地				
神光寺蓮池	散布地・社寺・その他の墓			土師器・黒色土器・瓦器・瓦	
同上	同上				
同上	同上		溝(中世期以降)	弥生式土器・須恵器・瓦器・土師質土器・陶器・磁器・土師質有孔土錘	
同上	同上			弥生式土器・土師器・黒色土器・瓦器・土師質管状土錘	
自然田					
同上	同上			陶器・磁器	
同上	同上				
鳥取北	散布地		土坑・溝(近世期か)	サヌカイト・土師質土器・陶器・磁器・土師質管状土錘	
貝掛	散布地				
同上	同上			磁器	
戎	散布地			土師質土器	
同上	同上			土師質土器	
和泉鳥取	散布地			土師質土器	
箱作今池	散布地		土坑・溝	サヌカイト・土師器・須恵器・黒色土器・瓦器・土師質土器・製塩土器・蛸壷	
同上	同上			土師器・須恵器・瓦器・土師質土器	
同上	同上		溝(明治期以降か)	磁器・蛸壷・瓦	
同上	同上		石敷の施設(18世紀後半以降か)	須恵器・瓦器・陶器・磁器・蛸壷・瓦(近世～近代期)	近世期の墓標等と自然礫を組み合わせた施設
同上	同上		土坑	土師器・瓦器・土師質土器・土師質管状土錘・磁器	
同上	同上			土師質土器	
同上	同上			土師器・須恵器・瓦器・土師質土器・磁器・スサ入焼土塊	
田山東	散布地			土師器・蛸壷・瓦・陶器・手水鉢	
同上	同上			土師器・須恵器・瓦器・土師質土器・蛸壷・スサ入焼土塊	

尾崎海岸遺跡90-1区　調査区全景（南より）

尾崎海岸遺跡90-1区　第2面全景（南より）



尾崎海岸遺跡90-1区　第1面全景（南より）

尾崎海岸遺跡90-1区　南断面

図版2

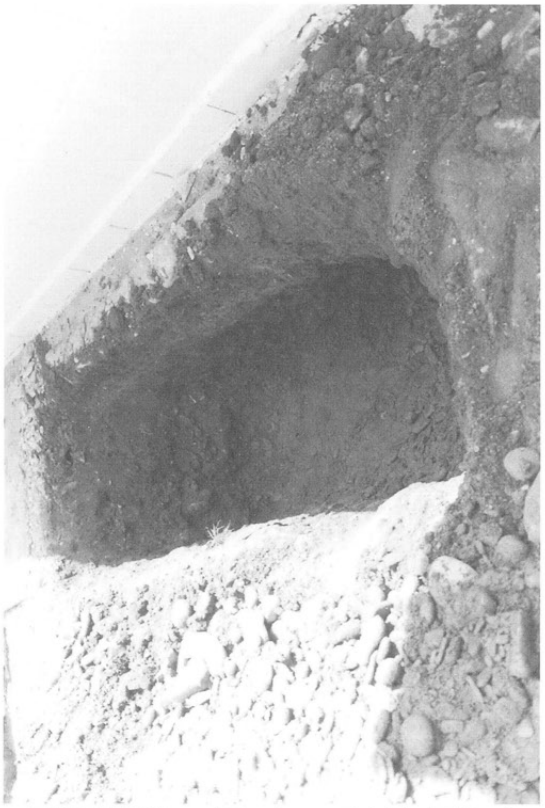
尾崎海岸遺跡90-1区　炉　掘削前（東より）

尾崎海岸遺跡90-1区　炉　掘削後（南より）

尾崎海岸遺跡90-1区　炉　北断面

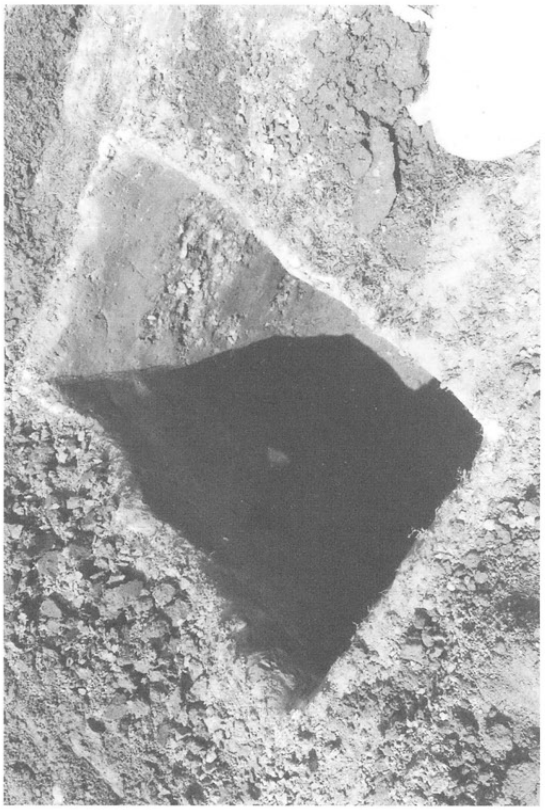
尾崎海岸遺跡90-1区　炉　掘削後（北より）

尾崎海岸遺跡90-1区　遺物出土状況（北より）



尾崎海岸遺跡96-1区　トレンチ全景（西より）

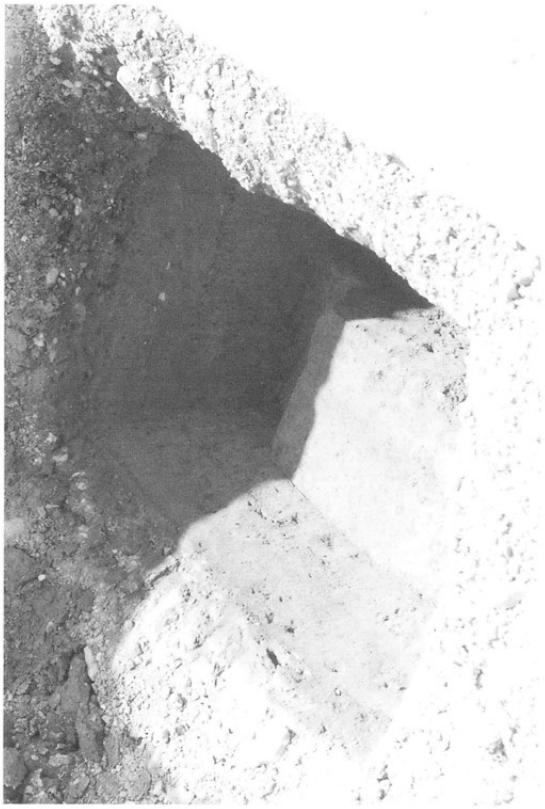
尾崎海岸遺跡90-1区　遺物出土状況（西より）



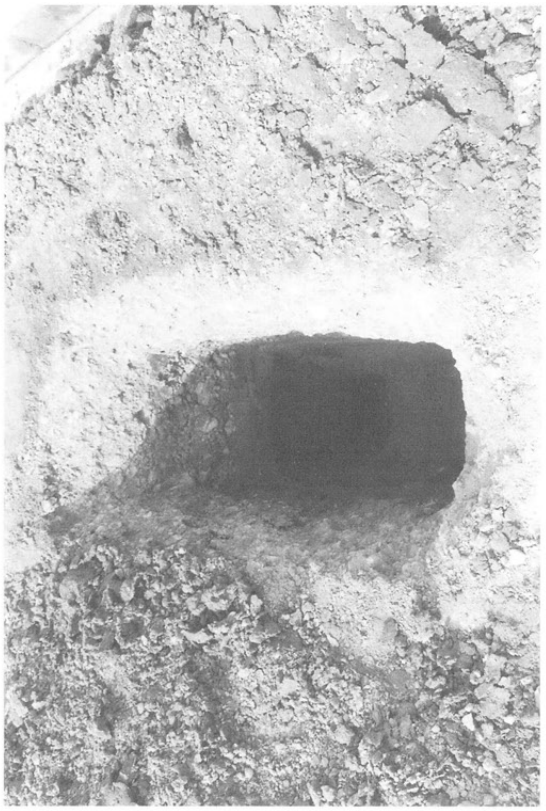
下出北遺跡96-1区　トレンチ全景（南より）

図版4

下出遺跡96-2区　トレンチ全景（北より）



馬川北遺跡96-1区　トレンチ全景（北より）



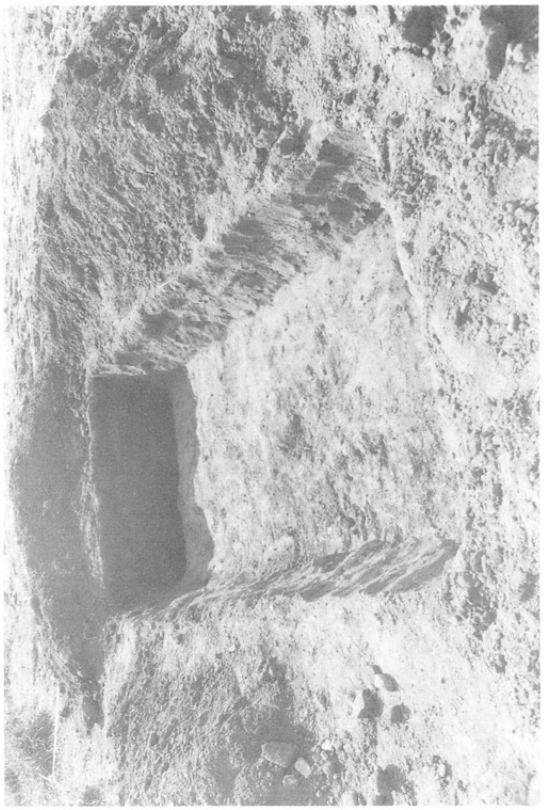
馬川北遺跡95-1区　トレンチ全景（南より）

馬川北遺跡96-3区　トレンチ全景（北より）

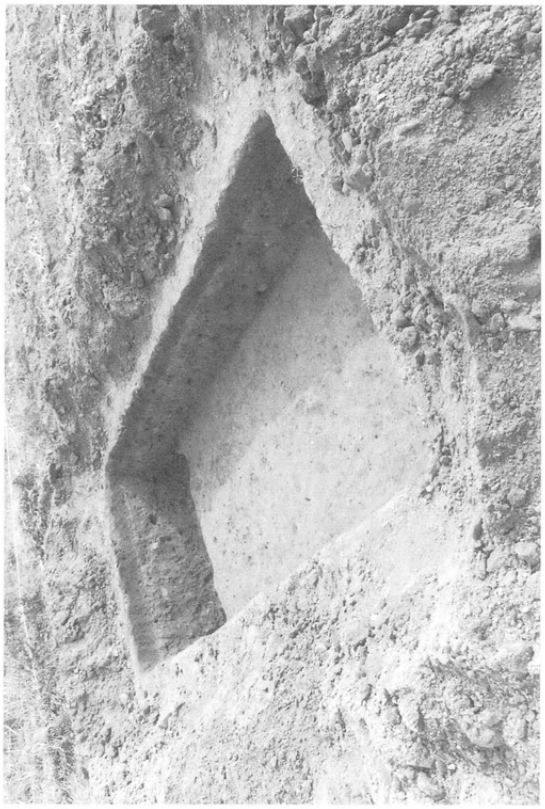
馬川遺跡96-2区　トレンチ全景（西より）

馬川遺跡96-4区　トレンチ全景（東より）

馬川遺跡96-3区　トレンチ全景（南より）



向出遺跡96-1区　トレンチ全景（北より）



向出遺跡96-2区　トレンチ全景（西より）

神光寺（蓮池）遺跡95-4区　トレンチ全景（東より）

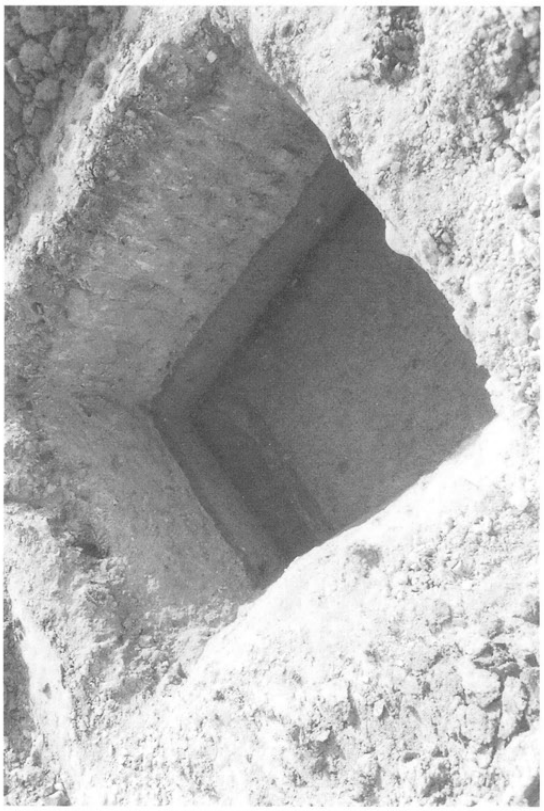
西畑遺跡96-1区　トレンチ全景（東より）

神光寺（蓮池）遺跡95-5区　トレンチ全景（南より）

神光寺（蓮池）遺跡96-2区　3トレンチ溝（南より）

神光寺（蓮池）遺跡96-2区　5トレンチ全景（北より）

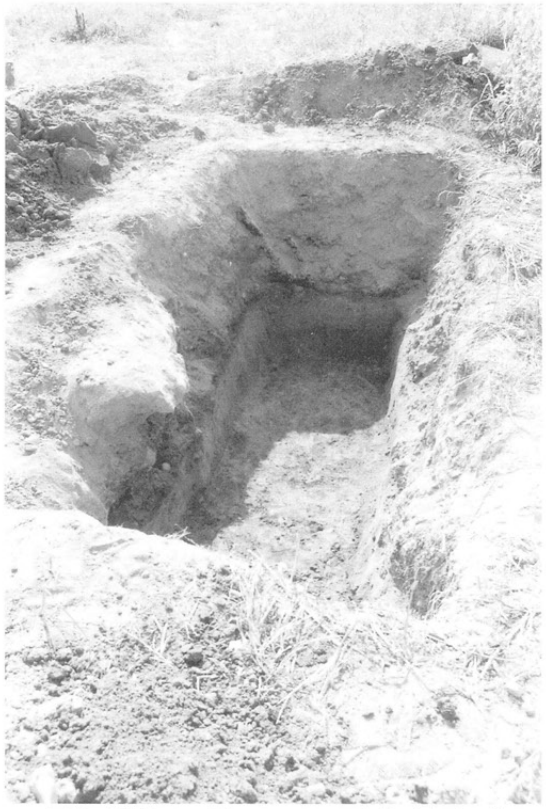
神光寺（蓮池）遺跡96-2区　3トレンチ溝　北断面



神光寺（蓮池）遺跡96-5区　トレンチ全景（北より）

自然田遺跡96-2区　トレンチ全景（北より）

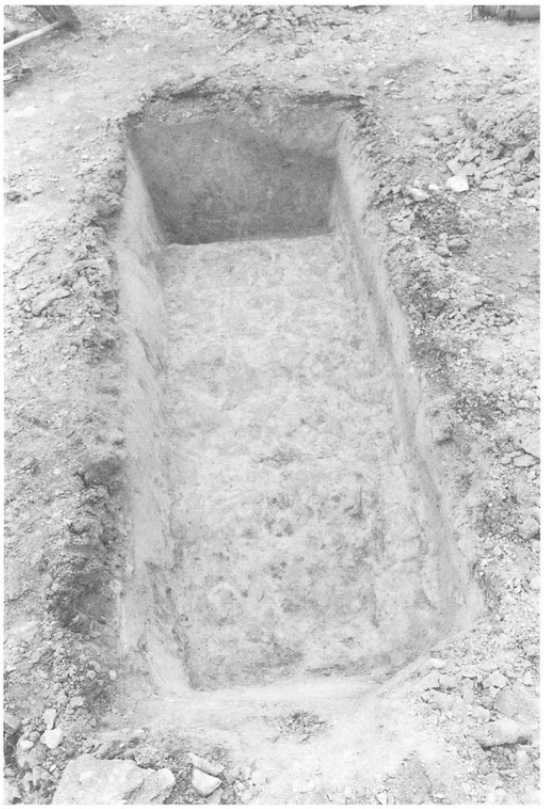
自然田遺跡96-4区　トレンチ全景（南より）



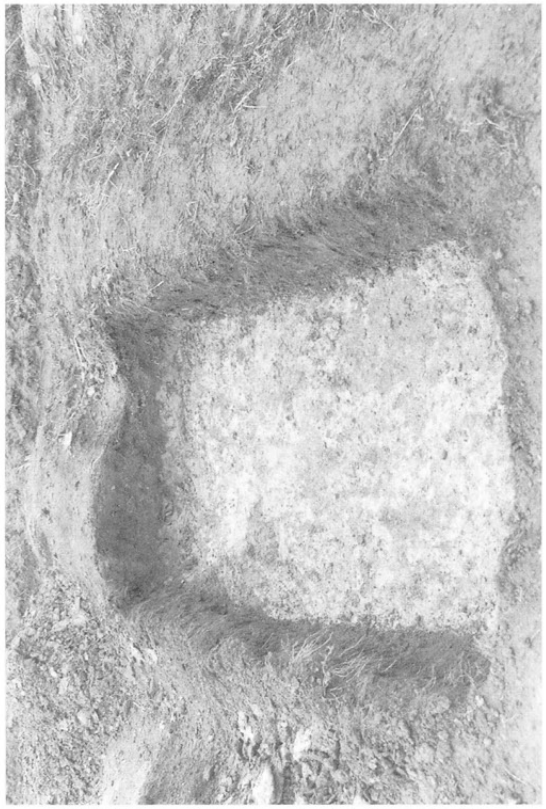
自然田遺跡96-3区　トレンチ全景（東より）

鳥取北遺跡96-1区　トレンチ全景（南より）

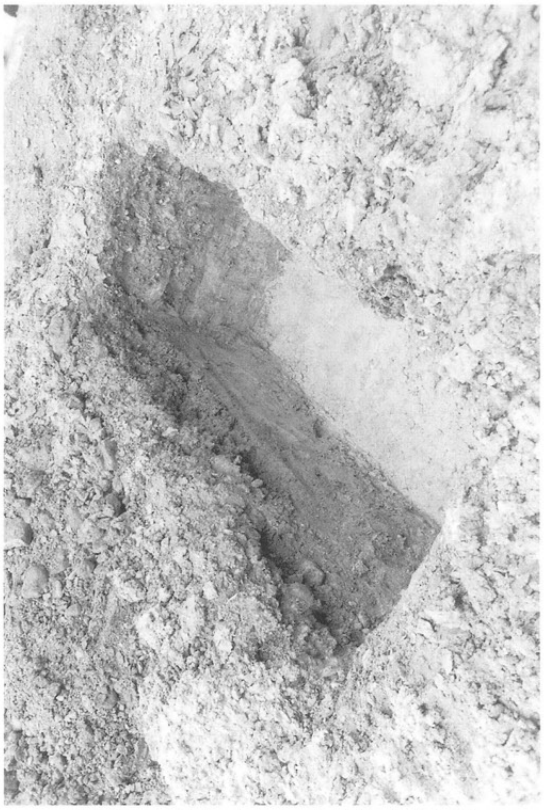
貝掛遺跡96-2区　トレンチ全景（北より）



戎遺跡96-1区　トレンチ全景（西より）



貝掛遺跡96-3区　トレンチ全景（西より）



戎遺跡96-2区　トレンチ全景（南より）

和泉鳥取遺跡96-1区　トレンチ全景（西より）

箱作今池遺跡95-16区　1トレンチ全景（北より）

箱作今池遺跡95-11区A　全景（北より）

箱作今池遺跡95-19区　トレンチ全景（南より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ全景（南東より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ（北より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ石敷遺構（北より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ石敷遺構（南東より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ石敷遺構　石除去後（東より）

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ石敷遺構　北側断面

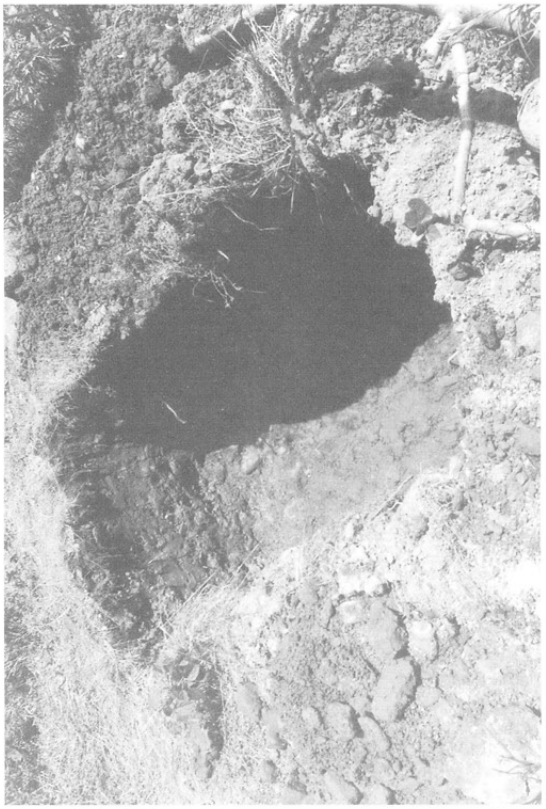
箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ　北側断面

箱作今池遺跡95-21区　2トレンチ　西側断面

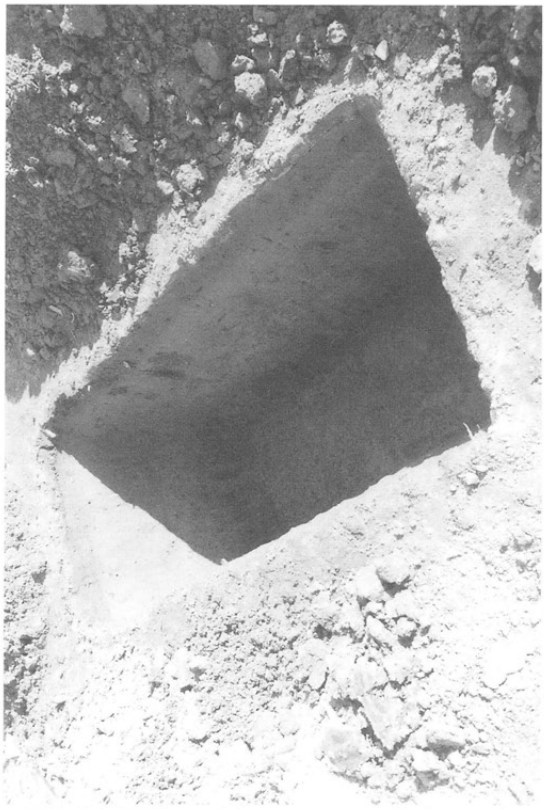
箱作今池遺跡95-21区　トレンチ全景（南より）

箱作今池遺跡96-1区　トレンチ全景（北より）

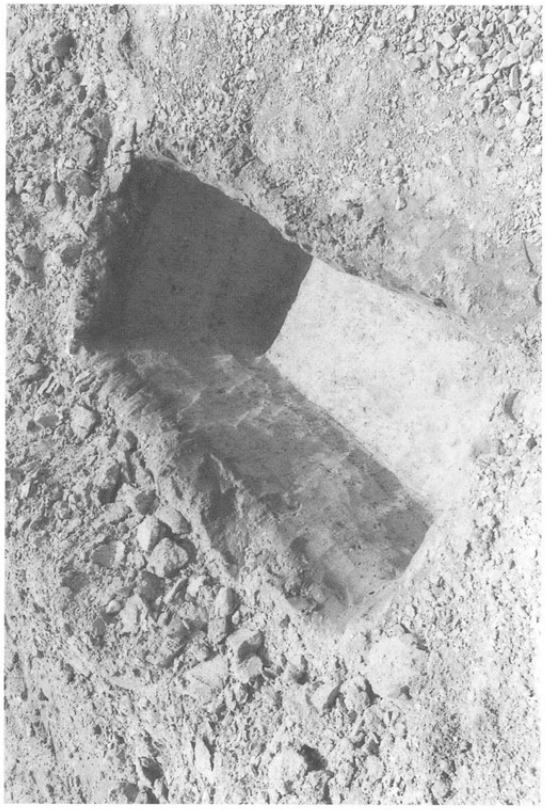
箱作今池遺跡96-2区　トレンチ全景（南より）



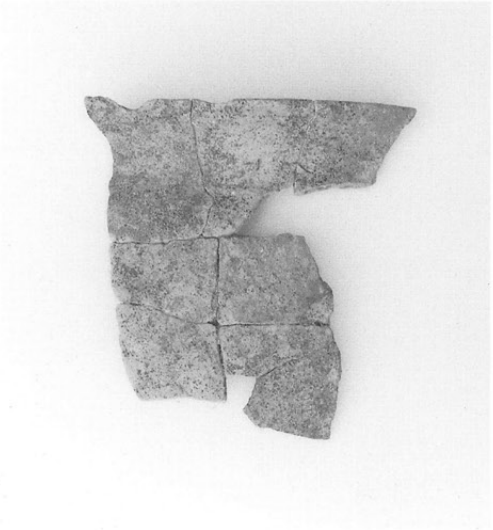
田山東遺跡96-1区　トレンチ全景（南より）

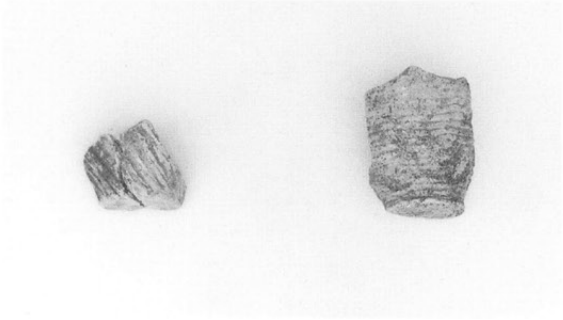


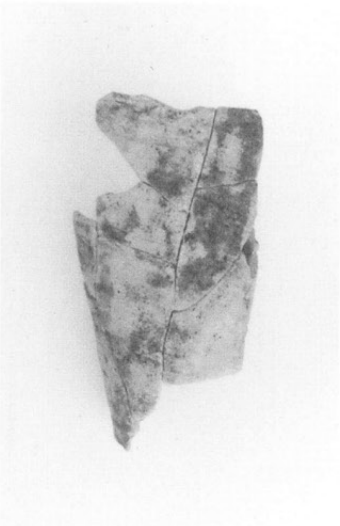
箱作今池遺跡96-6区　トレンチ全景（西より）



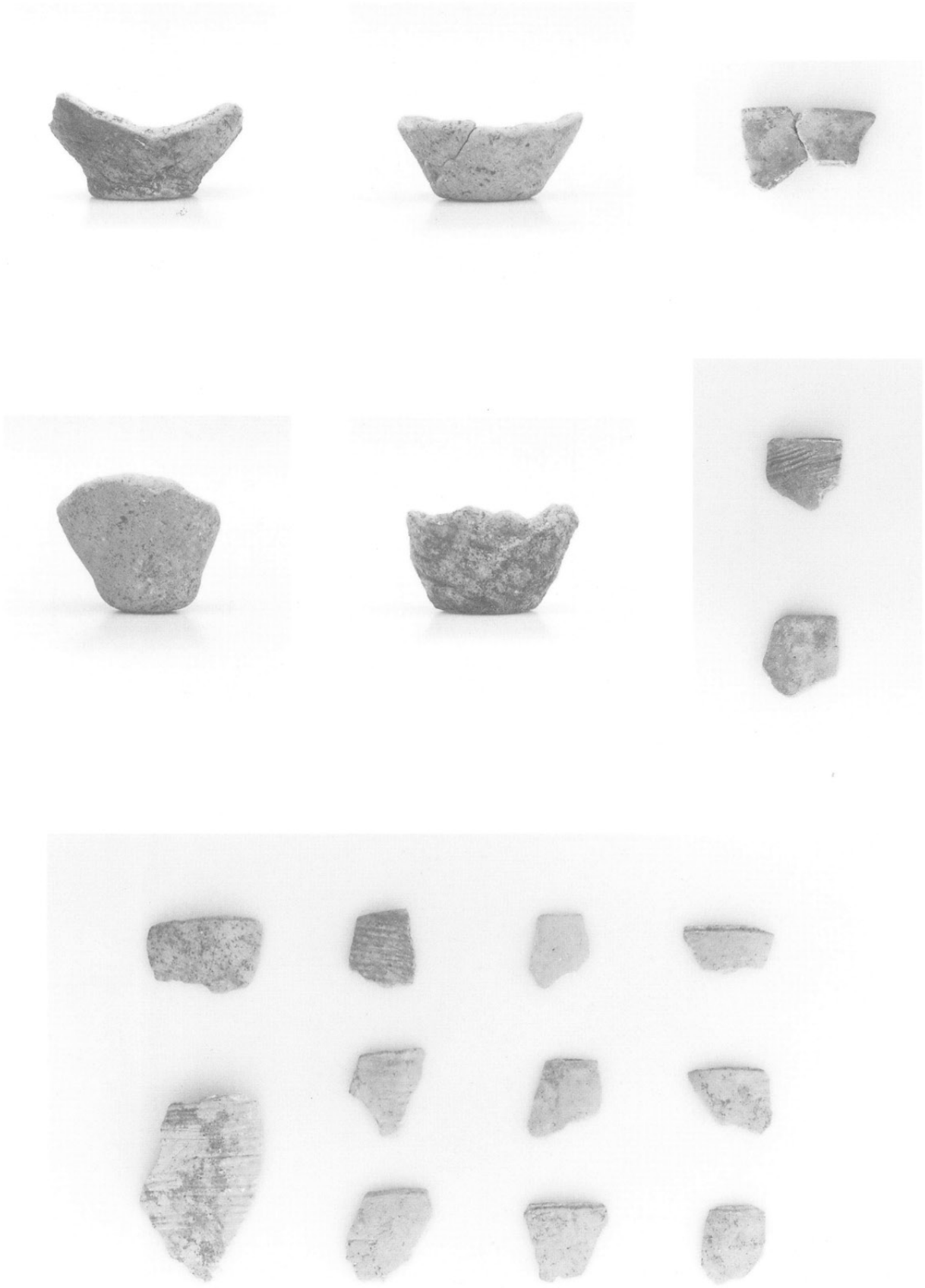
田山東遺跡96-2区　トレンチ全景（北より）



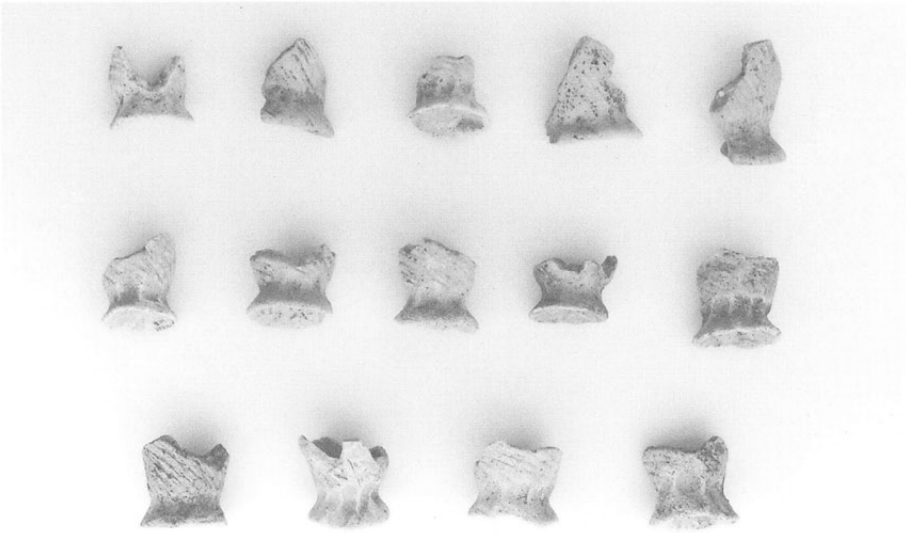


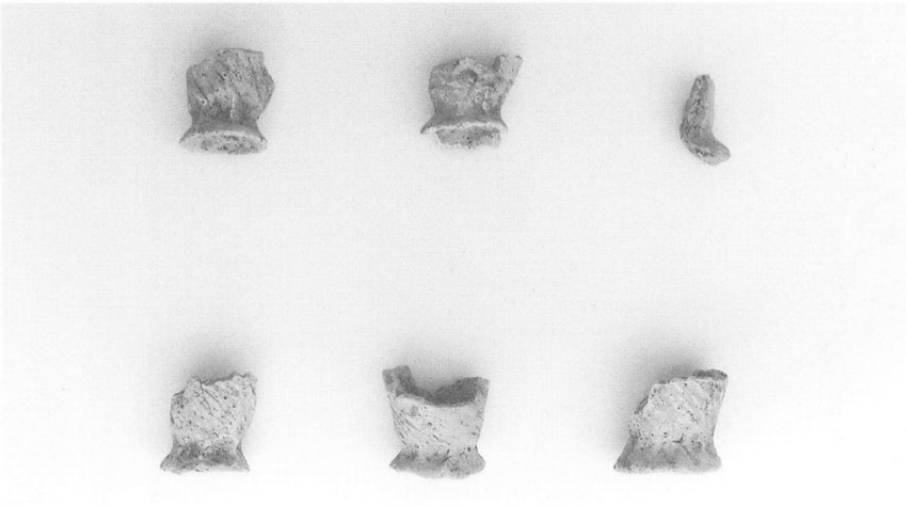


尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（その１）

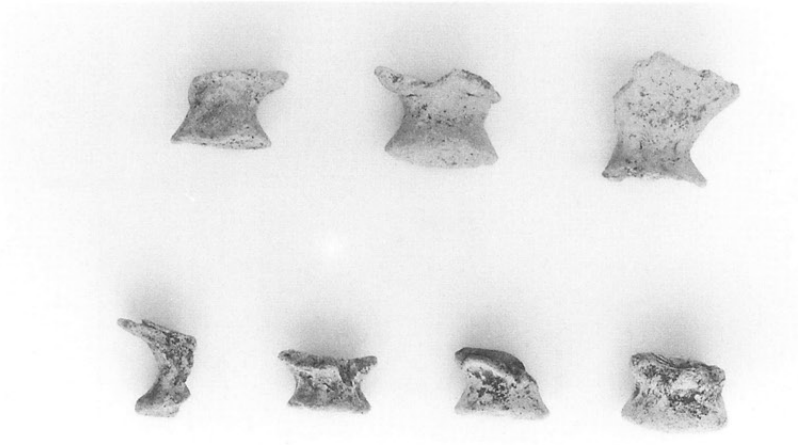


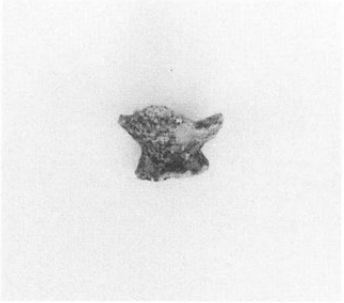
尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（その２）

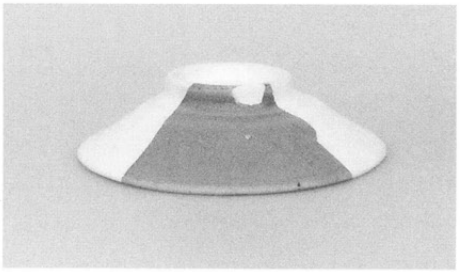




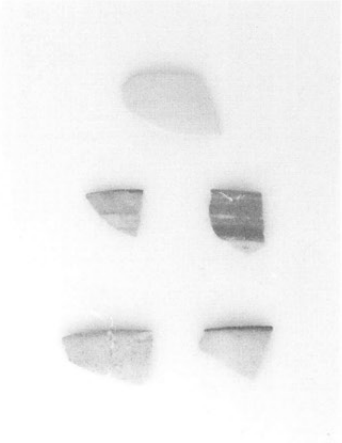
尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（その３）





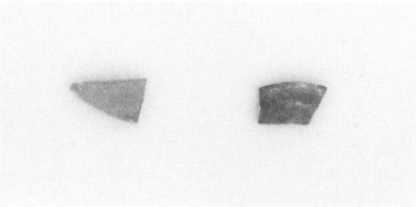


尾崎海岸遺跡90-1区　出土遺物（その４）



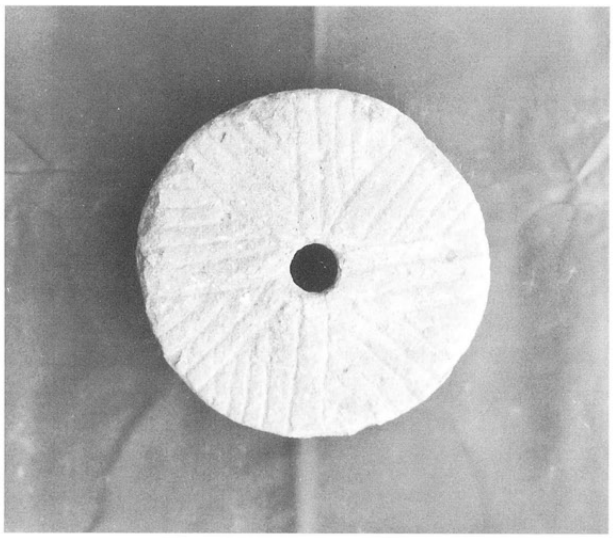
下出北遺跡96-1区　出土遺物

馬川北遺跡96-1区　出土遺物

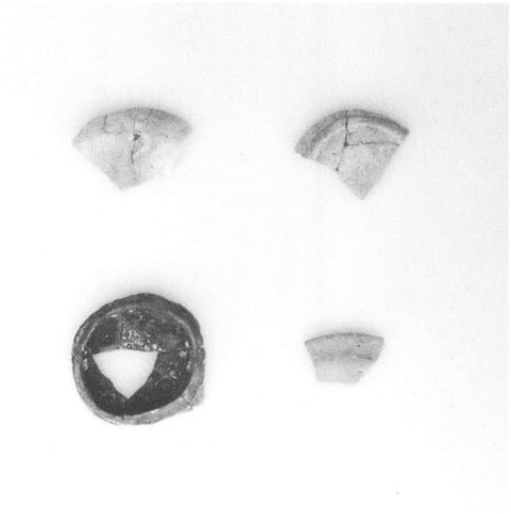


馬川遺跡96-2区　出土遺物

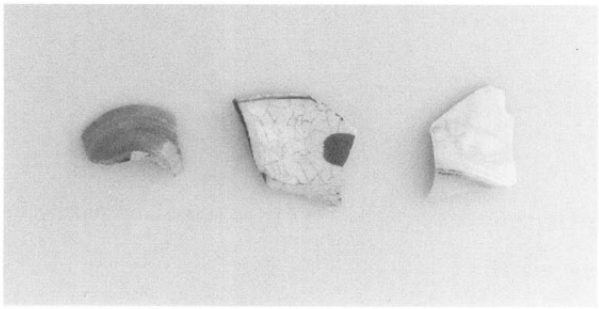
神光寺（蓮池）遺跡96-2区　出土遺物



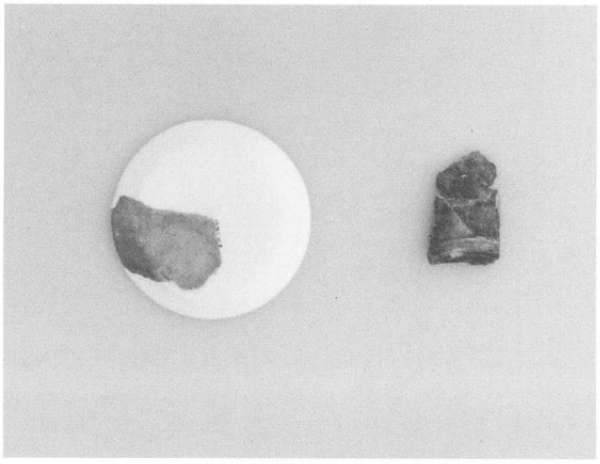
馬川遺跡96-3区　出土遺物



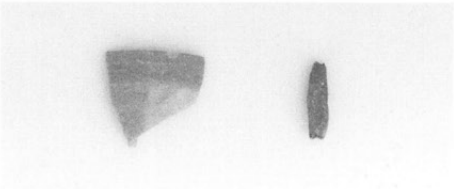
神光寺（蓮池）遺跡96-5区　出土遺物



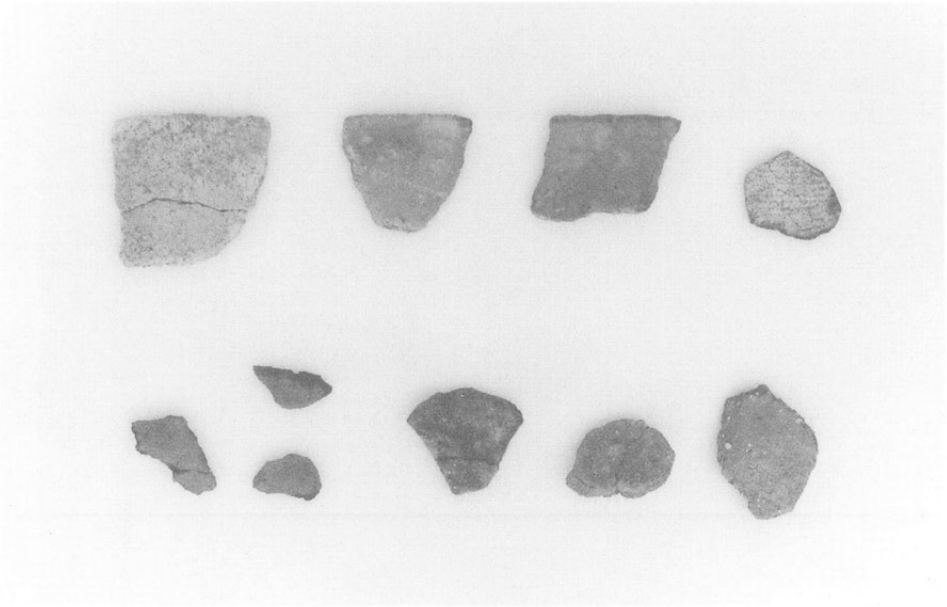
自然田遺跡96-3区　出土遺物



神光寺（蓮池）遺跡96-5区　出土遺物

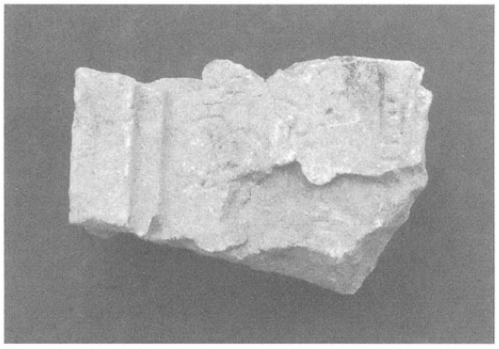


鳥取北遺跡96-1区　出土遺物

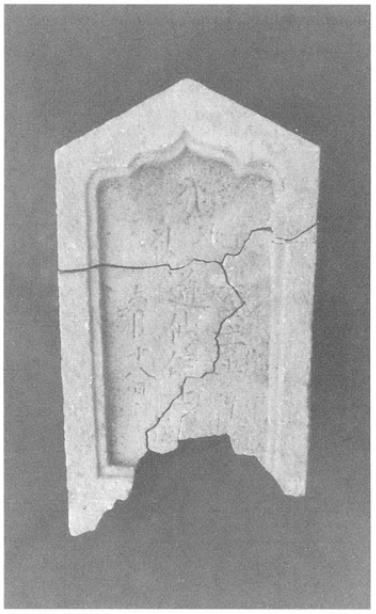


向出遺跡96-2区　出土遺物

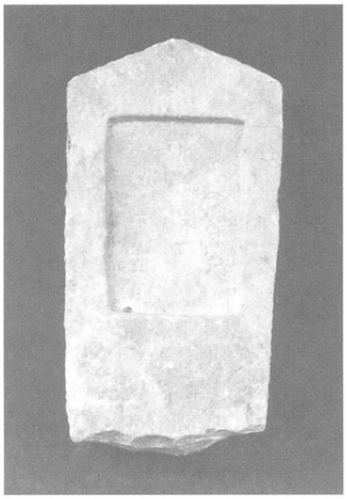
箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

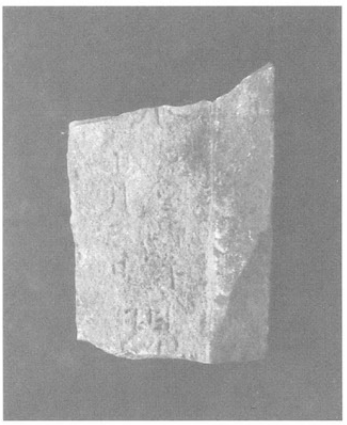


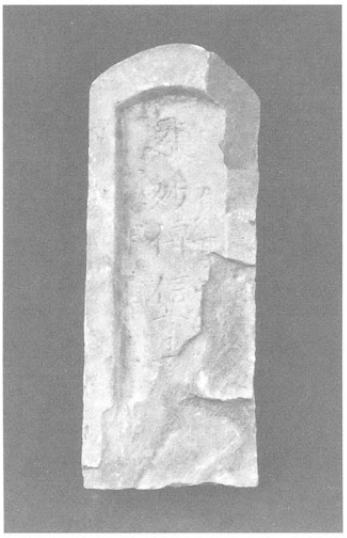
箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

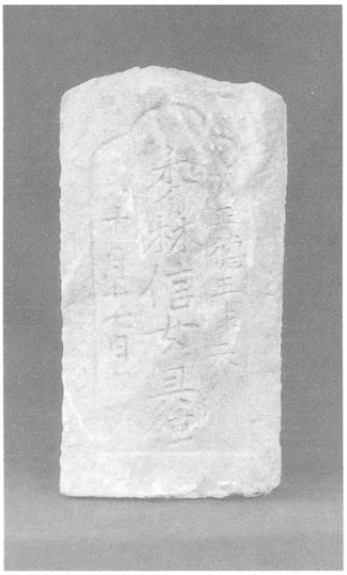


箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

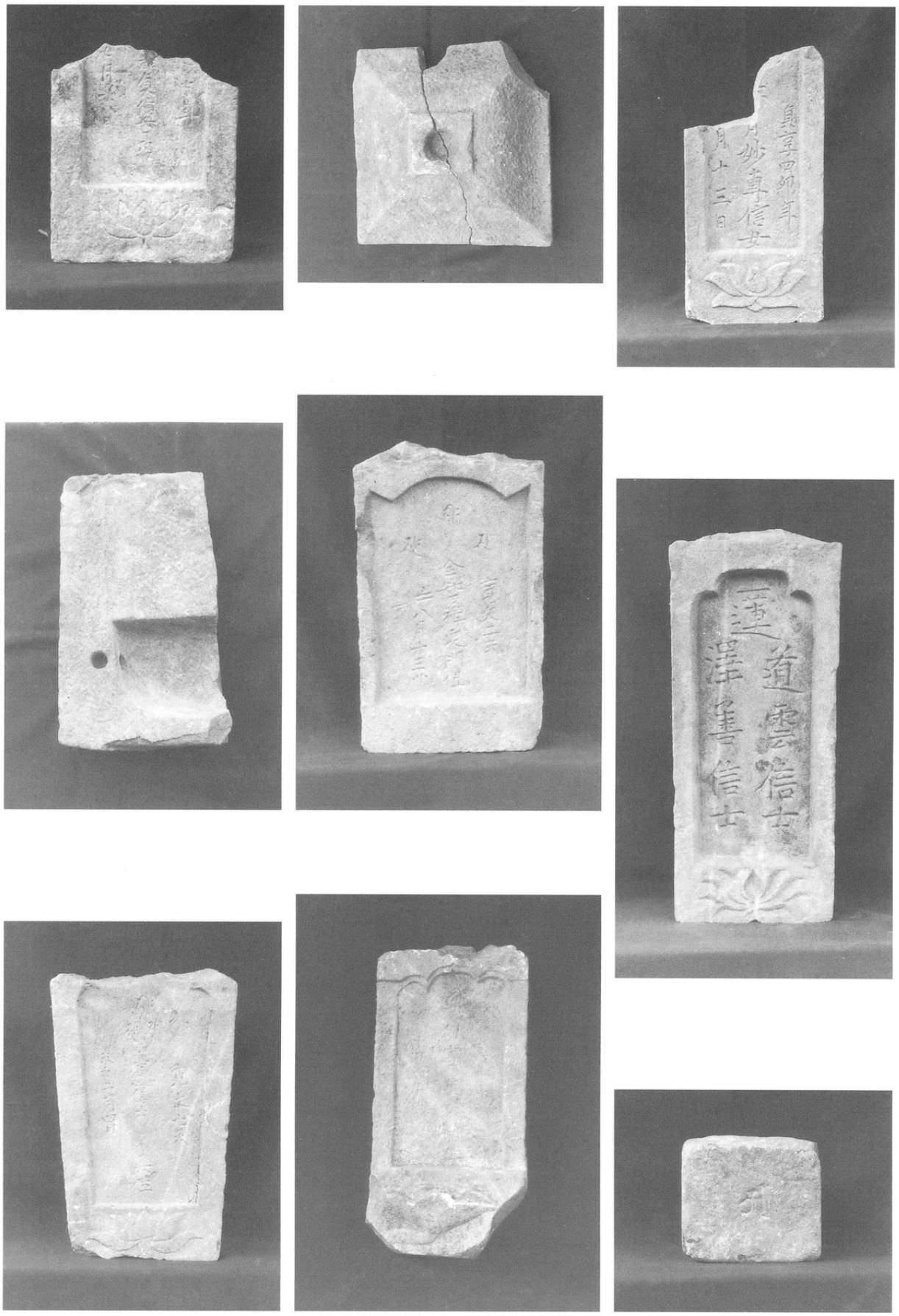




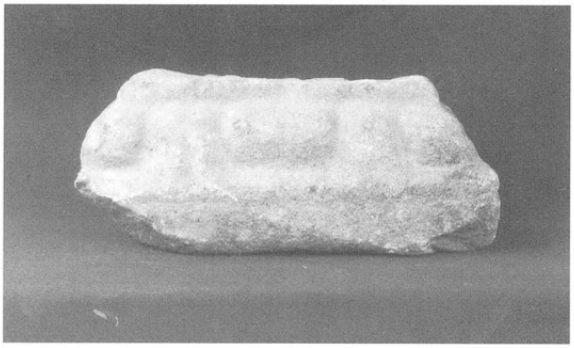


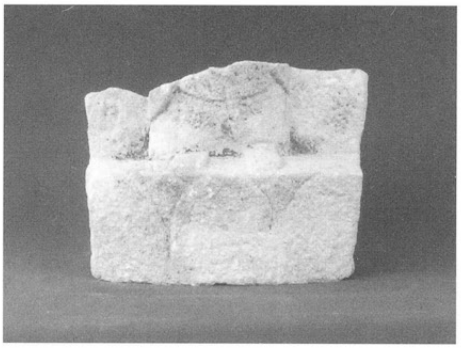


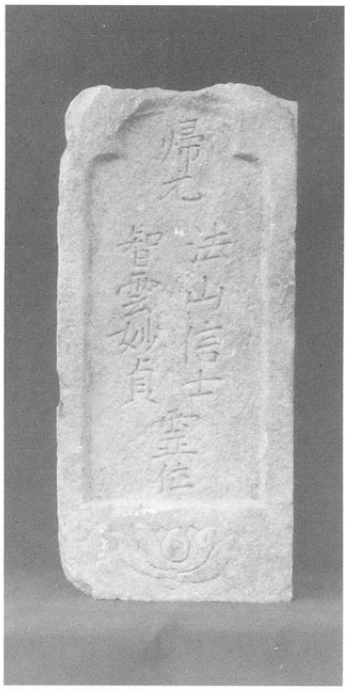
箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

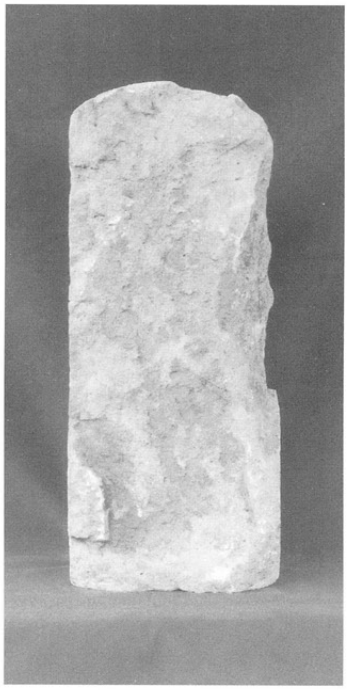


箱作今池遺跡95-21区　出土遺物







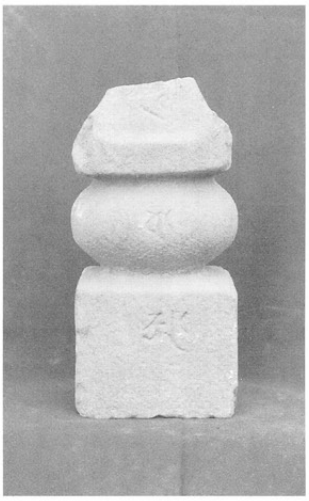


箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

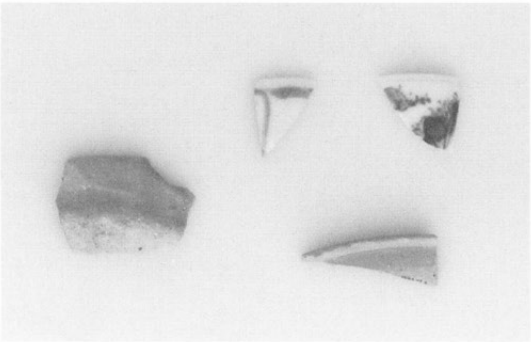
箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

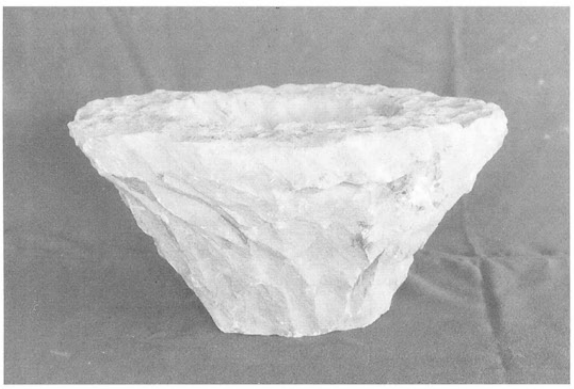
箱作今池遺跡95-21区　出土遺物

箱作今池遺跡95-21区　採集遺物


箱作今池遺跡95-21区　採集遺物

箱作今池遺跡95-21区　採集遺物


箱作今池遺跡96-6区　出土遺物


田山東遺跡96-1区　出土遺物

田山東遺跡96-2区　出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告XXII

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要XII

１９９７年３月

発　行：阪南市教育委員会社会教育課
大阪府阪南市尾崎町35の１

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町５丁目54